

## II. 評定尺度調査の分析結果

### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による4段階評価である。本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4~1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離（つまり1の間隔）だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取ることは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の1つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかほどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示する。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表2-1）。以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差も大きく出る可能性があるので、注意が必要である。たとえば、学部の年齢階層別「19歳以下」、職業別「農業等」「他大学等の学生」、大学院の年齢階層別「20~29歳」等の場合である。なお、大学院の職業別「農業等」「他大学の学生」は極端に回答者数が少ないので、本報告書の分析からはずした。

表2-1 回答者数一覧

【学部】		【大学院】	
全体	(単位：人)	全体	(単位：人)
メディア	年齢階層	メディア	年齢階層
テレビ科目 (TV)	2,952	19歳以下	23
ラジオ科目 (R)	2,405	20～29歳	416
職業	30～39歳	728	
公務員等	438	40～49歳	1131
教員	263	50～59歳	1046
会社員	976	60～69歳	1349
個人営業・自営業	353	70歳以上	639
農業等	49	コース	
看護師等	607	基礎科目	334
家事専業	430	共通科目：人文系	117
パート・アルバイト	520	共通科目：自然系	313
他大学等の学生	27	共通科目：外国語	174
無職	1,343	生活と福祉	715
その他	261	心理と教育	851
		社会と産業	647
		人間と文化	747
		情報	531
		自然と環境	314
		総合科目	530
		夏季集中科目	84

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

## II-1. 学部の分析結果

### II-1-1. 項目平均から見た全体的傾向

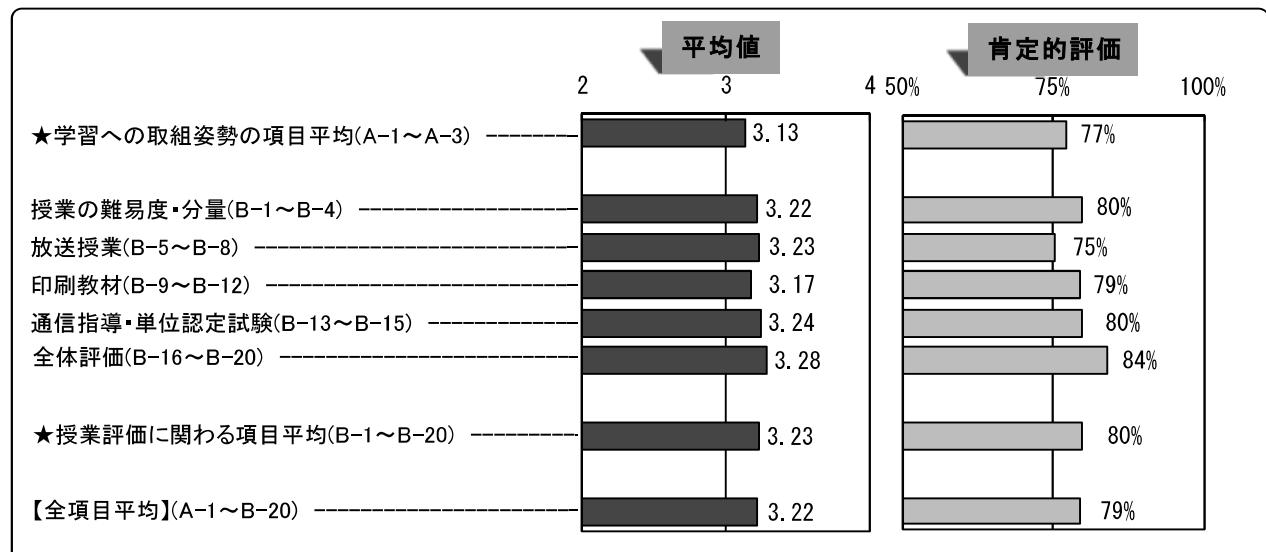
学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図2-1である。まずはこの図によって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

今回の調査における項目平均は、いずれもまずまずの高評価と言える。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.13、肯定的評価（「あてはまる」 + 「ややあてはまる」）77%、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.23、肯定的評価 80%と高い値を示している。

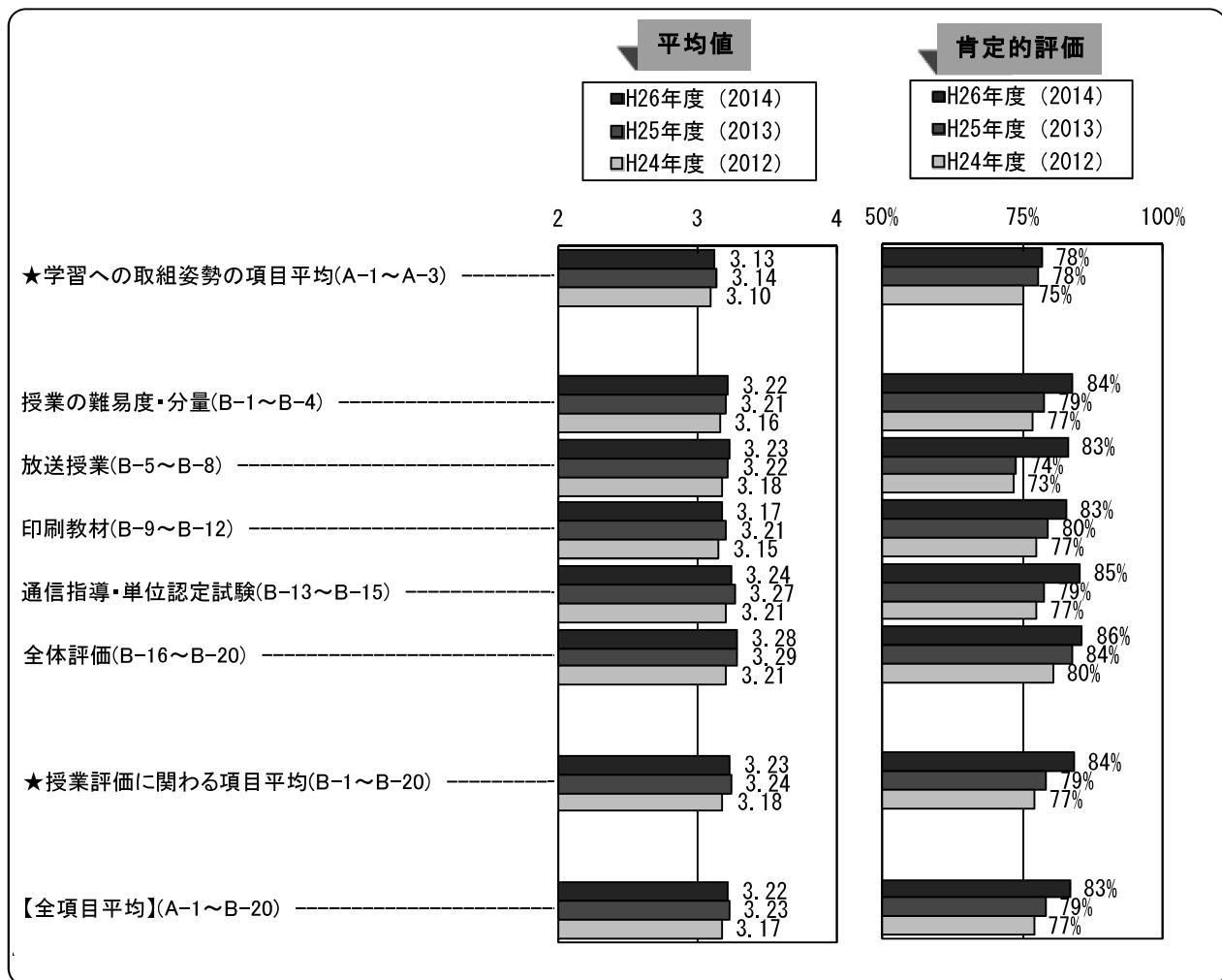
『授業評価に関わる項目平均』をさらに内容ごとにみると、『全体評価』は肯定的評価をしている人が 84%と高い。その他の項目もある程度の水準であるが、『放送授業』の評価は 75% と相対的に低めである。

図2-1 【学部】項目平均による全体的傾向



評価項目平均を科目の開設年度で比較した時(図2-2)、2014年度新規開設科目は、2013年度新規開設科目に比べ、平均値ではほぼ同じ水準を維持しているが、肯定的評価の割合は授業評価に関わる項目の全てにおいて高くなっている。

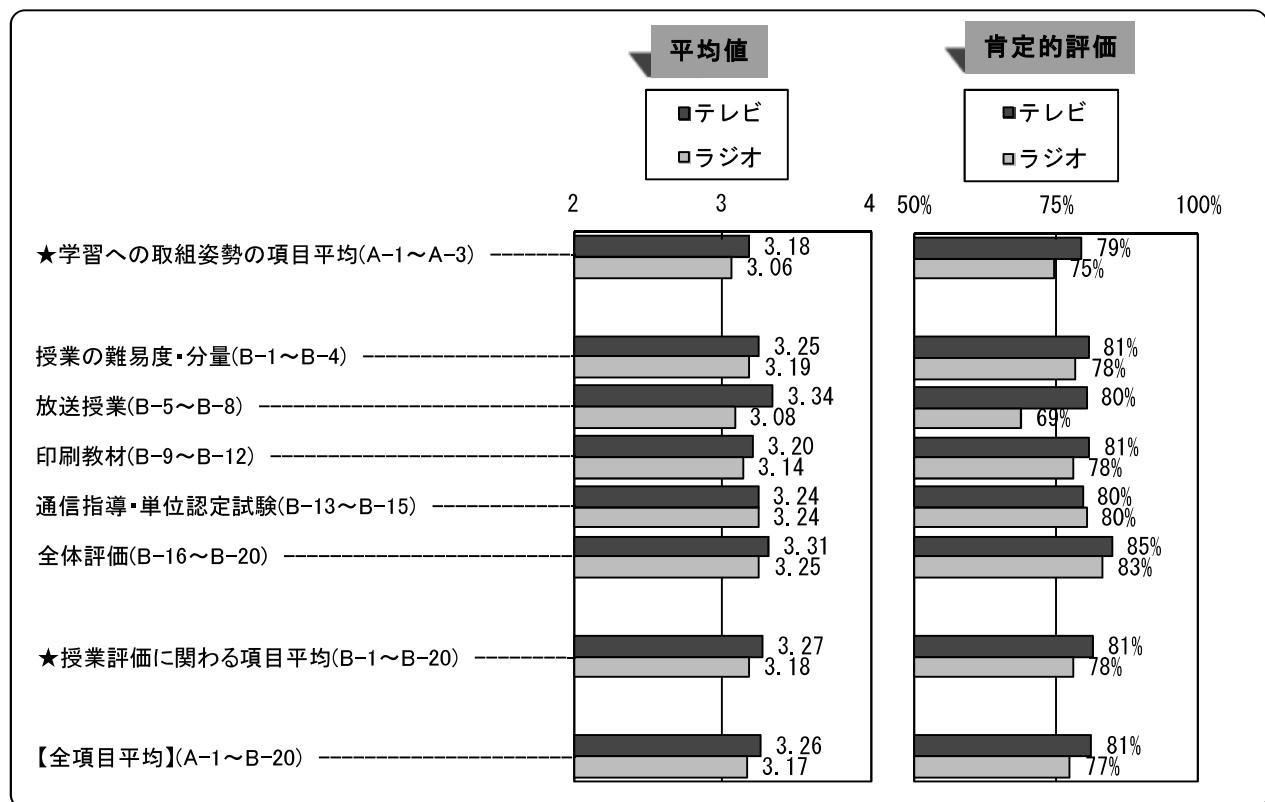
図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向(開設年度比較)



メディア別に2014年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると(図2-3)、『全体評価』は、ほぼ同じ値であり、『通信指導・単位認定試験』の項目を除き、テレビ科目がラジオ科目を上回っている。

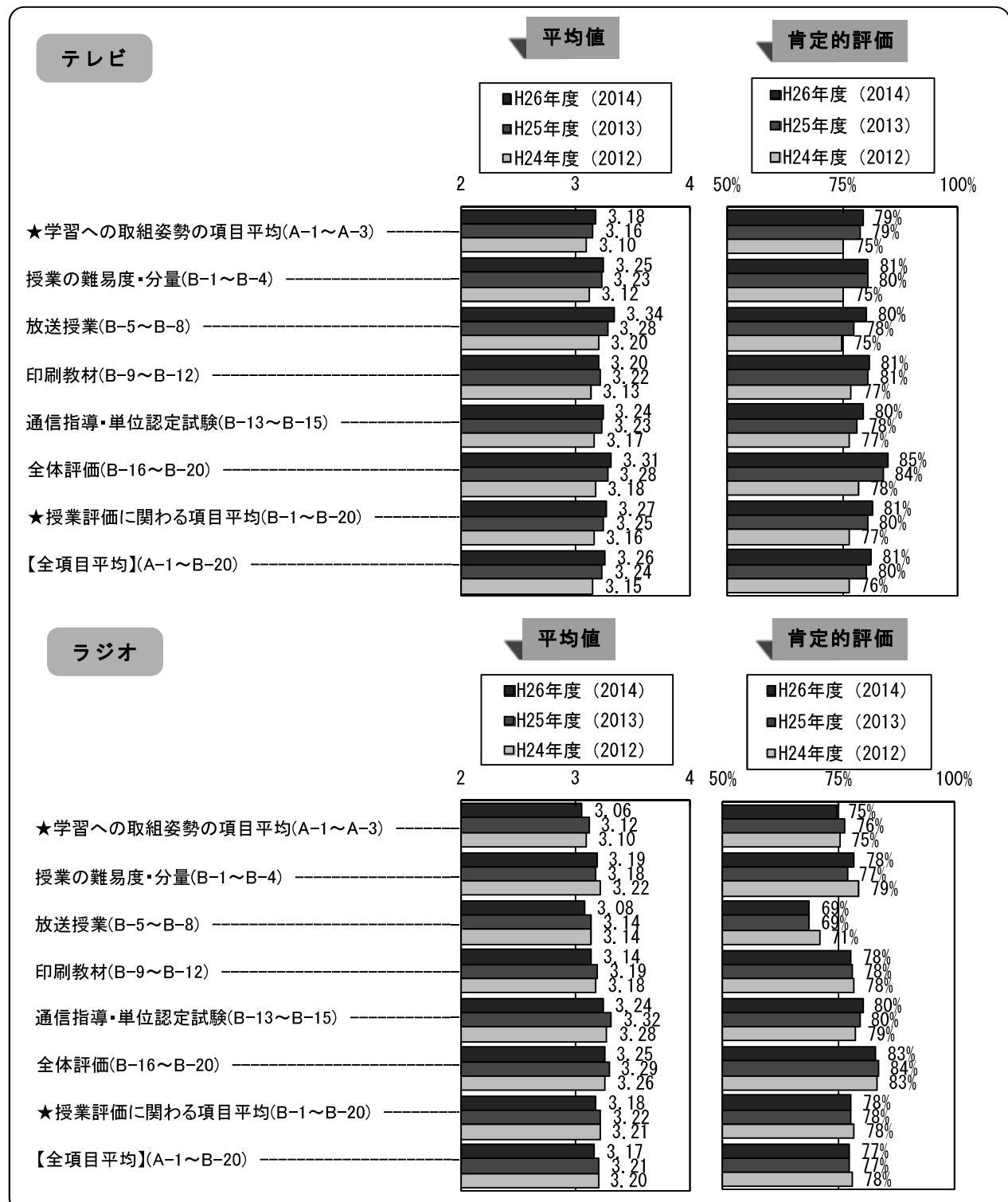
肯定的評価についても、平均値の結果をそのまま反映している。

図2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



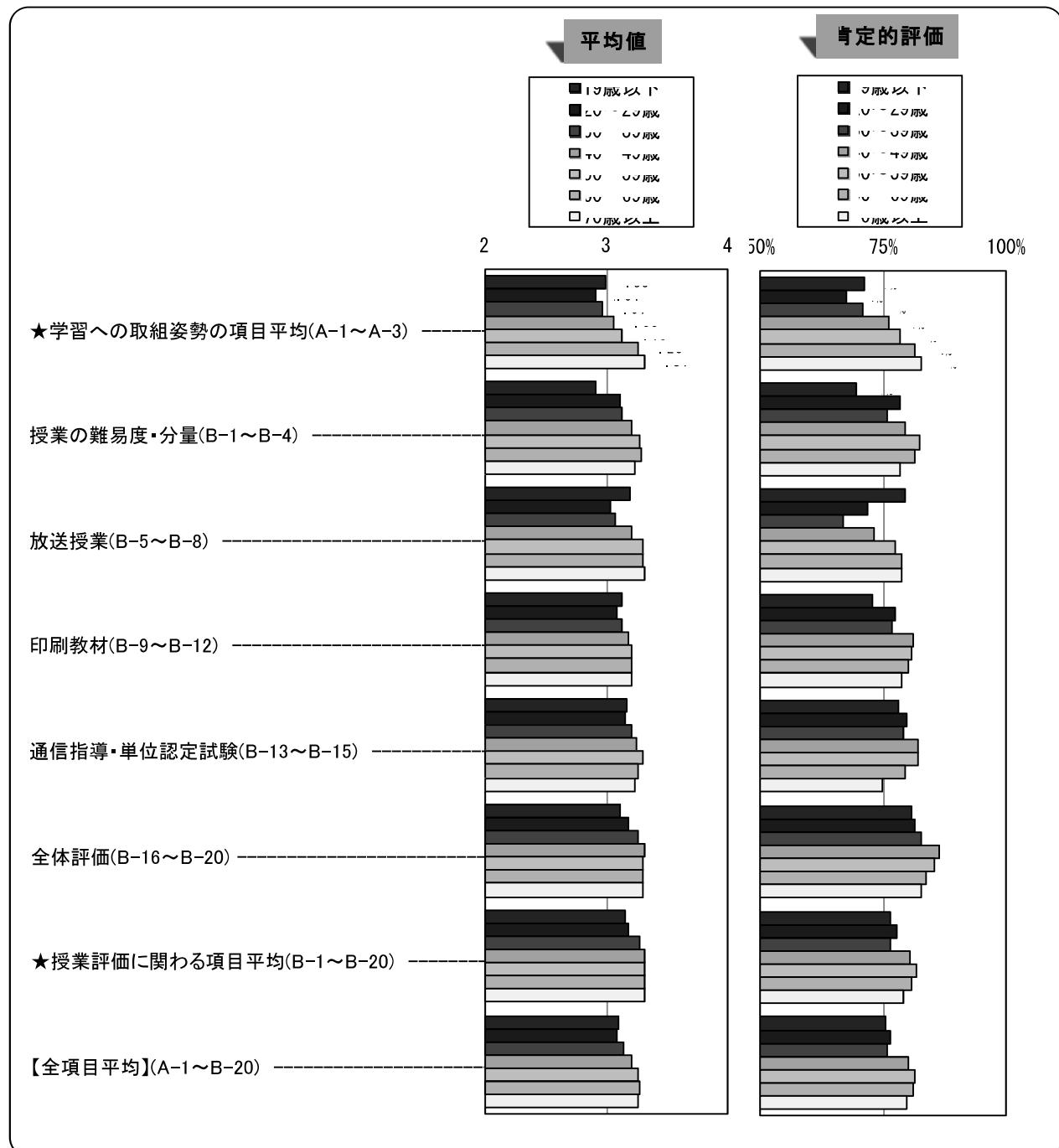
次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると(図2-4)、テレビ科目は、「印刷教材」以外の項目平均で2013年度より若干高い値となっている。数値的に最も改善が見られたのは放送授業の項目だが、その他は微々たる上昇に留まっている。ラジオ科目においては、ほとんどの項目平均で昨年度の水準を下回っている。従つてラジオ科目において特に改善の必要性が求められる。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向(開設年度比較)



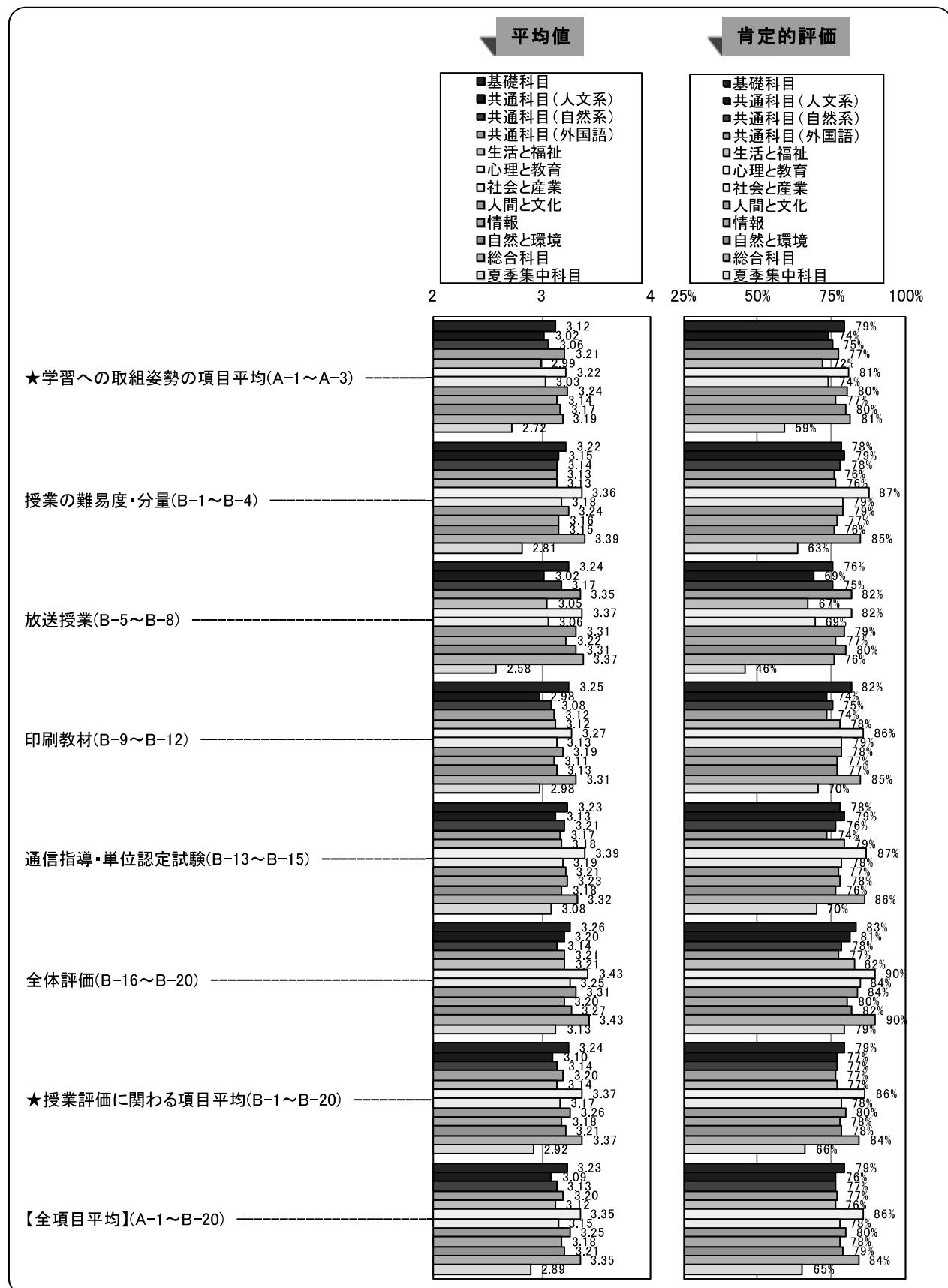
回答者の年齢階層別に2014年度新規開設科目の項目平均を見ると(図2-5)、「学習への取組姿勢」においては年齢層が高くなるほど評価平均が高い。また、50歳以上の年齢層ではほとんどの項目で相対的に高い水準の評価である。

図2-5 【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属コース別に項目平均を見ると（次頁図2－6）、全ての項目において「夏季集中科目」の評価が低く、改善が求められる。また、ほぼ全ての項目で「心理と教育」が高い評価である。「夏季集中科目」を除けば、どの科目も一定の評価は得ているが、『放送授業の項目の項目平均』において「共通科目：人文系」「生活と福祉」「社会と産業」の評価が低い。この3科目では『学習への取組姿勢の項目平均』でも低い水準にあり、改善が求められる。

図2-6 【学部】項目平均による所属コース別全体的傾向

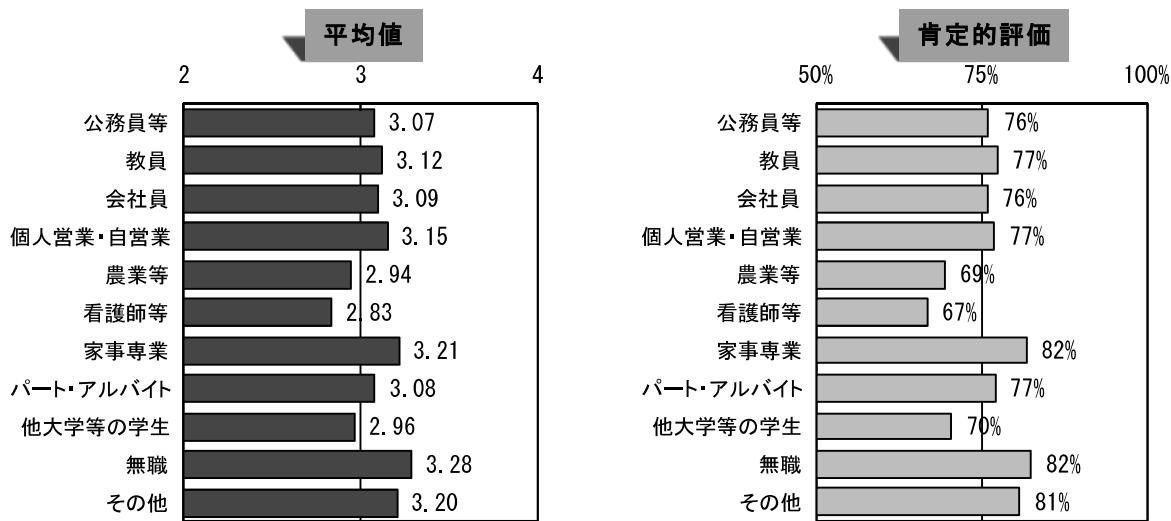


回答者を職業別に見ると（次頁図2－7）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、「無職」が高い値となっているが、「農業等」「看護師等」「他大学等の学生」は低い値となっている。

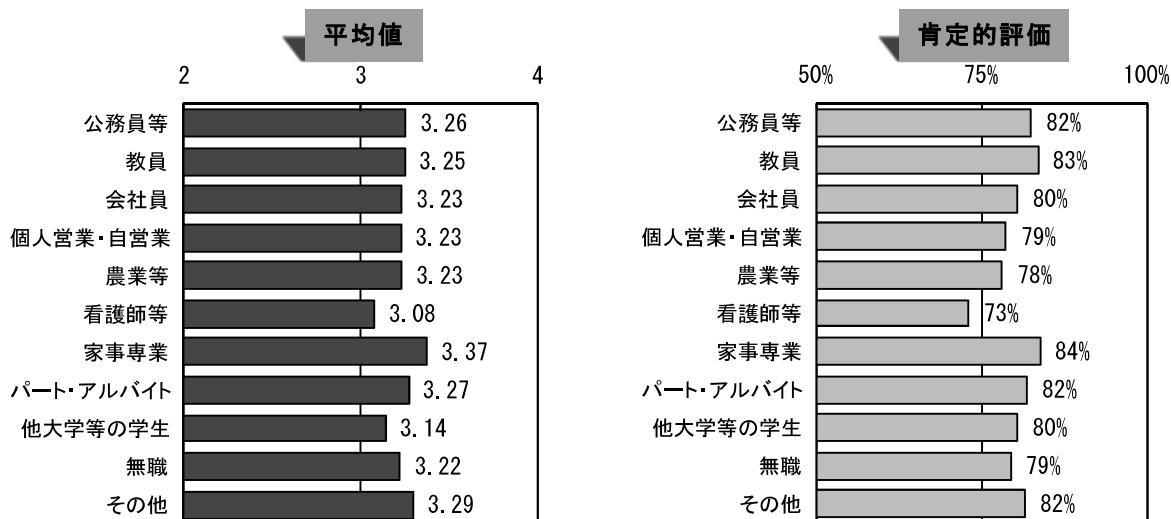
『授業評価に関する項目平均』、『全項目平均』では、「家事専業」が高い値となっている。さらに肯定的評価を見ると、いずれの項目でも「家事専業」の評価が高く、「看護師等」の評価が低い結果となっている。

図2-7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向

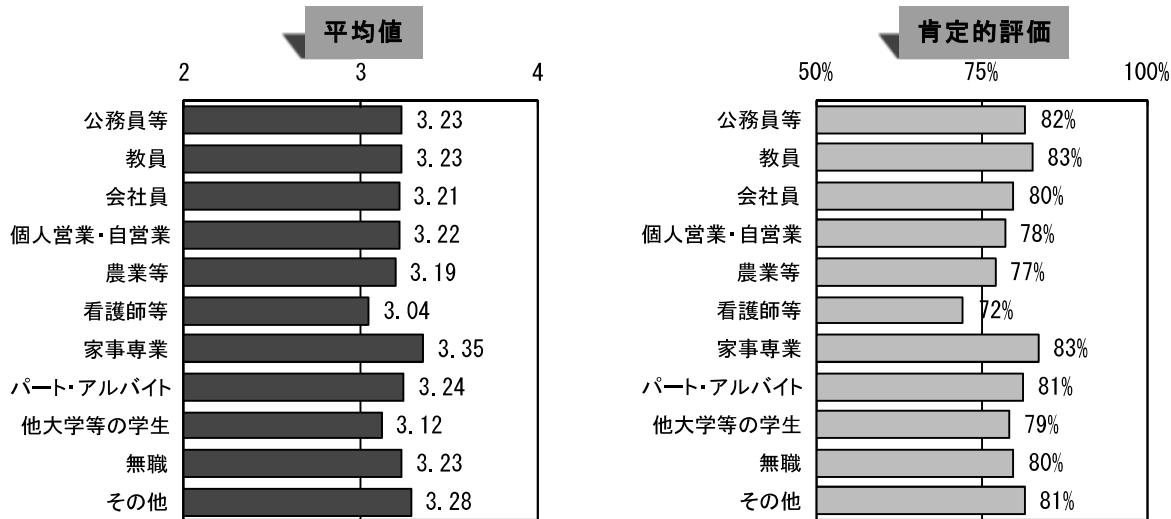
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)



【全項目平均】(A-1~B-20)

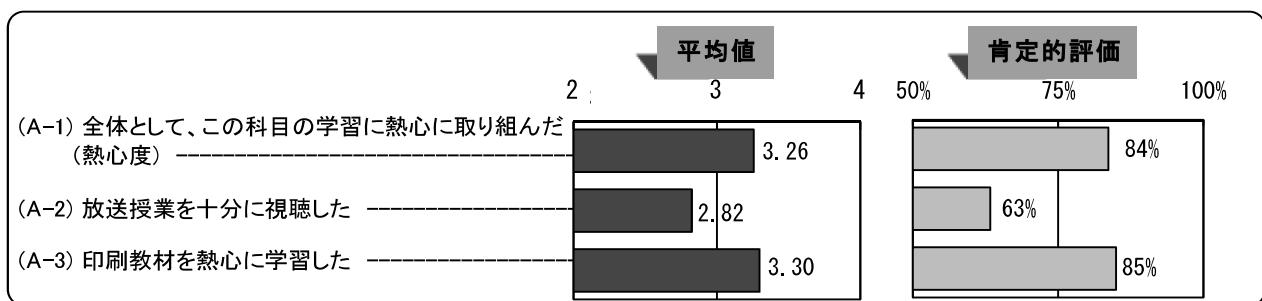


## II-1-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

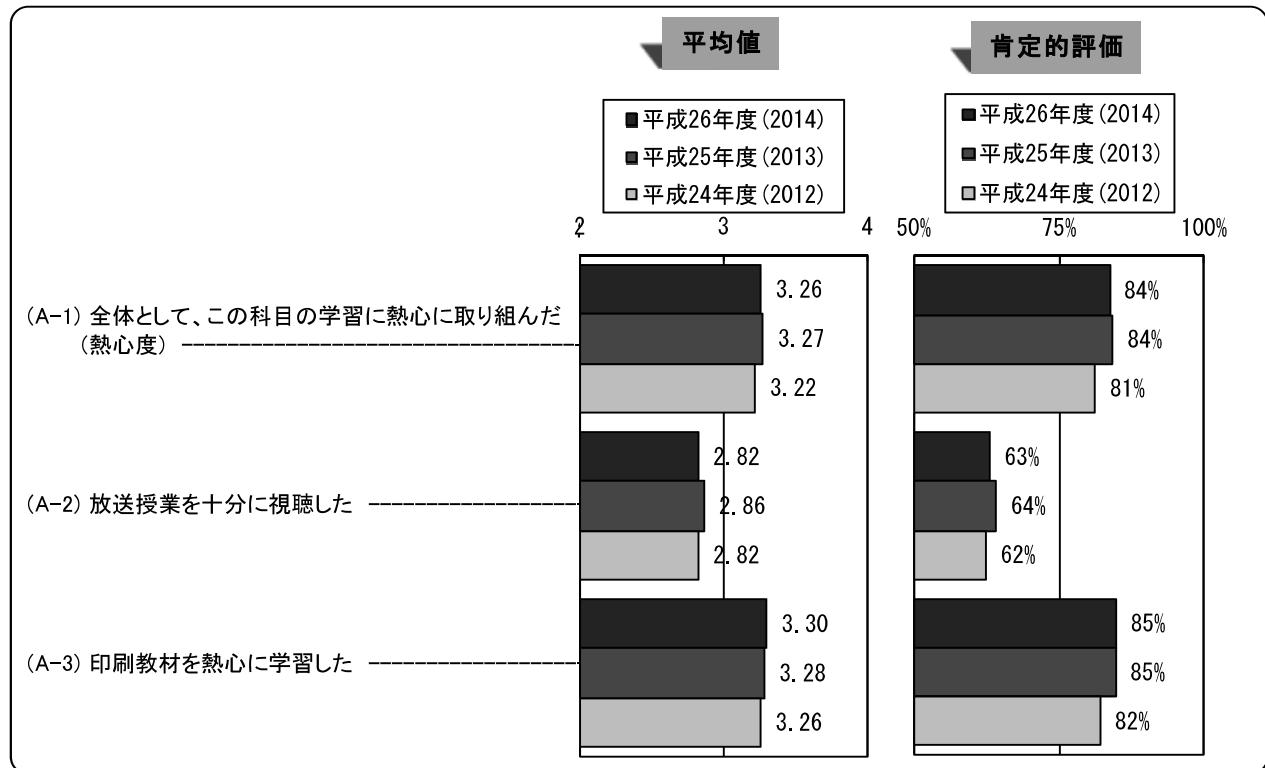
学習への取組姿勢（図2-8）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値3.26、肯定的評価84%と総じて熱心に学習されている。同様に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値3.30、肯定的評価85%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値2.82、肯定的評価63%と低く、学習は印刷教材中心という傾向になっている。

図2-8 【学部】回答者全体の取組姿勢



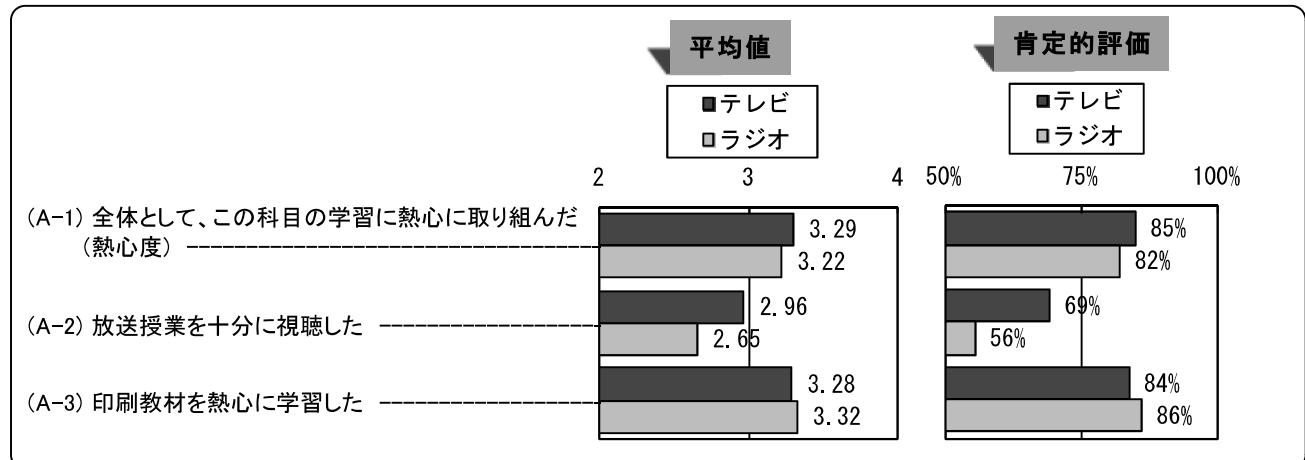
取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-9）、いずれの項目においても、平均値、肯定的評価ともに前回とほぼ同じ水準である。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は微増しているが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は低くなっている。それぞれの原因を追求し、今後も授業内容の改善を試みることにより取組姿勢も向上するものと考えられる。また、時間に制約がある放送授業ではインターネットなどでの番組提供を増やすことにより、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図2-9 【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



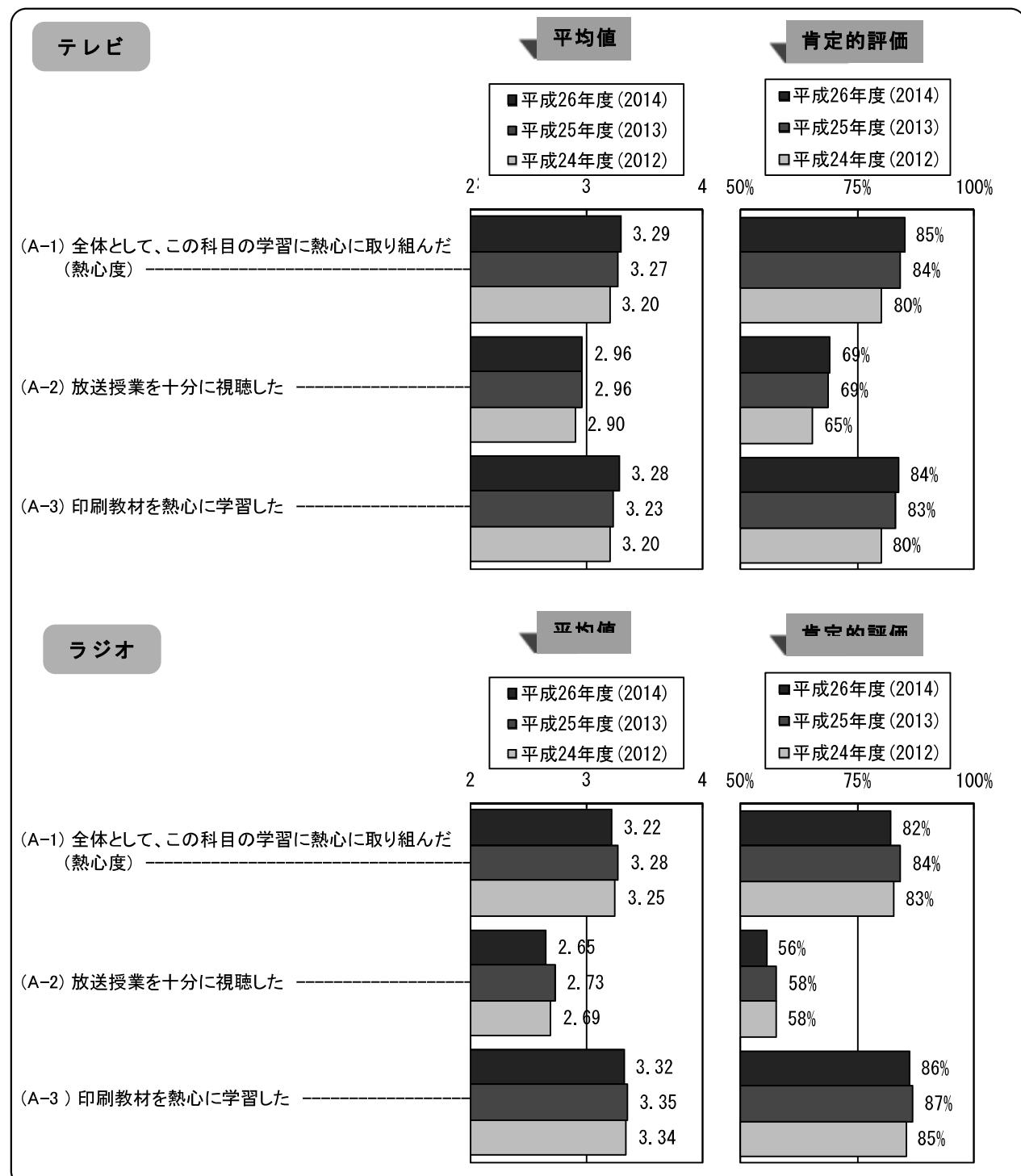
次にメディア別に取組姿勢を見ると（図2-10）、(A-1)「全体として、この科目の学習に取り組んだ」項目ではテレビ科目の方が高く、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」項目ではテレビ科目の方がラジオ科目を大きく上回る評価となっている。逆に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」という項目ではラジオ科目の方がテレビ科目より高い。

図2-10 【学部】メディア別の取組姿勢



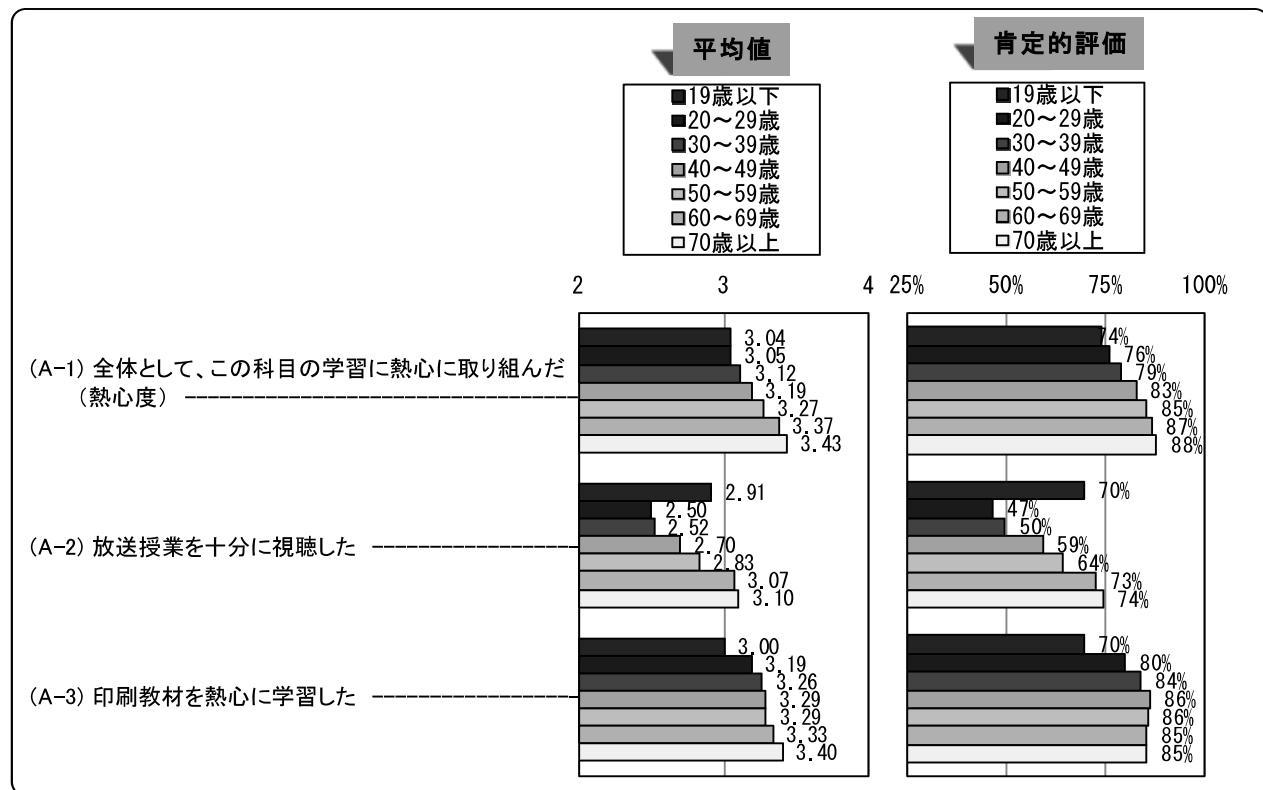
メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-1-1）、テレビ科目は、2013年度に比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の項目で上がっている。ラジオ科目については、いずれの項目においても僅かに下がっている。

図2-1-1 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取組姿勢を見ると（図2-12）、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」は、ほとんどの年齢階層で高く、それも年齢階層が上がるほど値が高くなっているのが特徴的である。（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は若年層になるほど低くなる傾向ではあるが、19歳以下の高い値になっている。

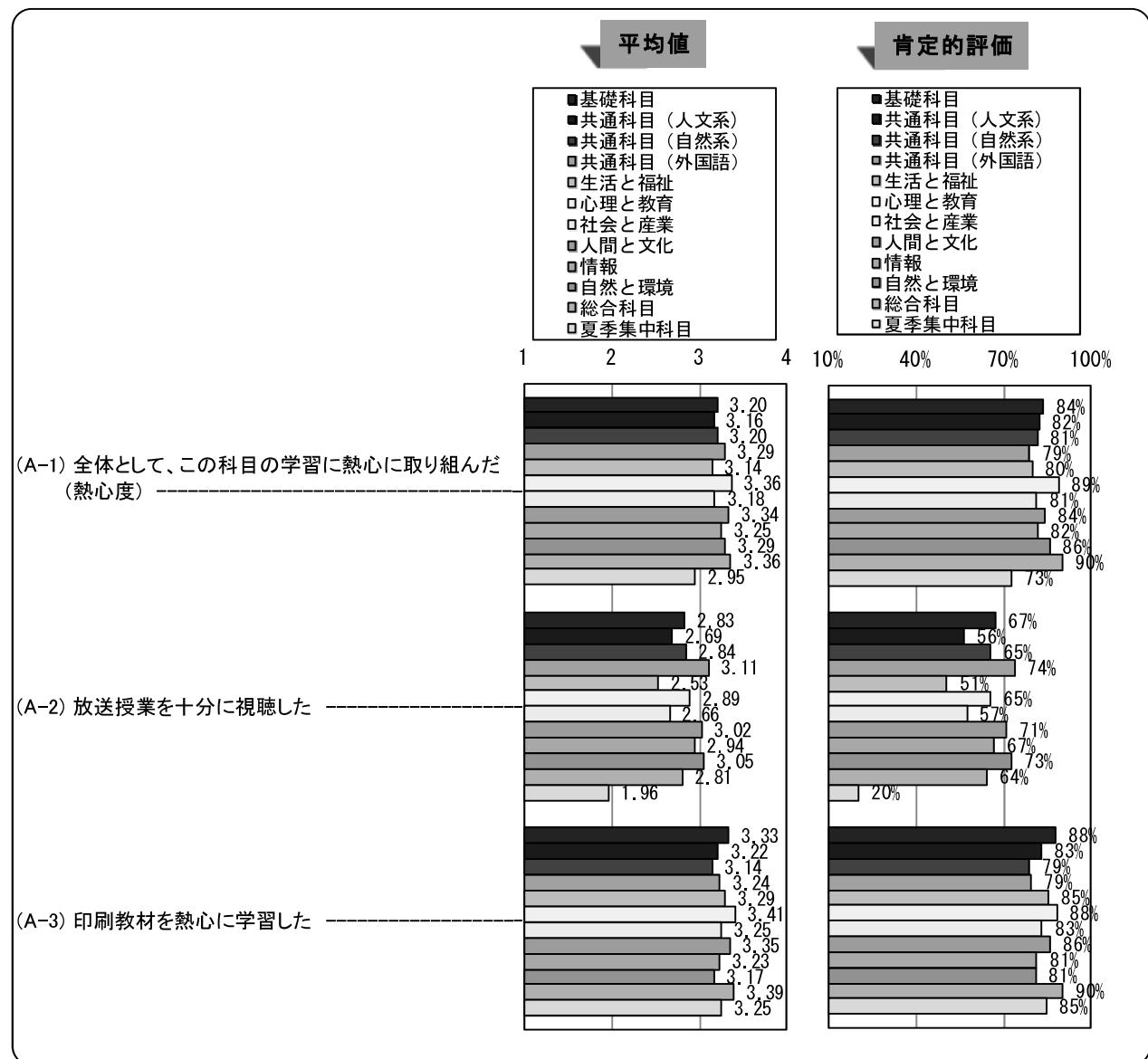
図2-12 【学部】年齢階層別の取組姿勢



所属コース別に取組姿勢を見ると(図2-13)、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「夏季集中科目」のみ値が極めて低くなっているが、放送授業の視聴を増加させる工夫が必要かと思われる。「夏季集中科目」に比べると高い値ではあるが、「共通科目：人文系」「生活と福祉」「社会と産業」も全体平均から見て低い科目である。「共通科目：外国語」「人間と文化」「自然と環境」はやや高い値にはなっているが、他の項目に比べるといずれも低い傾向となっている。

(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は全体的に高い値となっており、特に「心理と教育」「人間と文化」「総合科目」の値が高い。(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」では、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」と同様に「夏季集中科目」が顕著に低い値となっている。

図2-13【学部】所属コース別の取組姿勢



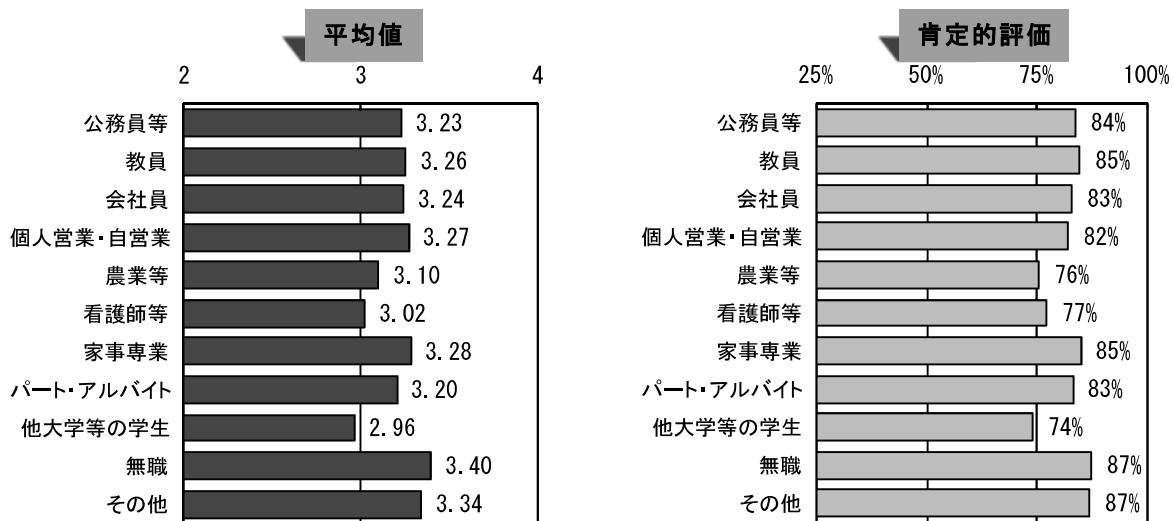
職業別に取組姿勢を見ると（次頁図2－14）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は、「他大学等の学生」の値が他の職業と比べ最も低く、「看護師等」「農業等」もやや低い値となっている。その他の職業は全体的に値が高い傾向にある。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も、全体的に高い値となっているが、「他大学等の学生」「農業等」の値が低い傾向にあるのは(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と同様である。

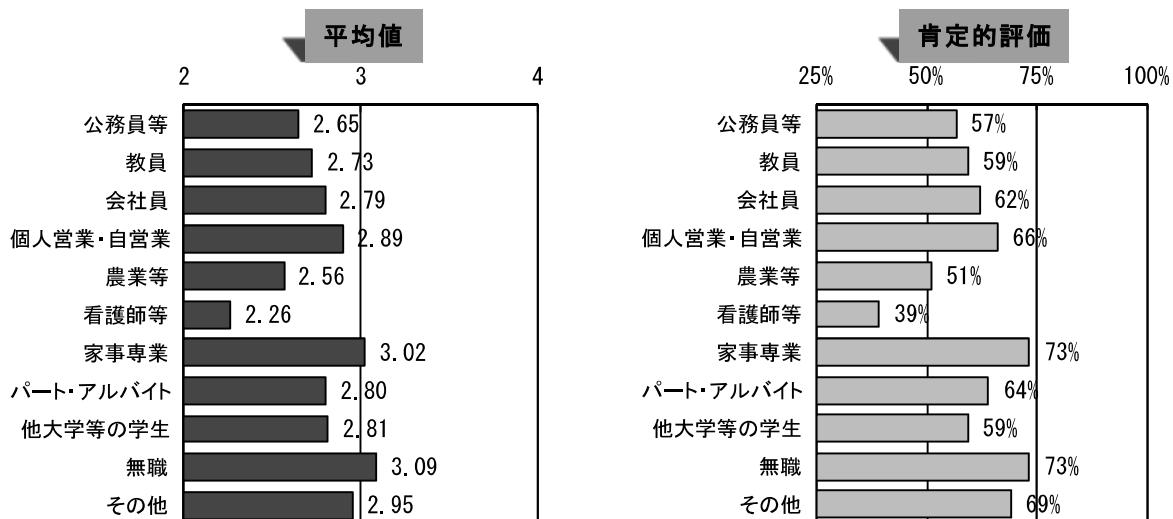
(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」に比べ、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の値が全体的に低いのは特徴的である。「看護師等」は値が極めて低いが、これは職業ならではの事情が背景にあると思われる。その他の職業も値が低い傾向にあるが、その背景には放送授業の改善を求める学生の声が隠れているのではないだろうか。

図2-14 【学部】職業別の取組姿勢

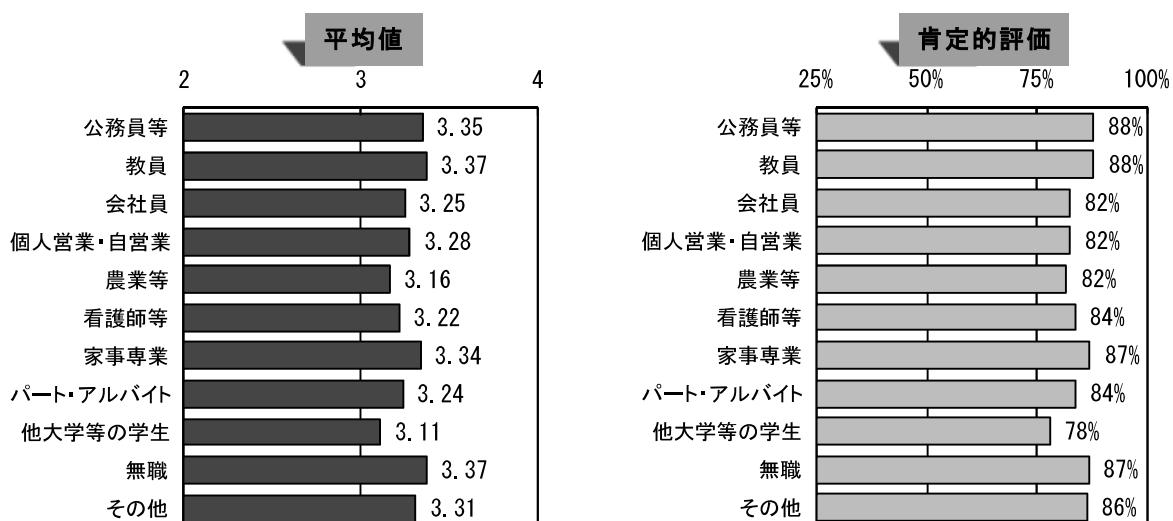
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した



(A-3) 印刷教材を熱心に学習した

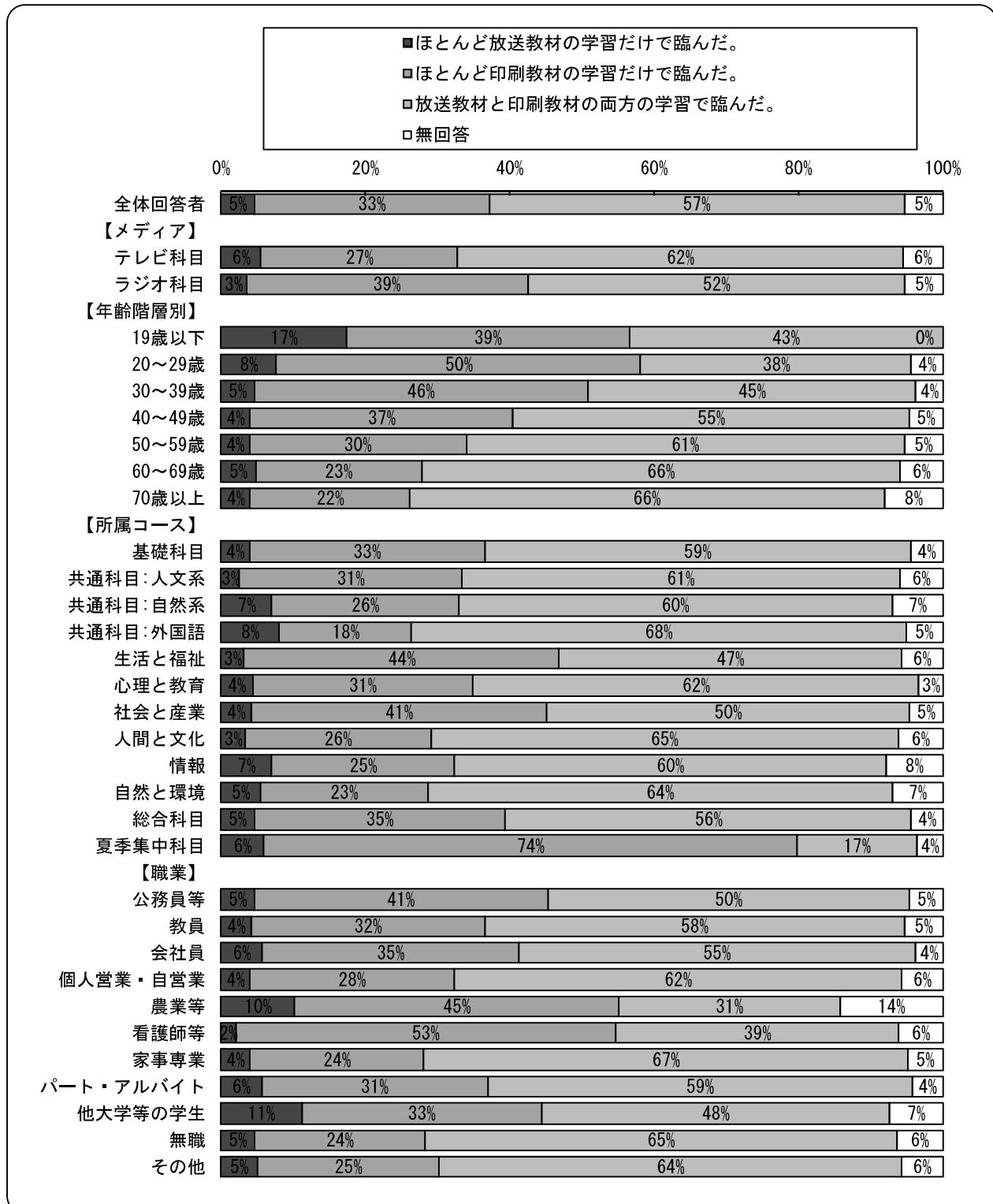


単位認定のための学習方法（次頁図2－15）は、全体では『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が57%を占めており、最も値が高い傾向にある。年齢階層別では高齢層になるほど値が高くなっているが、19歳以下に比べて20歳代が最も低い。所属コース別では値が全体的に高い傾向にあるが、「夏季集中科目」では突出して低い値になっており、「生活と福祉」「社会と産業」の低さも目立つ。職業別では「農業等」「看護師等」で低い値になっている。

次に『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』は全体で33%を占めており、メディア別では「テレビ科目」に比べて「ラジオ科目」が高い傾向にある。これは「ラジオ科目」の印刷教材への評価が高いとも受け取れる。所属コース別では「夏季集中科目」の値が極めて高く、『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』の「夏季集中科目」とは反比例している。

『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は全体で5%程度の割合であり、上記の傾向はすなわち学習における放送授業への依存度を示していると言えるが、職業別の結果を見ると、時間的制約のある学生は放送授業を受講しにくい事情が浮き彫りにされる。年齢階層別では19歳以下のみ他に比べて極めて値が高く、特徴的である。

図2-15【学部】単位認定のための学習方法



## II-1-3. 学部の授業評価

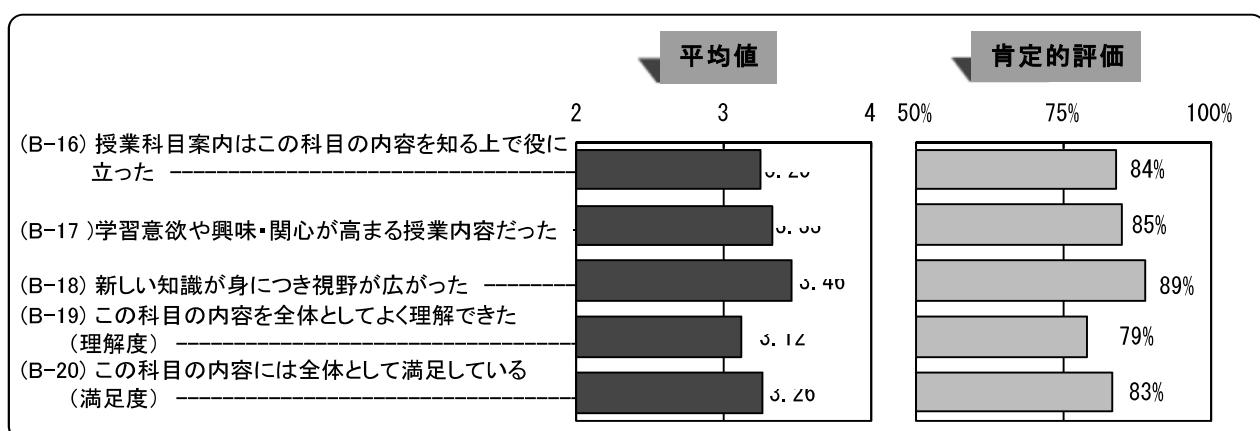
### (1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると(図2-16)、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」は平均値3.46、肯定的評価89%とかなり高い評価を得ている。また(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値3.33、肯定的評価85%と高くなっている。

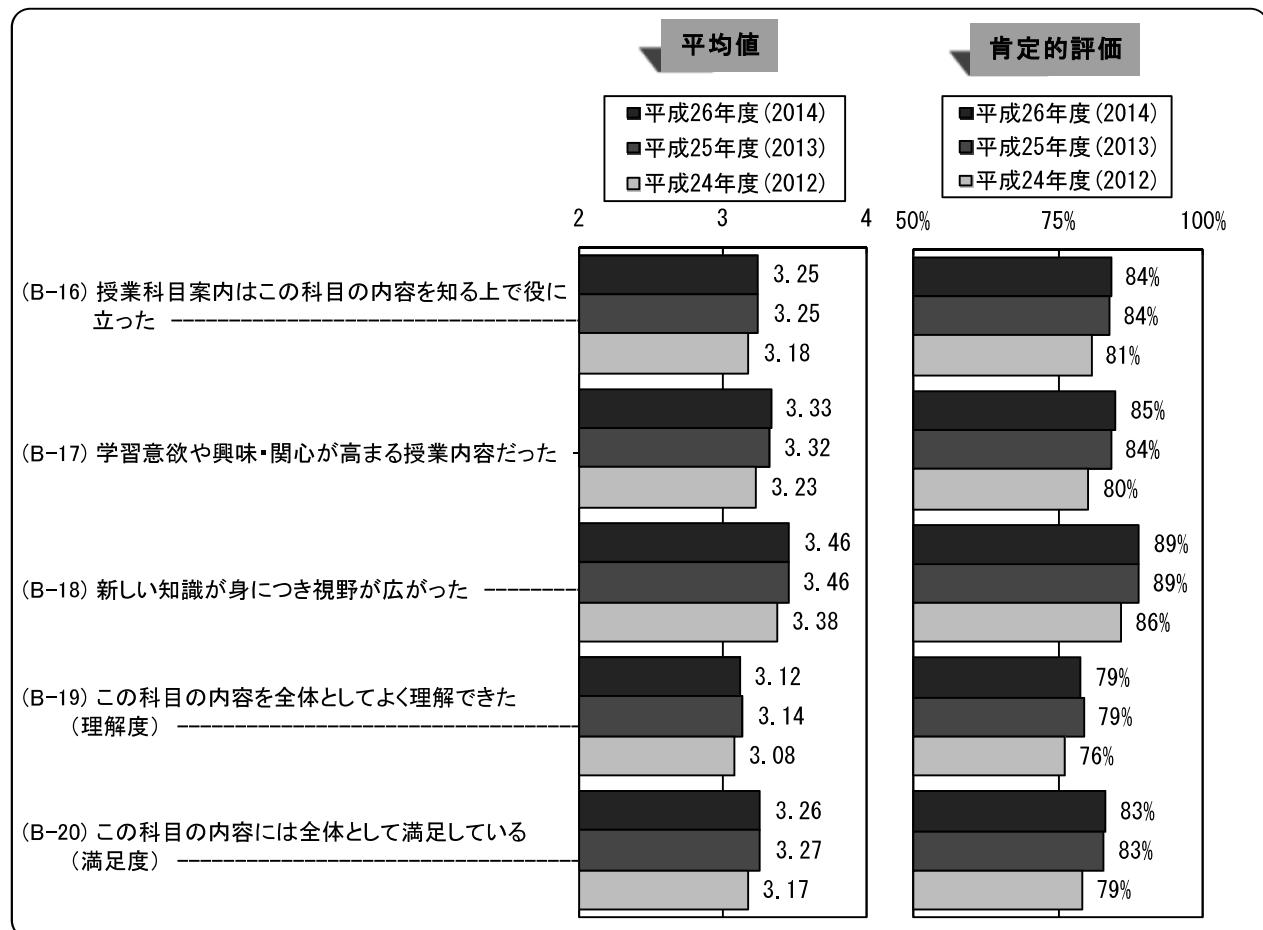
さらに(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も平均値3.26、肯定的評価83%、(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は平均値3.25、肯定的評価84%と、比較的高い評価と言える。ただ理解度については満足度に比べると値が低いため、内容をさらに詳しく説明・解説する必要性を感じられる。

図2-16 【学部】回答者全体の全体評価



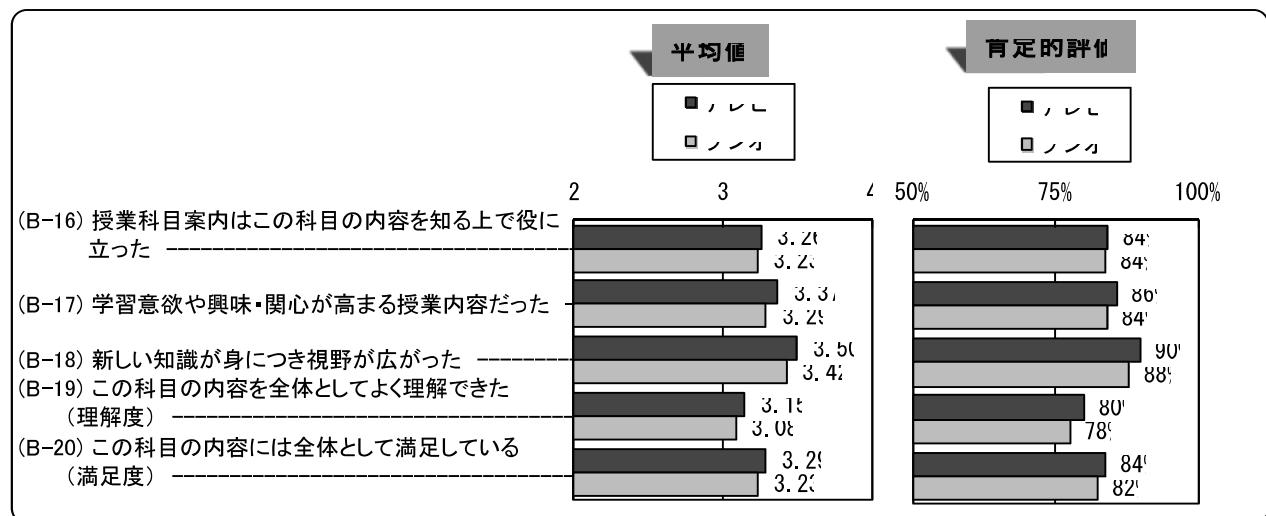
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、全体的に2013年度とほぼ同じ水準の高い値を維持している。理解度と満足度は2013年度と同じ値であるが、僅かに下がっているため、さらに興味や関心が高まり、分かりやすい授業を追求していかなければならない。

図2-17【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



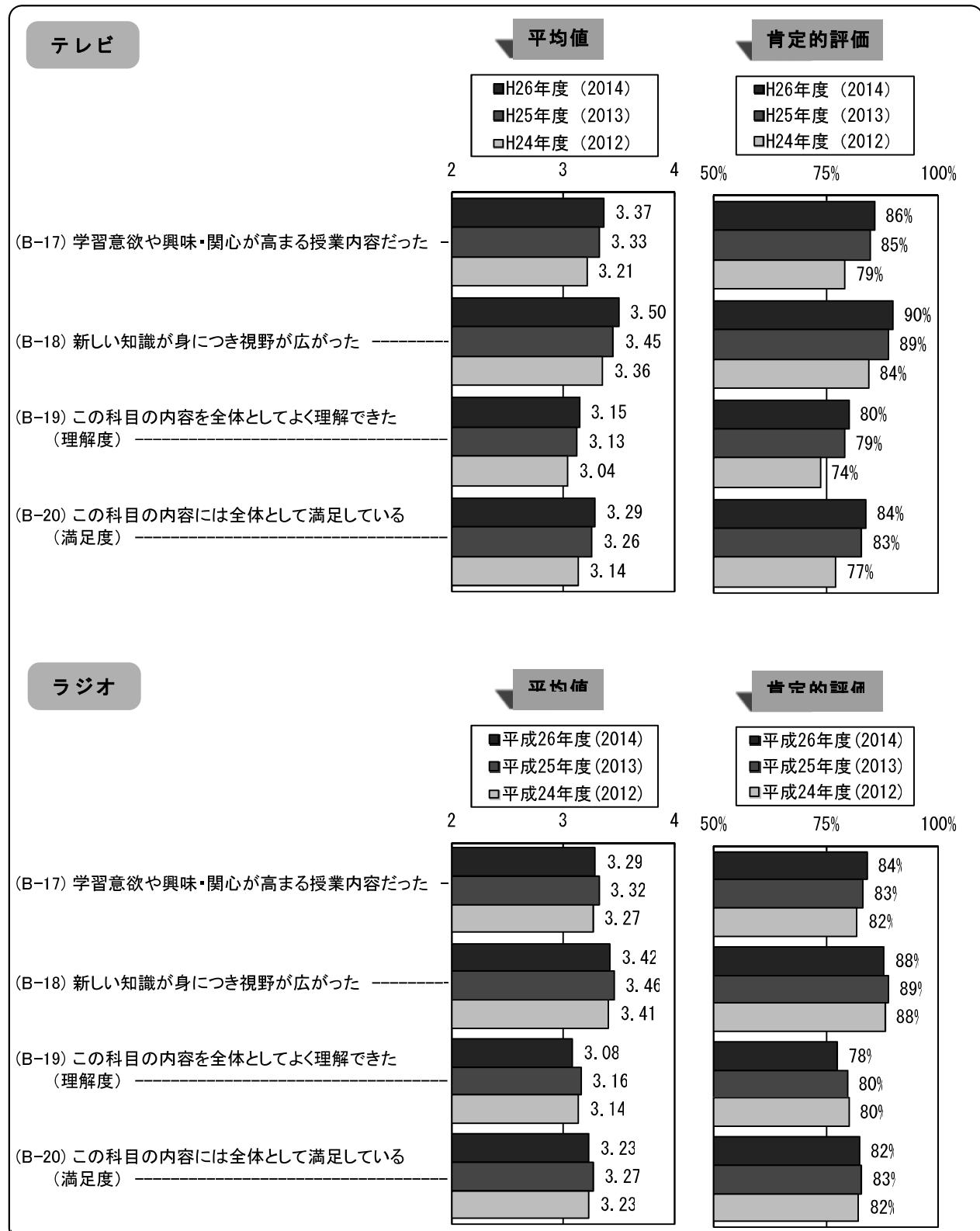
メディア別に全体評価を見ると(図2-18)、全ての項目においてテレビ科目の方がラジオ科目よりやや高くなっている。

図2-18【学部】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると(次頁図2-19)、テレビ科目ではどの評価においても2013年度よりやや高い数値となっているが、ラジオ科目ではほとんどのいずれの項目でも2013年度よりやや低い数値となっている。

図2-19 【学部】メディア別の全体評価（時系列）

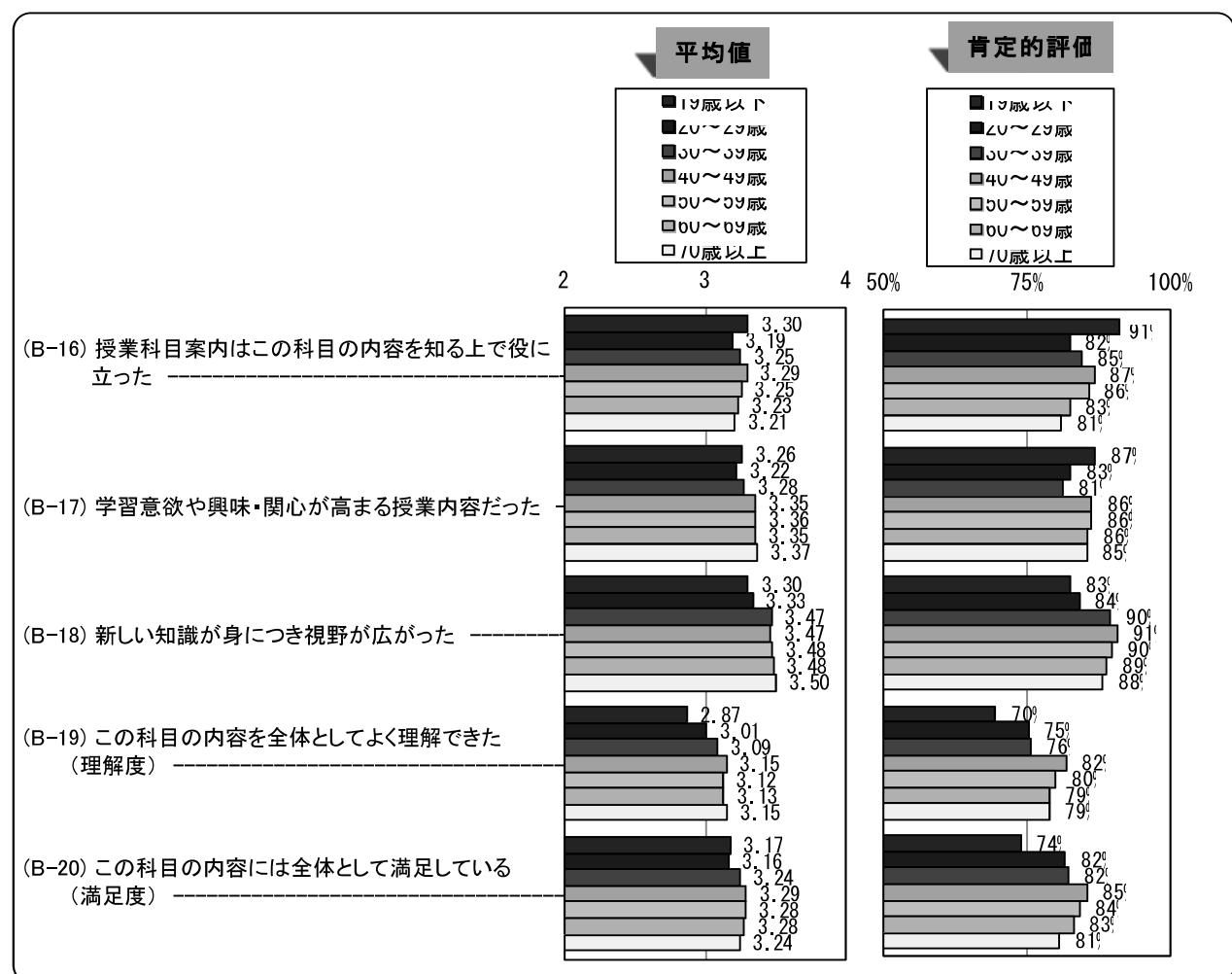


年齢階層別に全体評価を見ると(図2-20)、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」は、いずれの年齢階層でも評価が高い傾向にある。

しかし(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、他の項目に比べて全体が低い傾向にあり、19歳以下では極めて低い評価となっている。

また、肯定的評価では、ほとんどの項目で40歳代の評価が高いが、(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」においては、19歳以下が突出して高く、印象的である。しかし、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」においては、19歳以下が突出して低い評価となっており、理解度を高めるための工夫が必要であることがうかがえる。

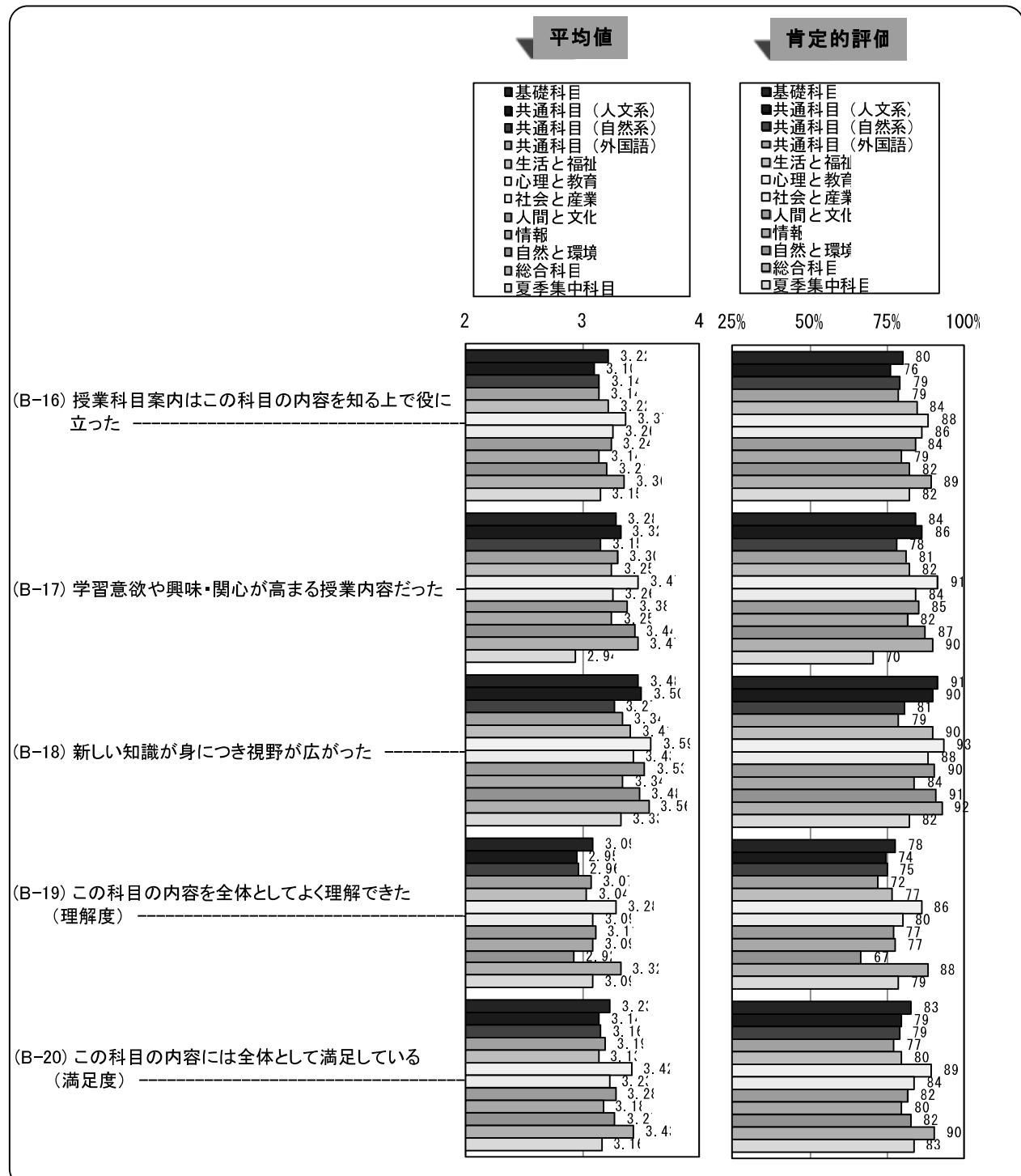
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別に全体評価を見ると（次頁図2－21）、全体として（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」が全ての科目で低めである。特に、「共通科目：人文系」「共通科目：自然系」「自然と環境」が低く、学生が詳しい説明・解説を求めていることがうかがえる。

また、「心理と教育」「総合科目」はいずれの項目でも評価が高いことから、現状を維持しながらも、さらに向上を心がけるべきであろう。

図2-2-1 【学部】所属コース別の全体評価

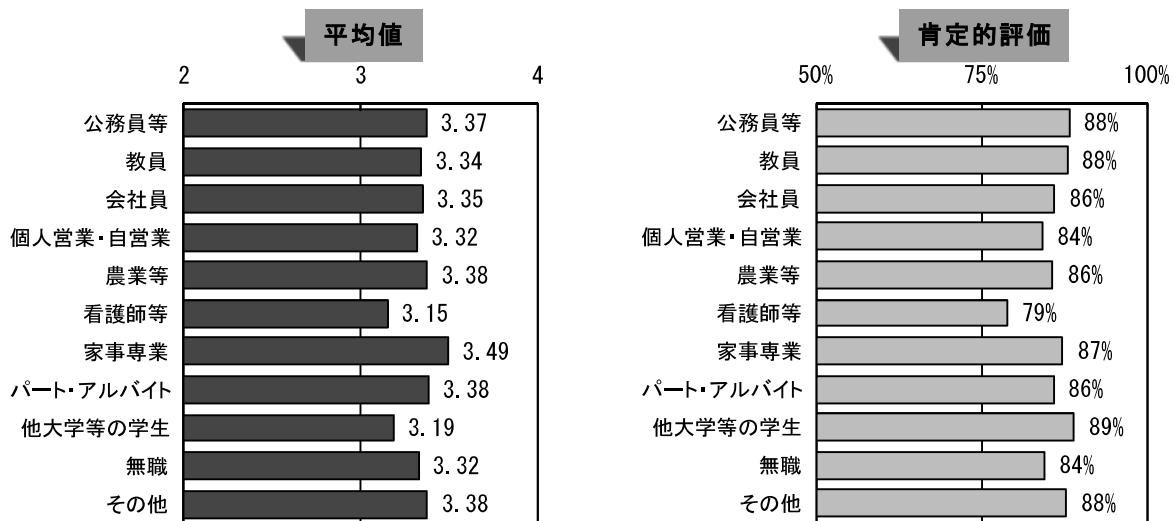


職業別に全体評価を見ると（次頁図2-22）、（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「看護師等」「他大学等の学生」の評価が低い。（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、「農業等」の評価が低く、（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「農業等」「看護師等」で評価が低いのが顕著な特徴である。

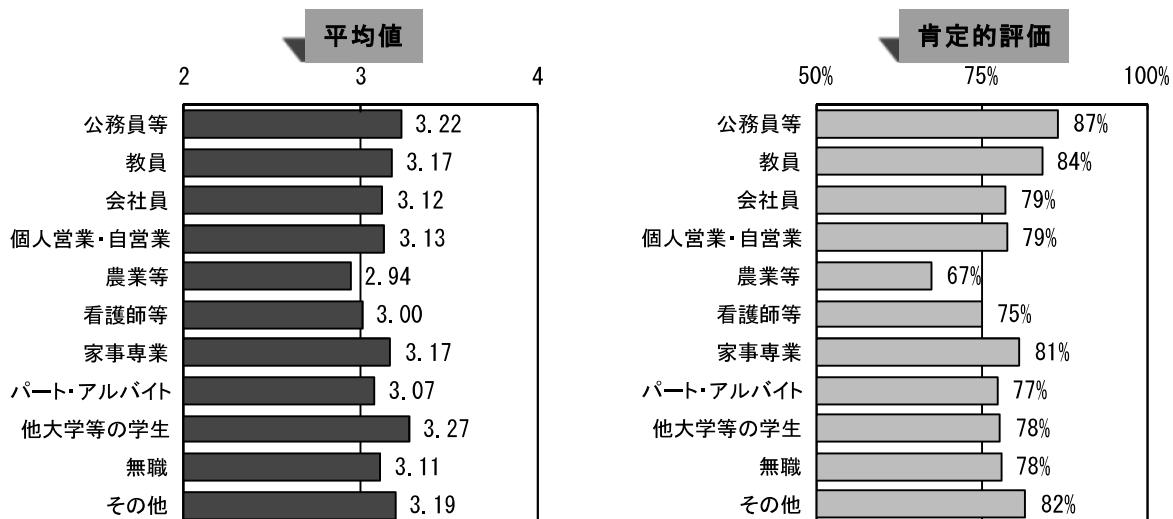
それ以外の職業別では一定の水準を保っている。評価の低い職業が絞れているので、その職業に対する考慮が効果的な改善になるであろう。

図2-22 【学部】職業別の全体評価

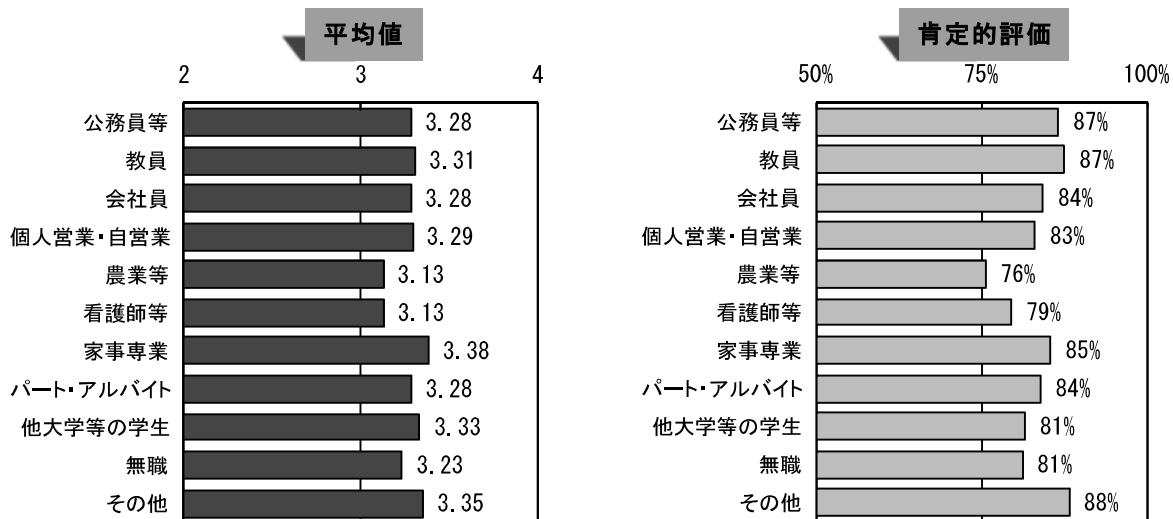
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

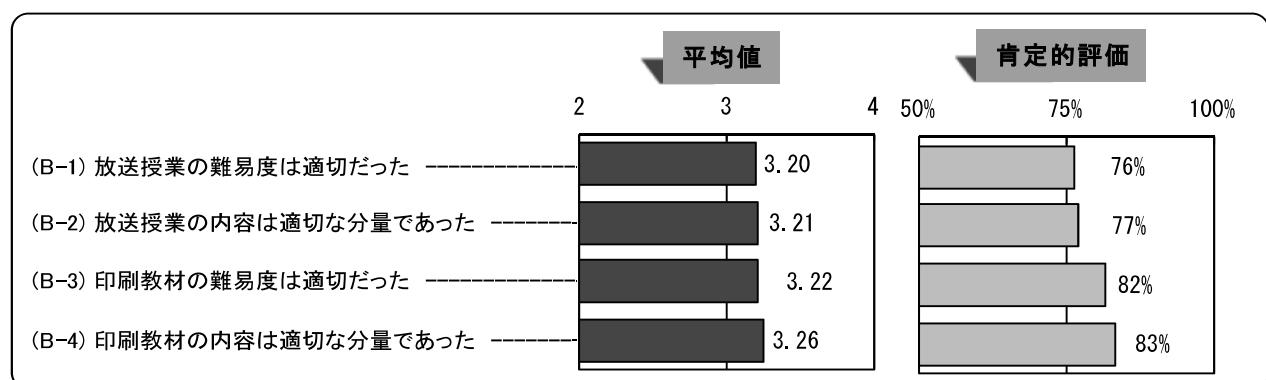


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていくこととする。

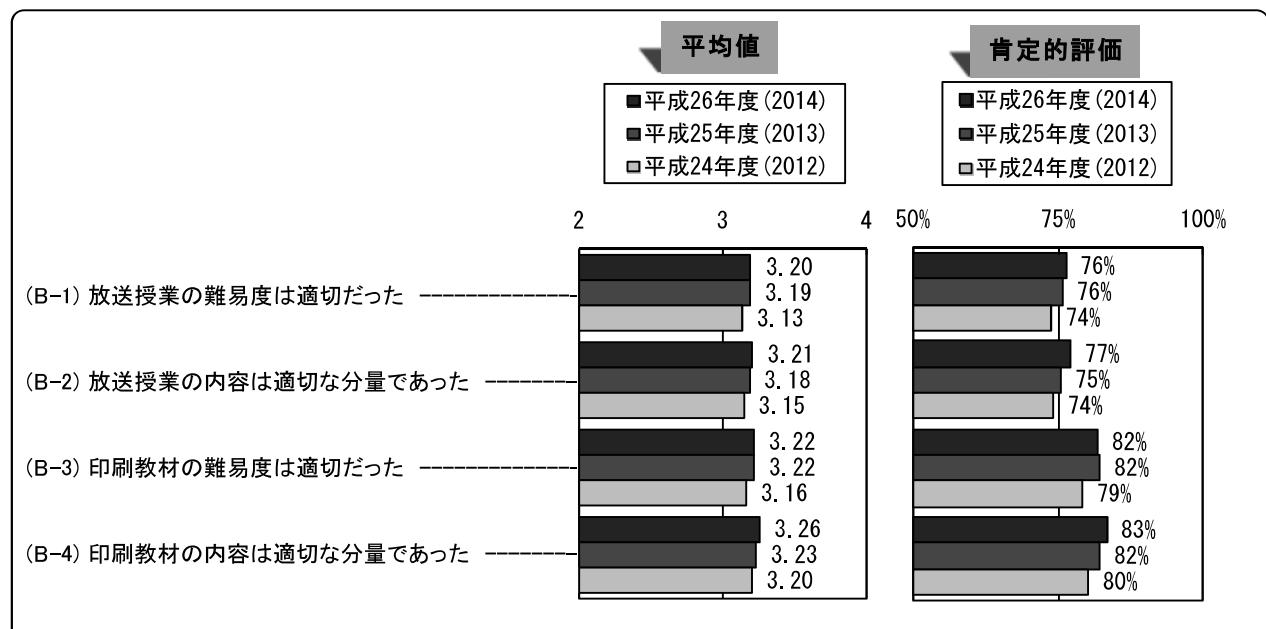
難易度・分量については(図2-23)、平均値で見ると放送授業・印刷教材ともに比較的高い評価となっている。肯定的評価の割合で比較すると放送授業よりも印刷教材についての評価が高い。難易度・分量ともに改善の必要性が求められている。

図2-23【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、分量においては平均値・肯定的評価の両方で放送授業・印刷教材とともに2013年度より高い評価となっている。難易度に関しては放送授業・印刷教材ともに2013年度とほぼ同じ水準を保っている。

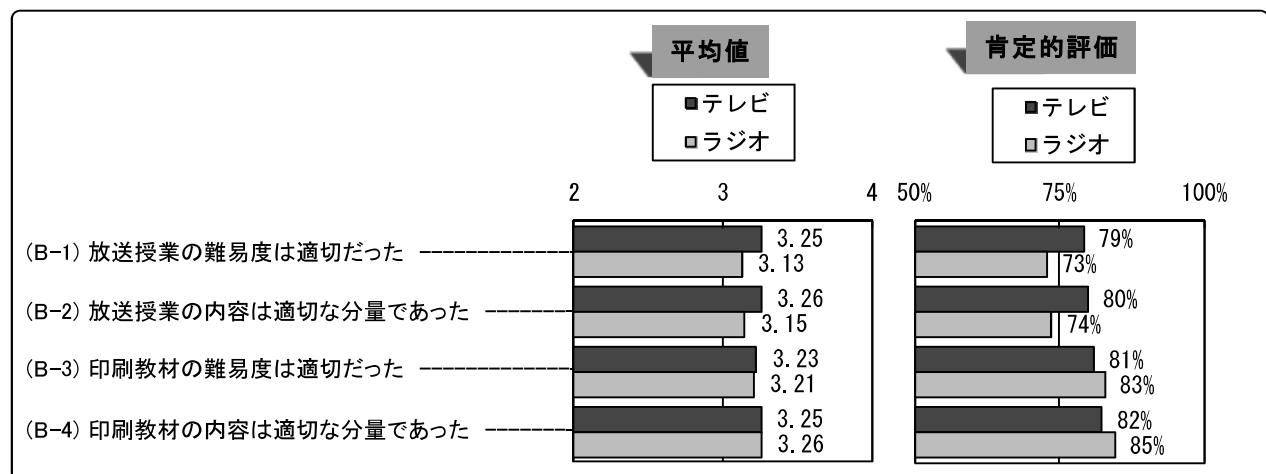
図2-24【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると(図2-25)、放送授業の項目でテレビ科目がラジオ科目を上回っている。特に肯定的評価の割合においてはその傾向が顕著である。ラジオ科目については、難易度・分量ともに工夫を求められていることがうかがえる。

また、印刷教材の項目では、反対にラジオ科目の方がやや高い。

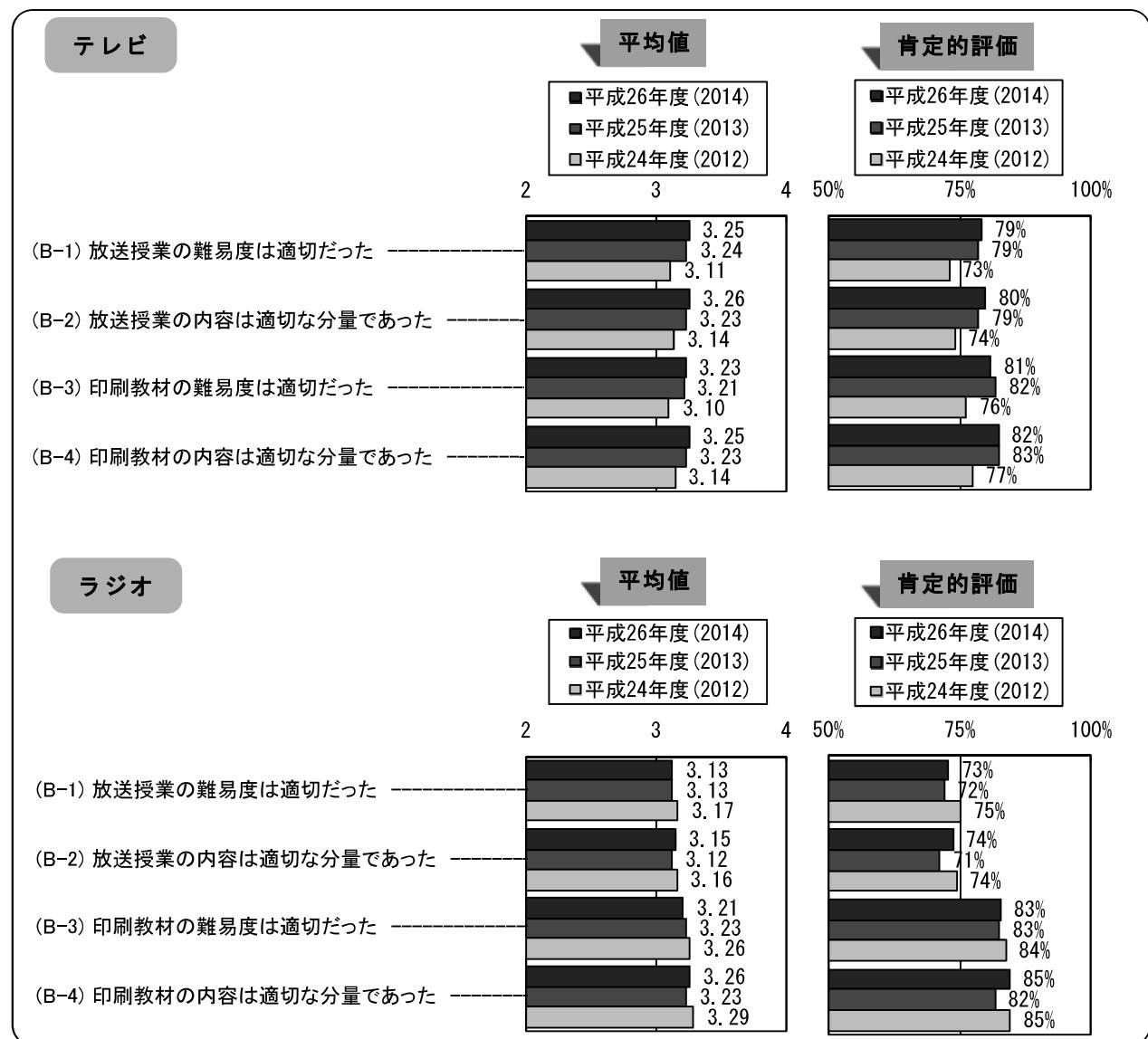
図2-25【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、2013年度に比べてテレビ科目は全ての項目で平均値がやや上がっている。肯定的評価は放送授業の方が上がっており、印刷教材はやや下がっているが、割合としては印刷教材の方が高い。

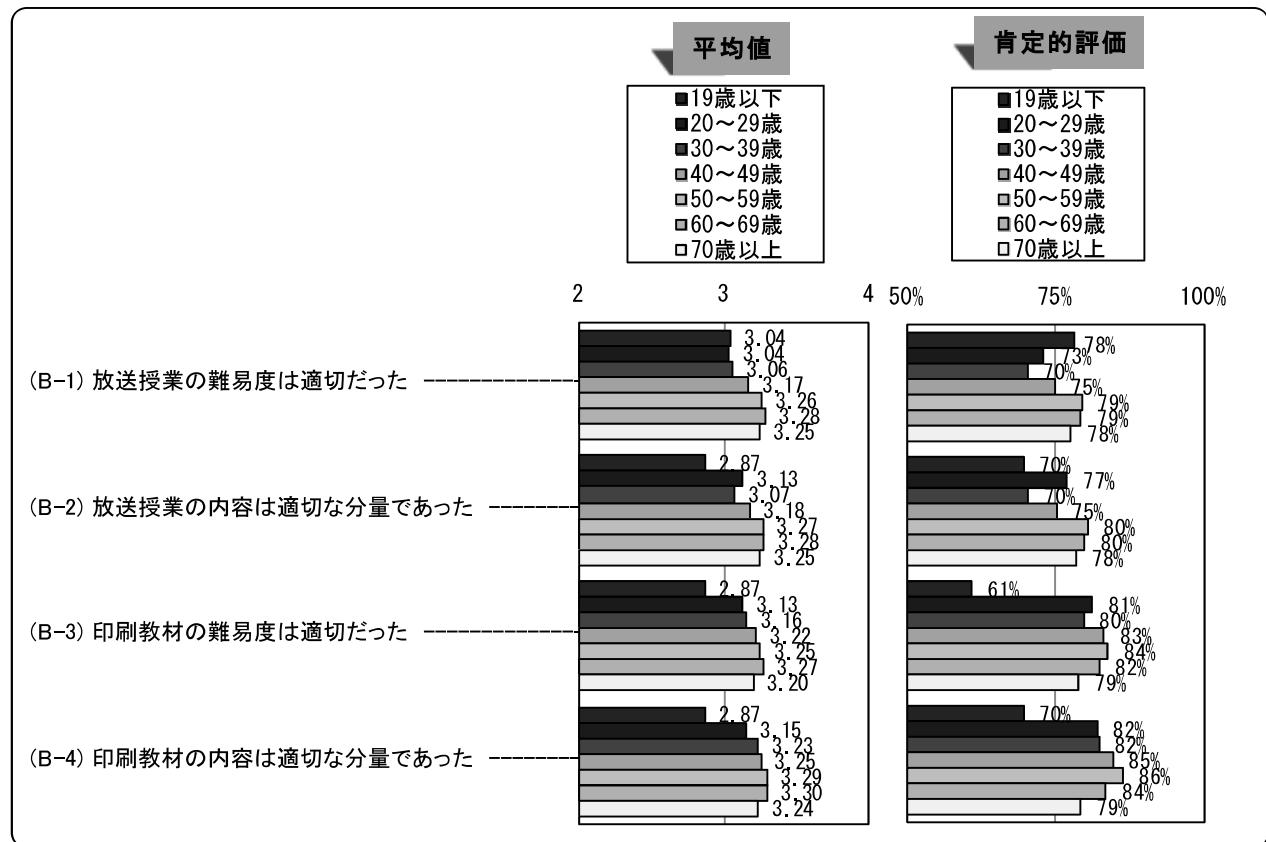
ラジオ科目は全ての項目で2013年度の水準をほぼ保っているため、あまり変化がなかったことがうかがえる。肯定的評価においては放送授業の割合が突出して低いため、さらなる改善が必要であるだろう。

図2-26【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）、（B-2）「放送授業の内容は適切な分量であった」、（B-3）「印刷教材の難易度は適切だった」、（B-4）「印刷教材の内容は適切な分量であった」の項目で19歳以下の評価が低いが、印刷教材の評価は全体として高い傾向にある。

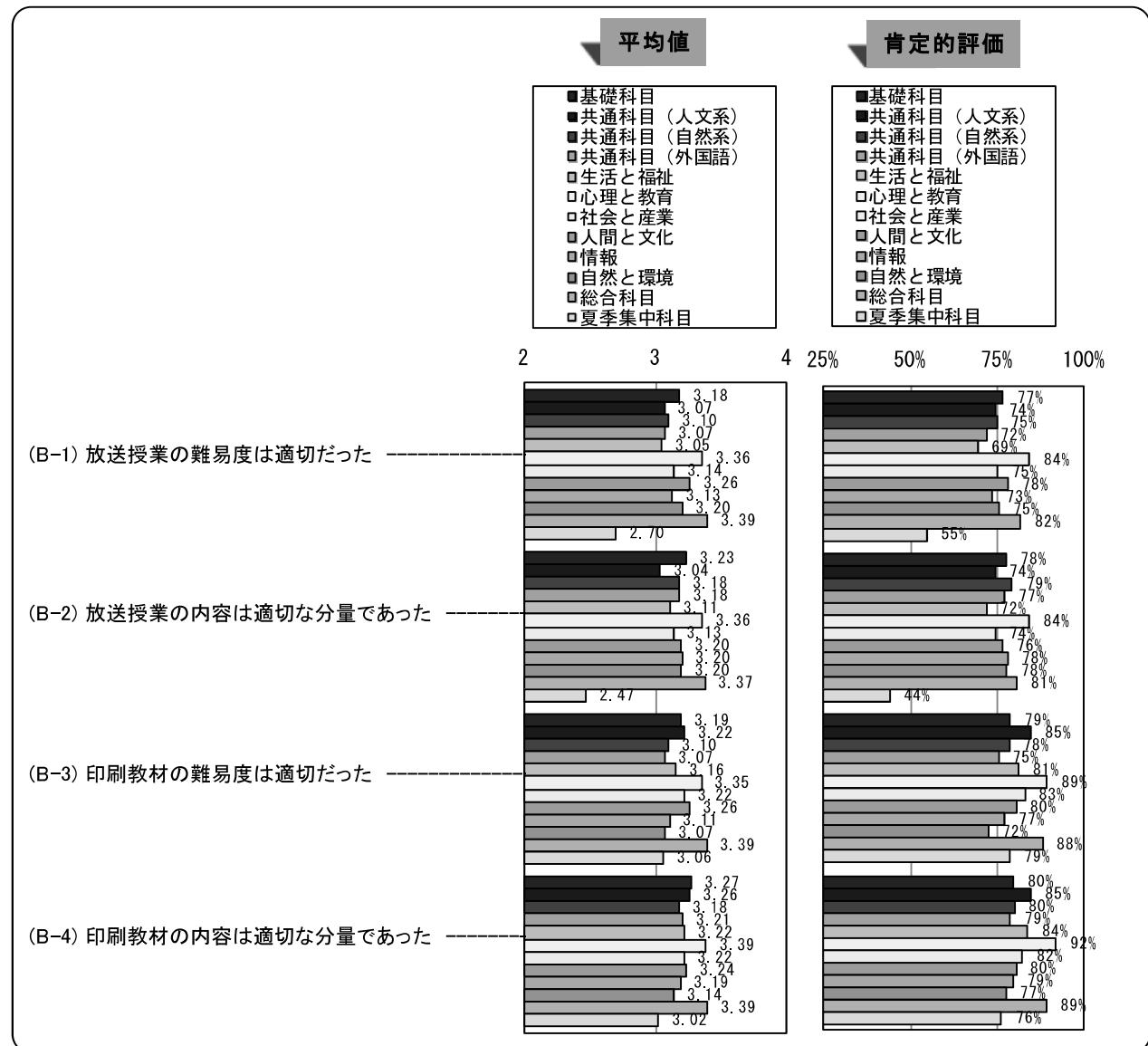
図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると(図2-28)、放送授業、印刷教材とともに、難易度と分量は、「心理と教育」「総合科目」で評価が高くなっている。

一方、放送授業に対する「夏季集中科目」の評価は極めて低い。

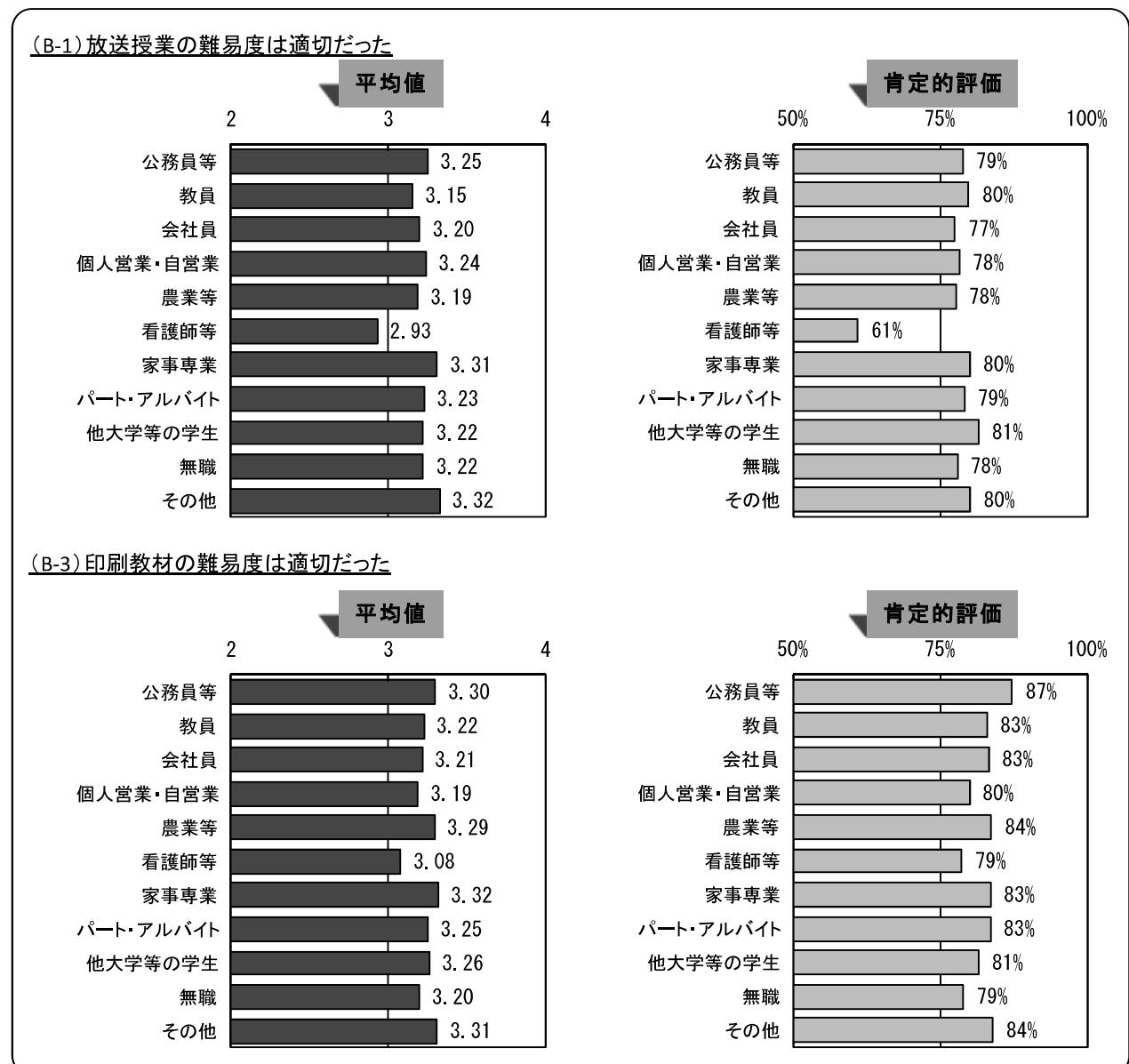
図2-28【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（図2-29）、放送授業の難易度は、「看護師等」で評価が低くなっているのが際立つ。取組姿勢の分析結果に表れたように、「看護師等」は時間的制約がある職業であり、そもそも放送授業を視聴することが難しいことと関連していると思われる。

授業の難易度は、科目の内容的な難易度、授業方法、そして学生の取組姿勢や学習意欲などが互いに影響し合い、評価がされていると考えられる。したがって、授業方法に変更があると、難易度の評価にも影響すると考えられるため、今後も授業方法のより良い改善に目を向けることは評価を上げるために大きな要因になると期待できる。

図2-29【学部】職業別の授業難易度の評価

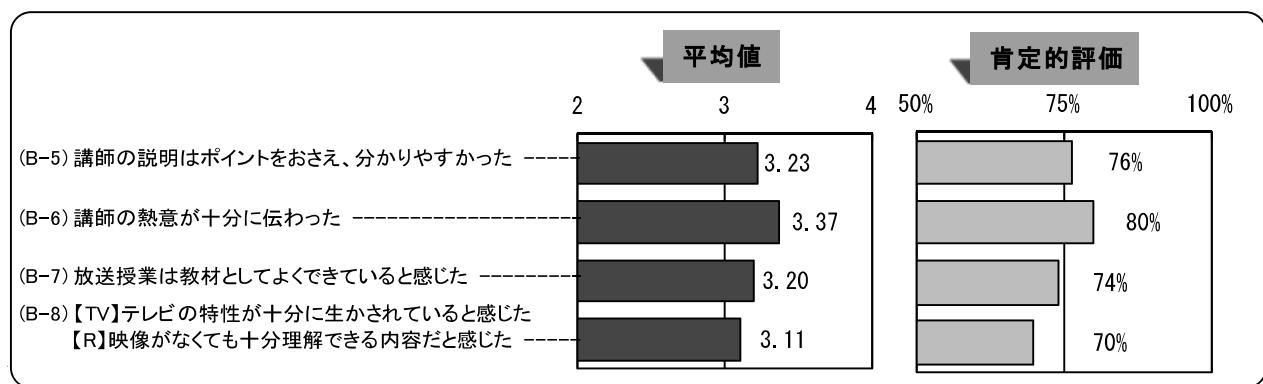


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

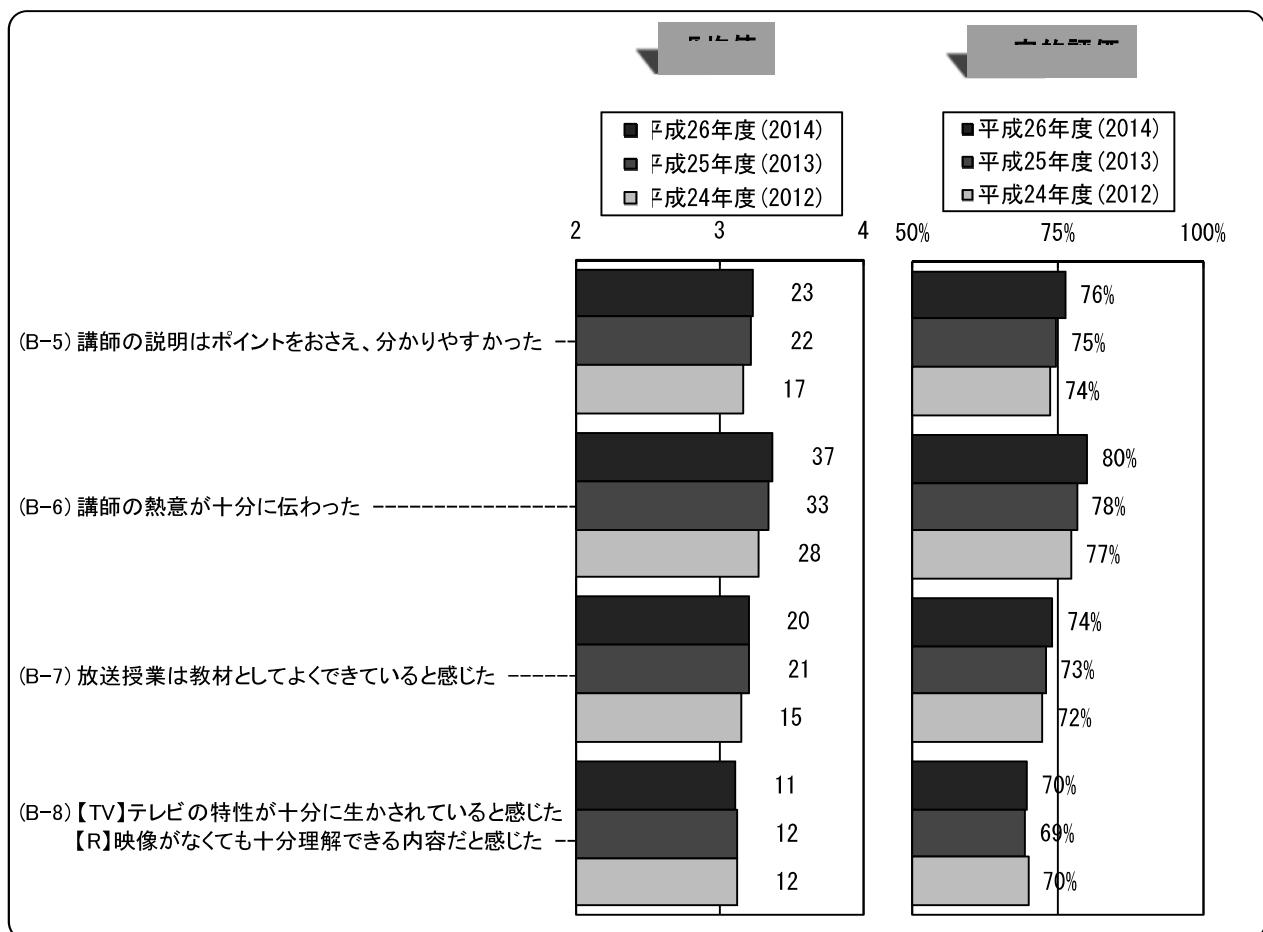
放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは（図2-30）、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値3.37、肯定的評価80%となっている。しかし、放送授業の総合評価でもある（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値3.20、肯定的評価74%とやや低めである。なお、（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、平均値3.11、肯定的評価70%とやや低い水準である。

図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



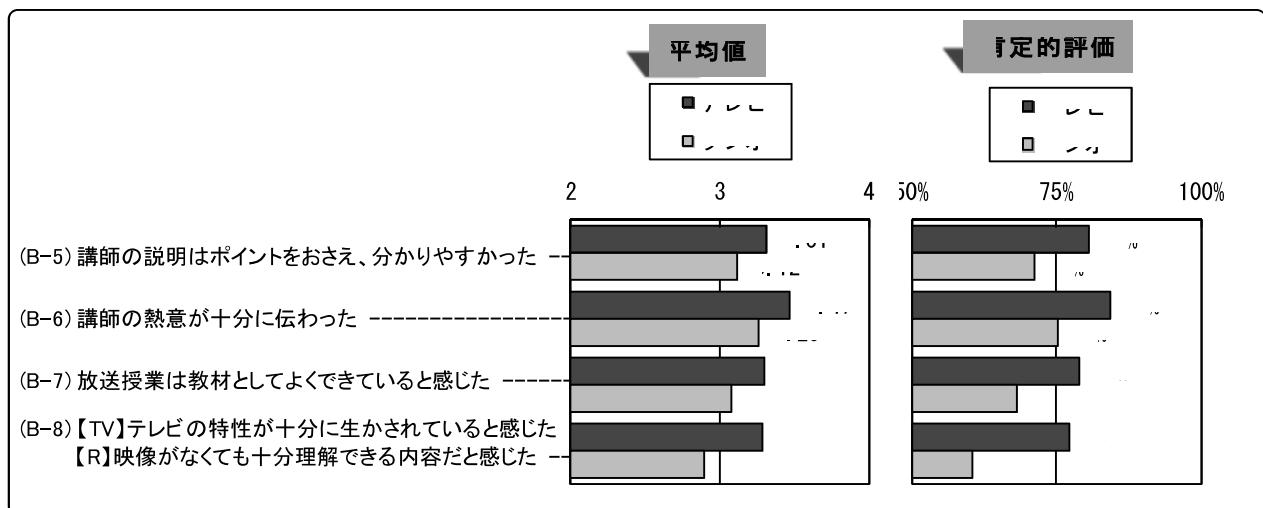
放送授業の評価の平均を時系列で見ると（図2-31）、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の平均値は2013年度より若干低くなっているものの、そのほかの項目は2013年度よりやや高い評価になっている。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると(図2-32)、いずれの項目もテレビ科目がラジオ科目を上回っている。

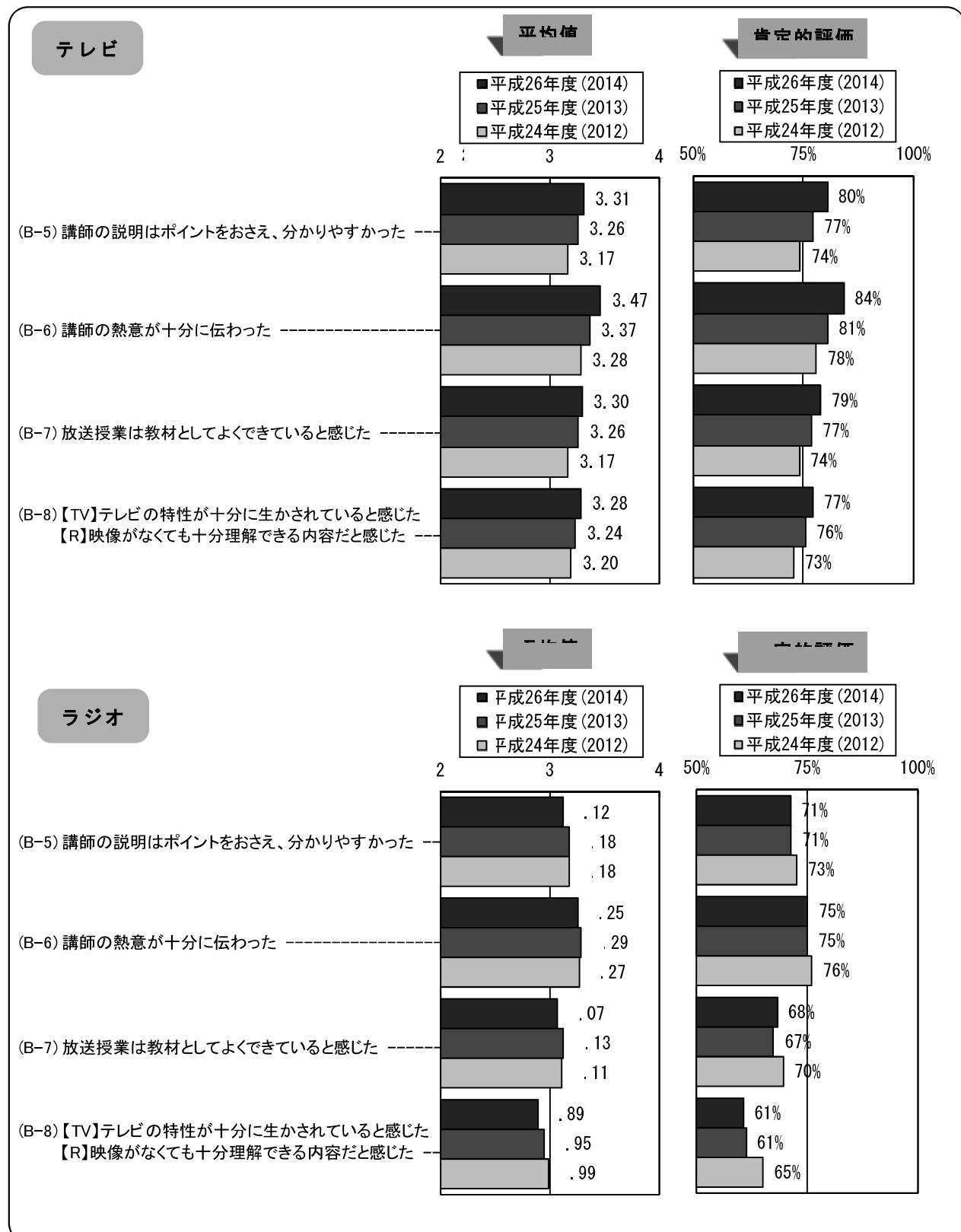
図2-32【学部】メディア別の放送授業の評価



また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると(次頁図2-33)、テレビ科目では、いずれの項目も2013年度に比べ、高い評価となっている。

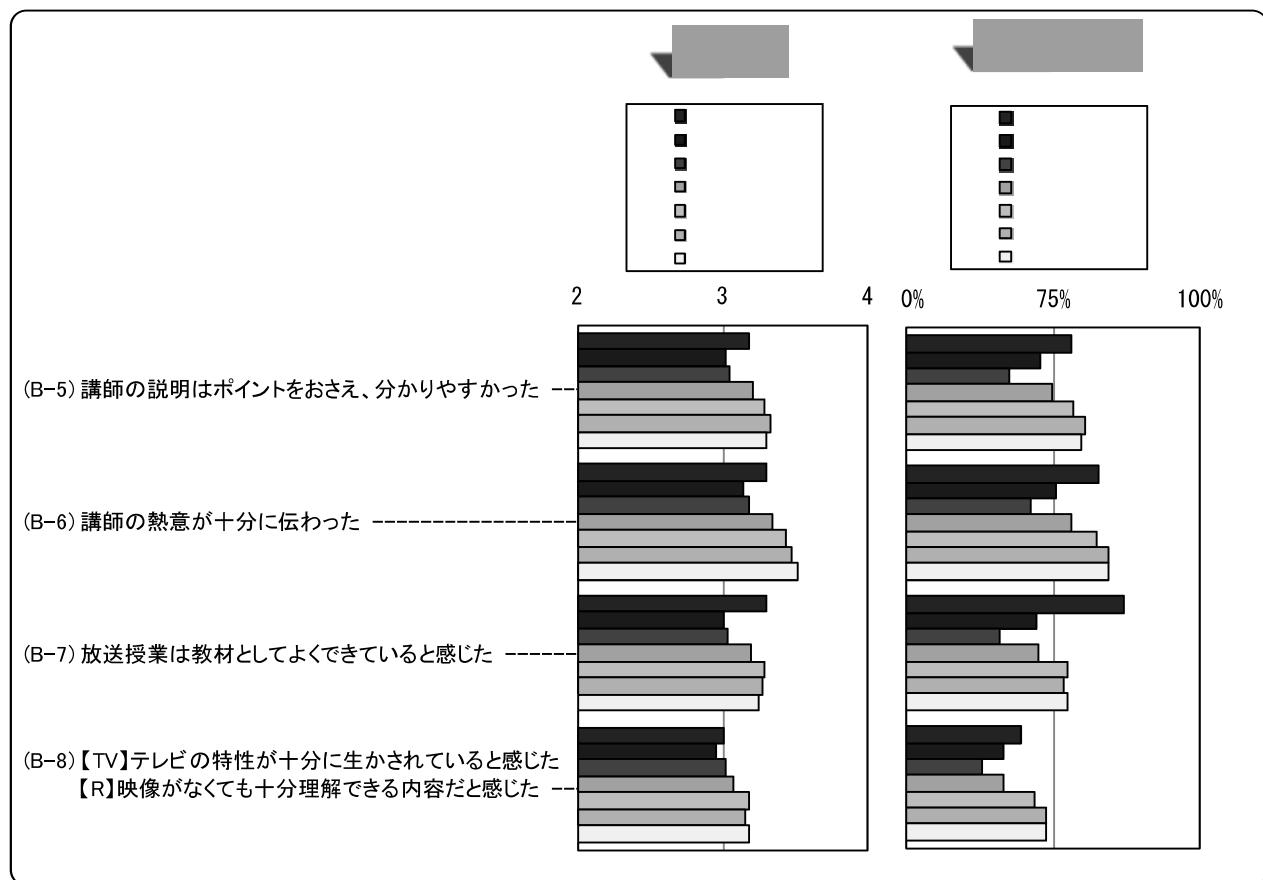
ラジオ科目においては、肯定的評価の割合はいずれの項目も2013年度に比べ同じ水準を保っているが、平均値においては全ての項目でやや低くなっている。

図2-33 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2－34）、いずれの項目も、60歳代、70歳代は評価が高く、講師に関する項目では19歳以下も評価が高い。20歳代、30歳代の評価が、いずれの項目でも低い水準である。

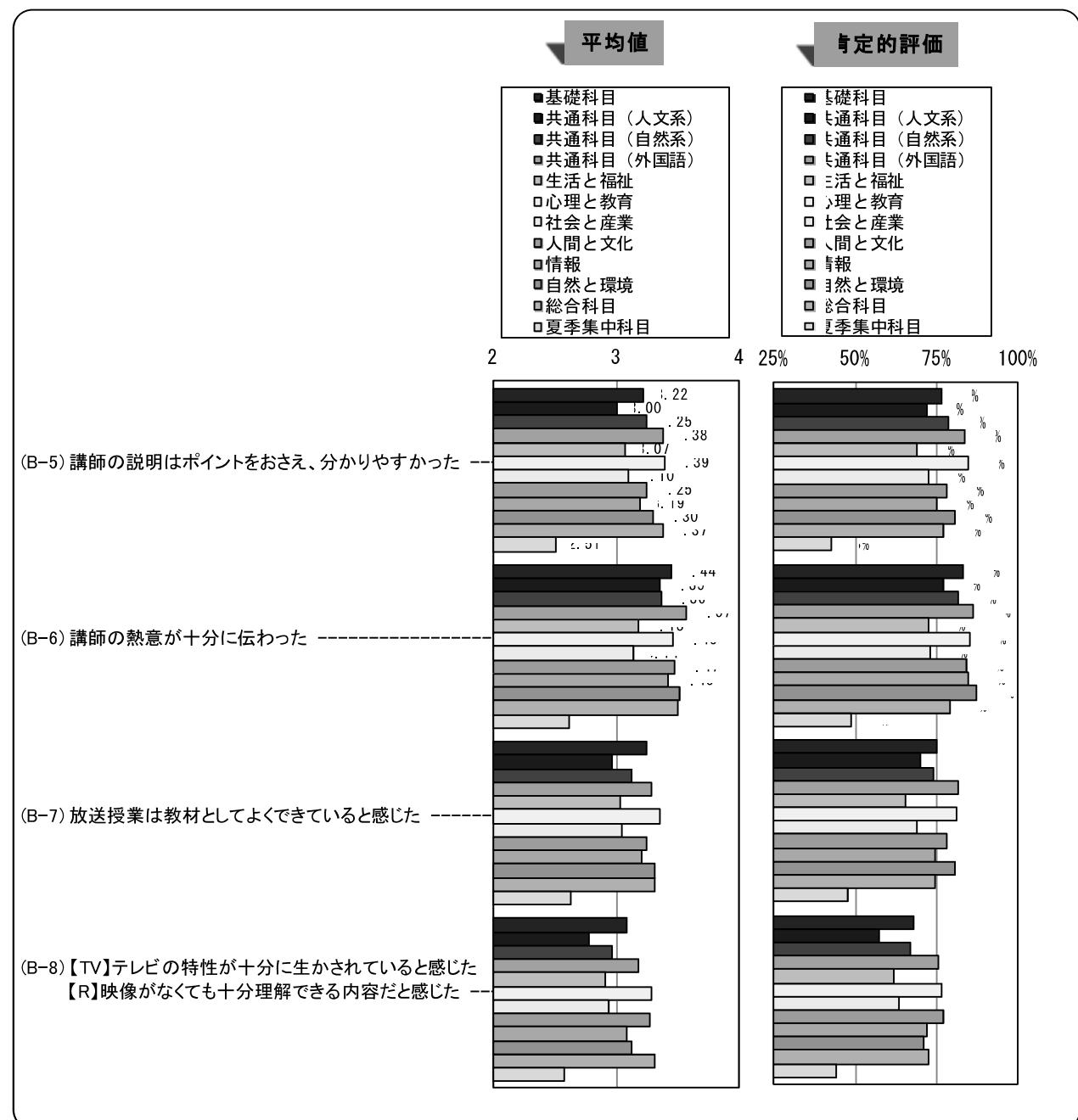
図2－34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属コース別に放送授業の評価を見ると(図2-35)、すべての項目において「夏季集中科目」の評価が低いのが際立っている。それ以外の科目では、「共通科目：人文系」「生活と福祉」「社会と産業」の評価がいずれの項目でも低い水準にある。

一方、「共通科目：外国語」「心理と教育」「自然と環境」はいずれの項目でも評価は高い水準である。

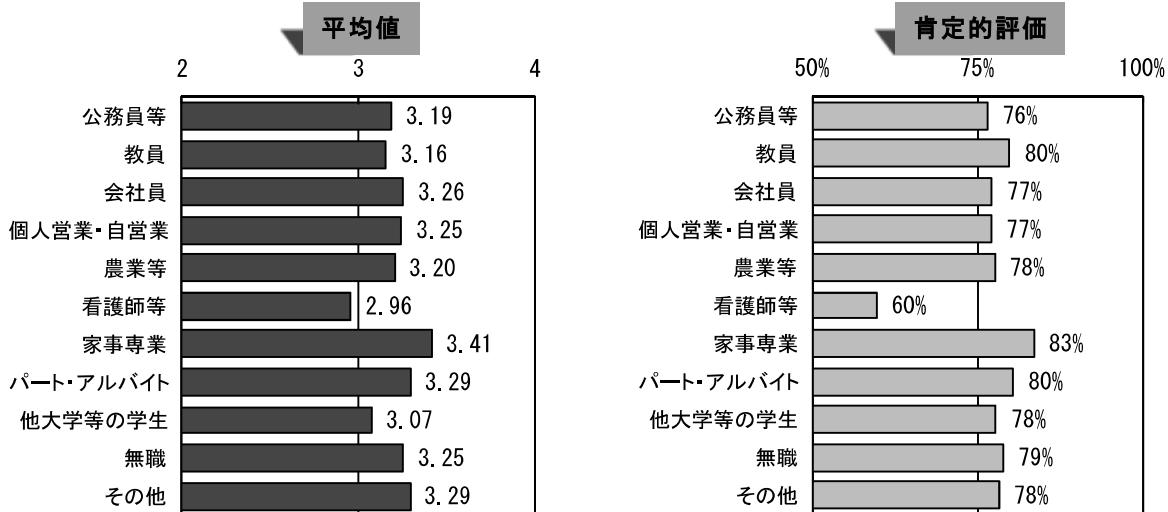
図2-35【学部】所属コース別の放送授業の評価



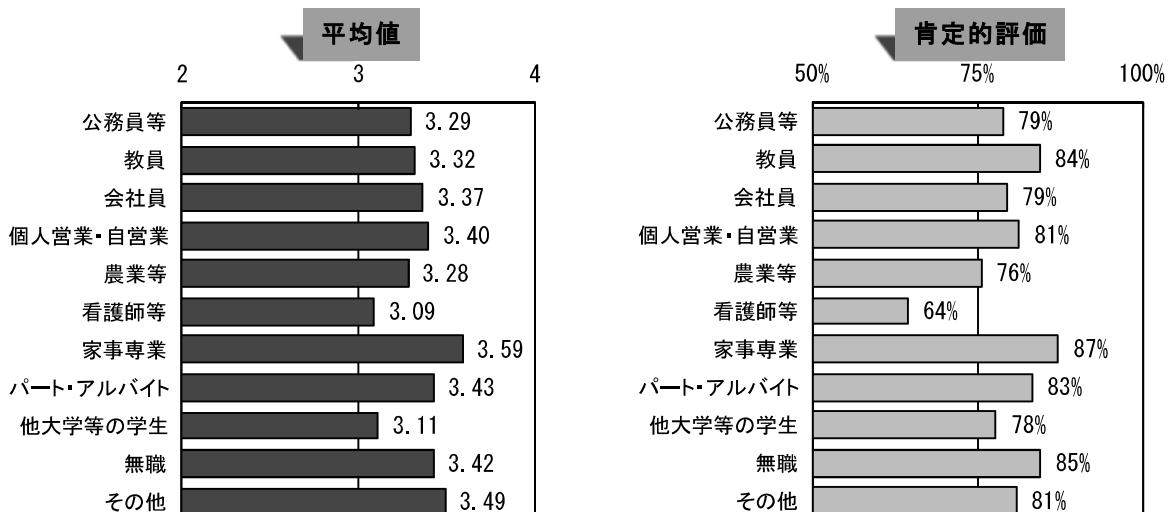
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2－36）、全体的に「看護師等」の評価が低く、不規則な職業のため放送時間に合わせての視聴が難しい現実がうかがえる。一方、放送時間に合わせて都合がつけやすい「家事専業」の評価はいずれの項目も評価が高い。

図2-36 【学部】職業別の放送授業の評価

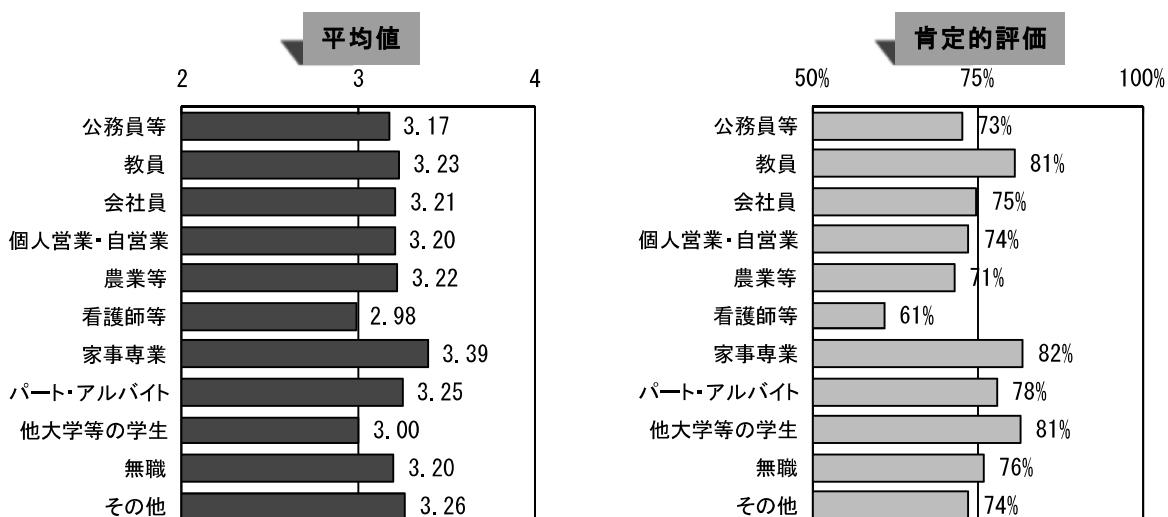
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた

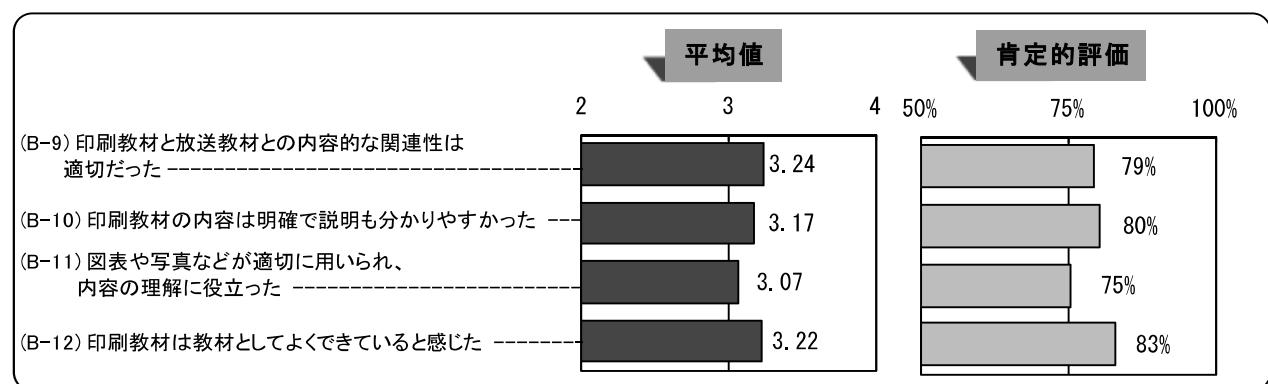


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

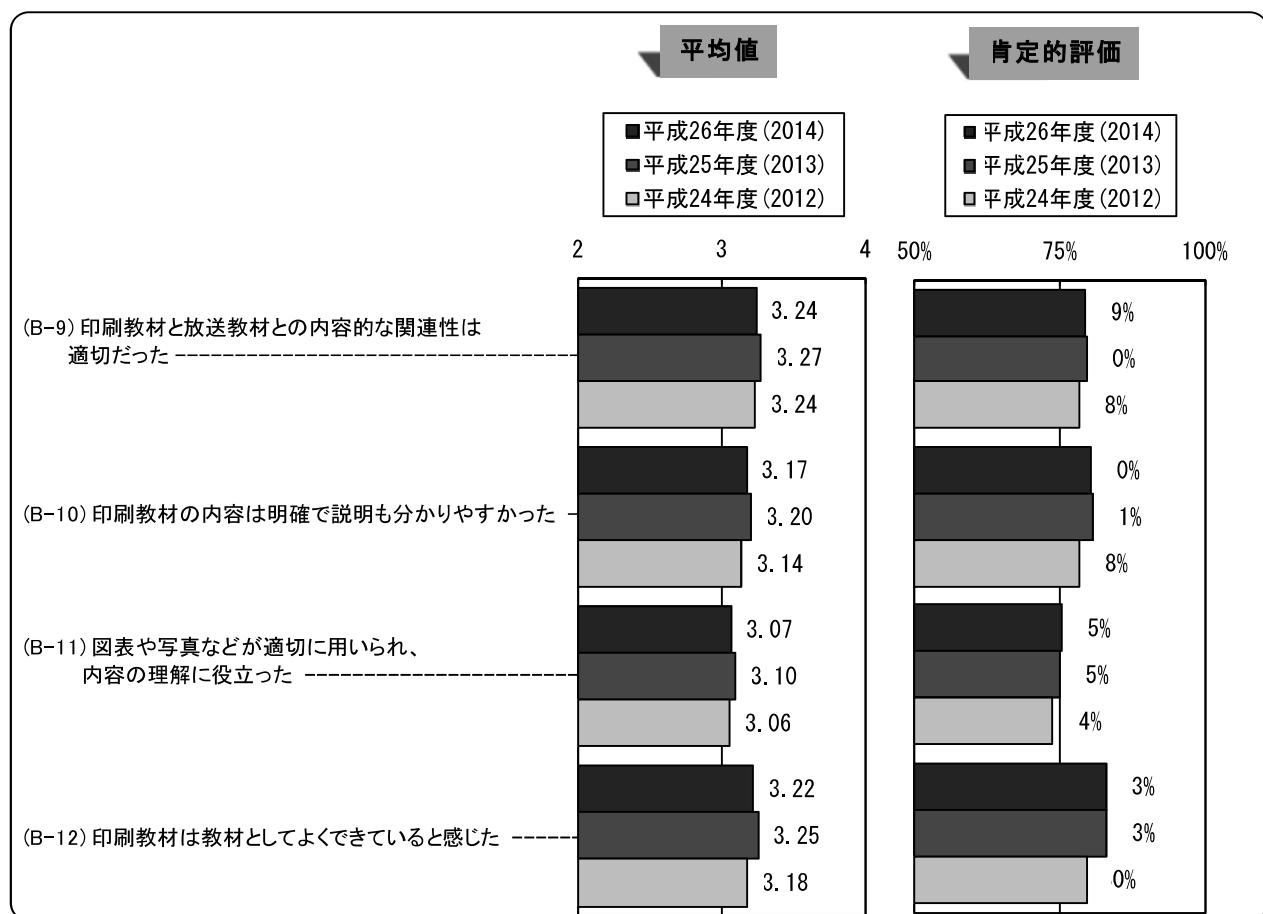
印刷教材の評価項目では（図2-37）、（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が平均値3.22、肯定的評価83%と高い評価のため、印刷教材として総合的に高評価といえる。また（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」も高い評価であるが、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。自由記述でも図表や写真などに対する改善要望が見られたので、それらを参考にしたより理解しやすい教材に期待している様子がうかがえる。

図2-37【学部】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-38）、いずれの項目においても2013年度とほぼ同じか、やや低い。

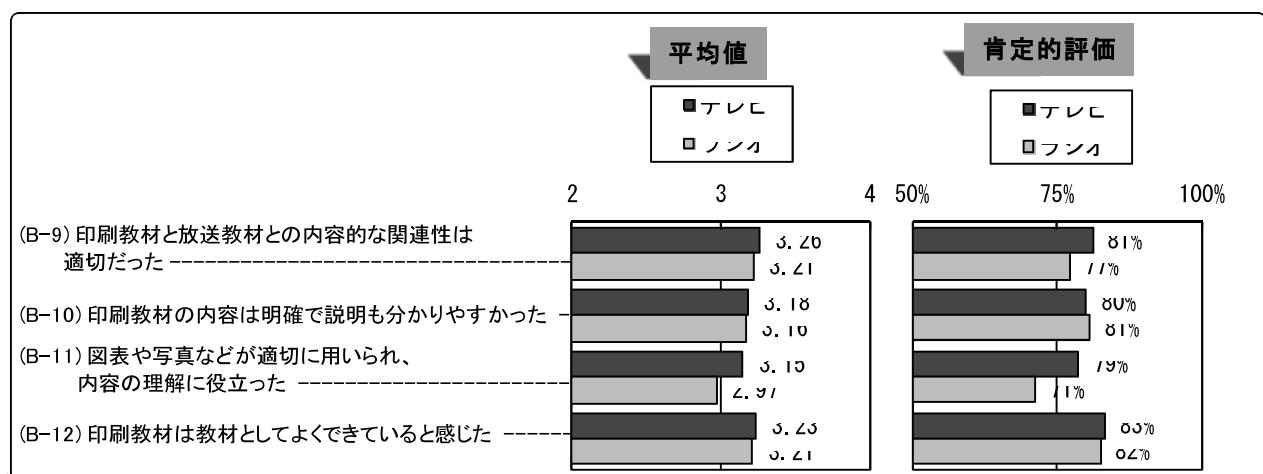
図2-38 【学部】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-39）、肯定的評価の割合においては（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の項目はテレビ科目よりラジオ科目の方がわずかに高い評価となっているが、平均値を含めたその他の項目ではテレビ科目の評価がラジオ科目よりも高い。

特に、（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」においてはテレビ科目とラジオ科目の評価の差が大きい。ラジオ科目の印刷教材の改善はこの項目の評価を上げる工夫をすることだろう。

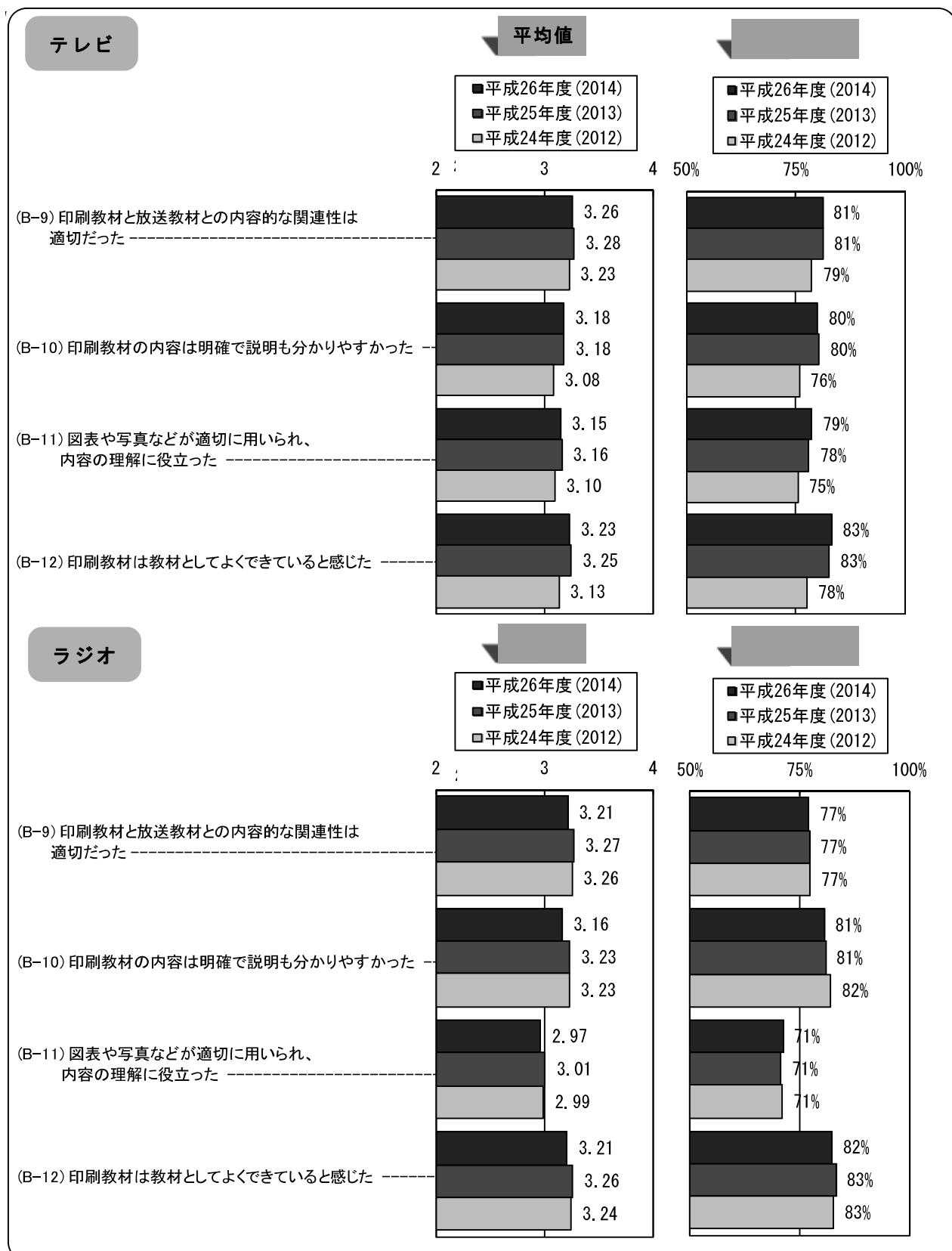
図2-39【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（次頁図2-40）、平均値、肯定的評価の割合とともに、テレビ科目でもラジオ科目でも2013年度に対して評価が上回る項目がなかった。いずれの項目も評価は横ばいか、わずかに低くなっていて、改善の効果が出ているとは言えない。

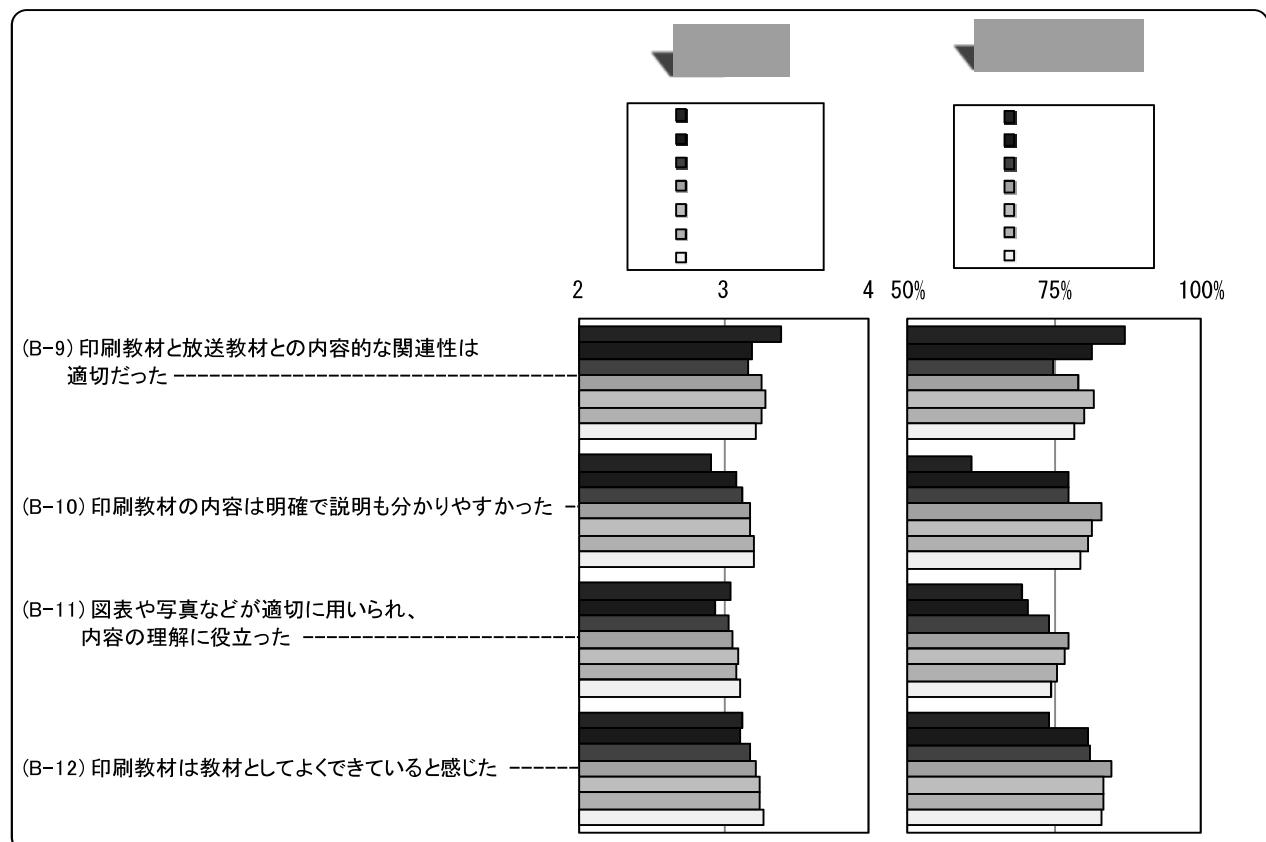
特に平均値に注目すると、ラジオ科目では全ての項目で低くなってしまっており、印刷教材の改善のための全体的な対策が求められる。

図2-40 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2－41）わかるように、全体として高い値となっている。全ての評価項目において、平均値・肯定的評価ともに40歳代以上の年代の評価がやや高い傾向である。読書量や社会経験などが反映されるのか、40歳代以上の年齢層と30歳代以下の年齢層との間に理解度においてギャップがある。

図2－41【学部】年齢階層別の印刷教材の評価

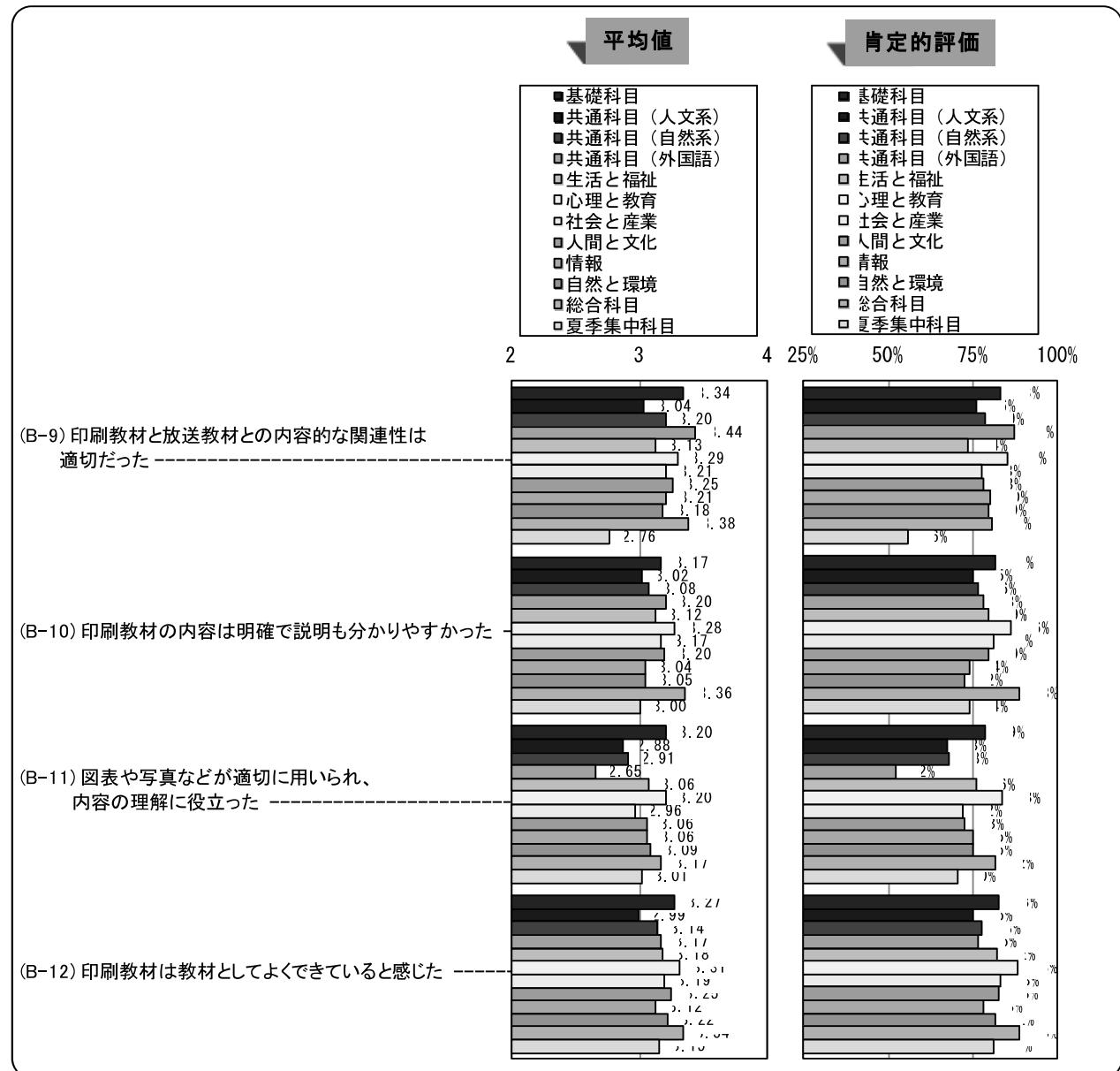


所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-4-2）、「心理と教育」、「総合科目」が平均値、肯定的評価の割合ともに評価が高いことがうかがえる。

一方、「共通科目：外国語」が（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」において評価が低いのは、図表や写真をあまり必要とせずに学べるような科目内容だったからではないか。評価自体としては分析全体を通して高い方である。

「夏季集中科目」は（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」の評価が著しく低く、印刷教材と放送教材の整合性に改善が必要とされる。

図2-4-2 【学部】所属コース別の印刷教材の評価

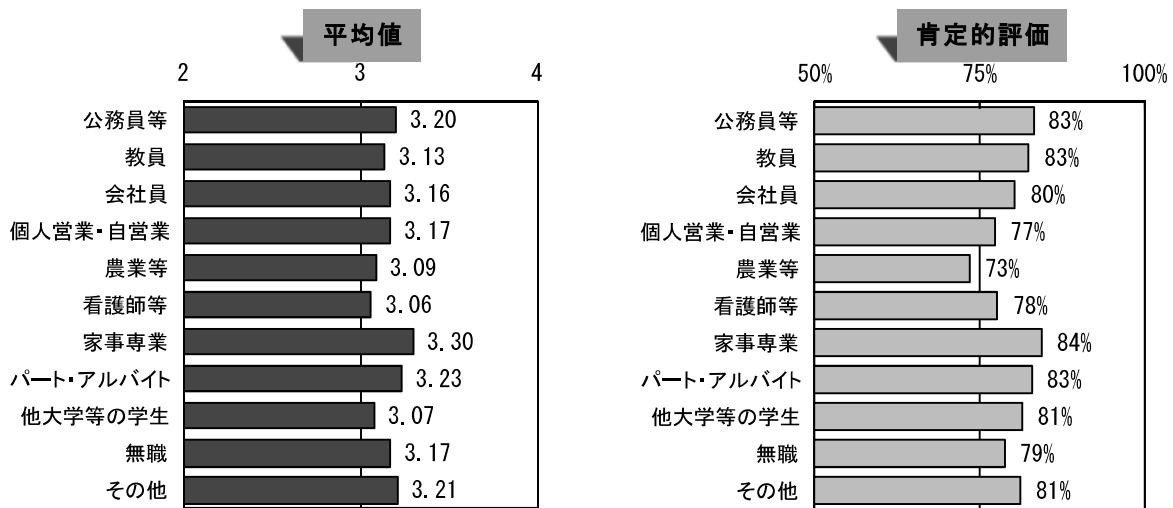


職業別の印刷教材の評価では（次頁図2－43）、（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」と（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は平均値、肯定的評価とともに「農業等」が高いのに反し、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では「農業等」の肯定的評価はやや低く矛盾を感じる。

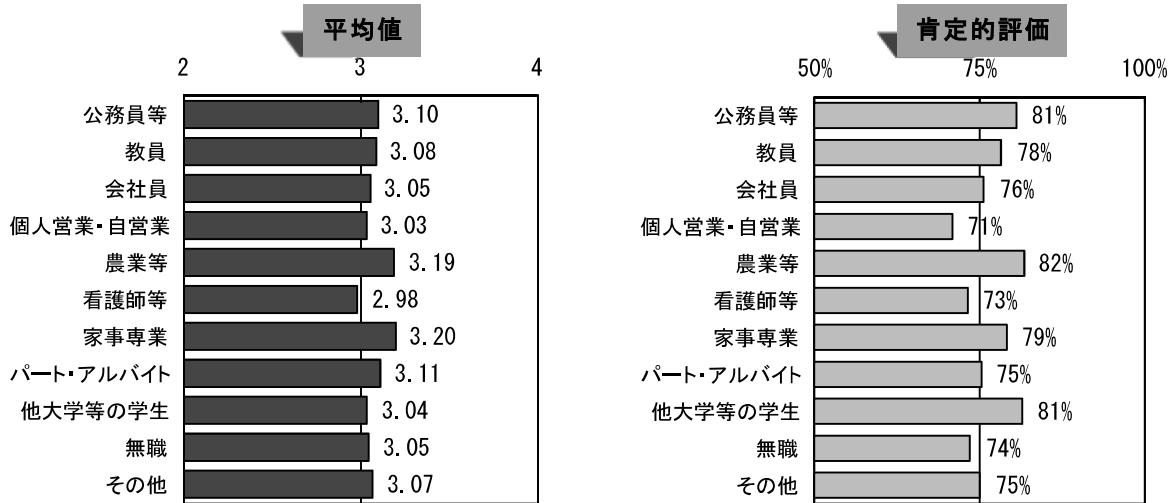
「看護師等」でも（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は高いが、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」はやや低くなっていることから見ても、印刷教材の改善が必要とされる。

図2-4-3 【学部】職業別の印刷教材の評価

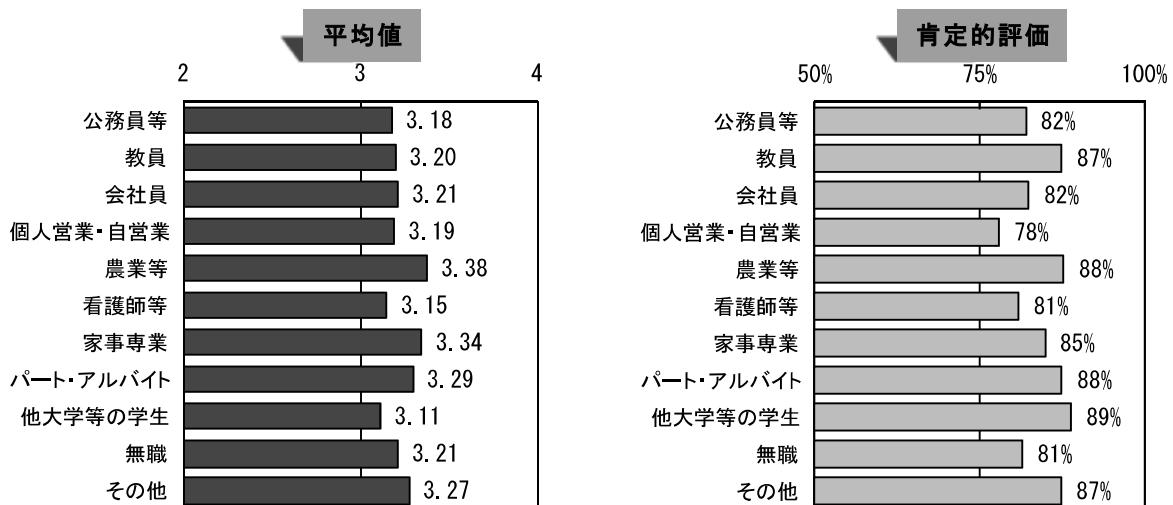
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



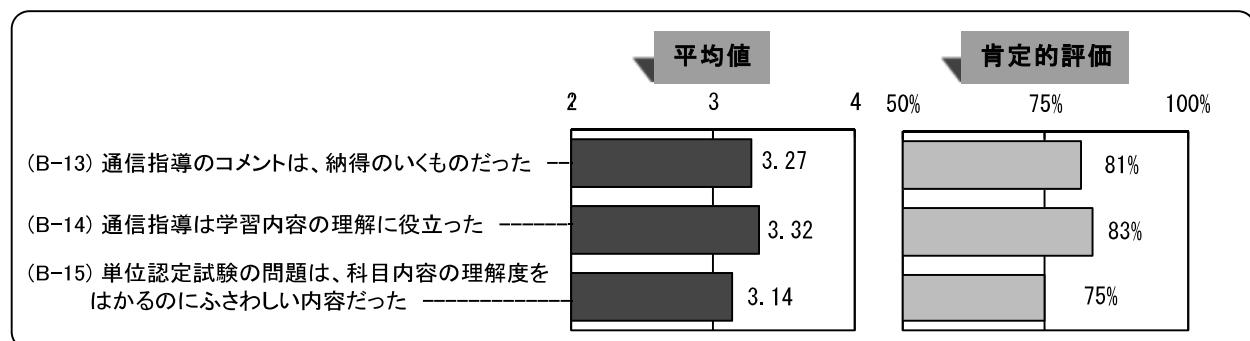
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については（図2-44）、（B-13）「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値3.27、肯定的評価81%、（B-14）「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値3.32、肯定的評価83%と、いずれも高い評価を得ている。

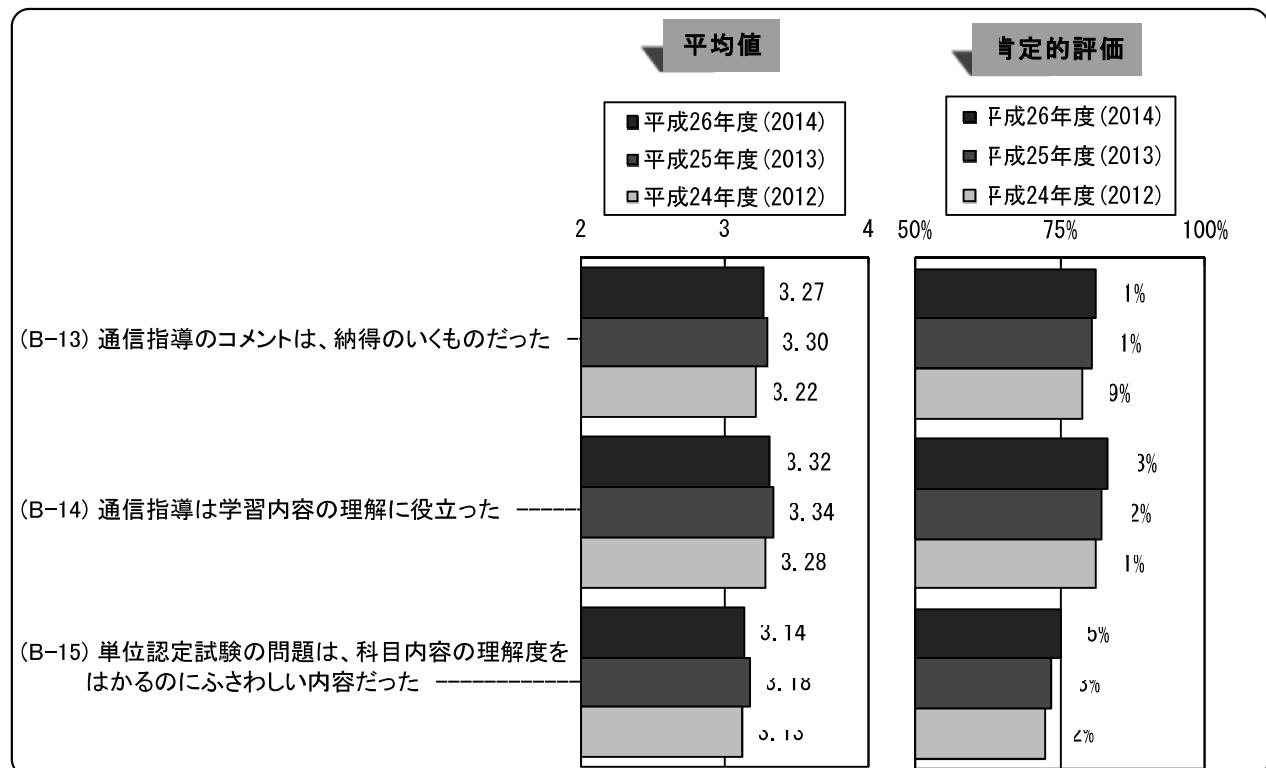
単位認定試験については、（B-15）「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値3.14、肯定的評価75%と比較的評価が低い。

図2-44【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図2-45）、総じて平均値では2013年度よりやや評価が低くなっているが、肯定的評価ではわずかに高くなっている。

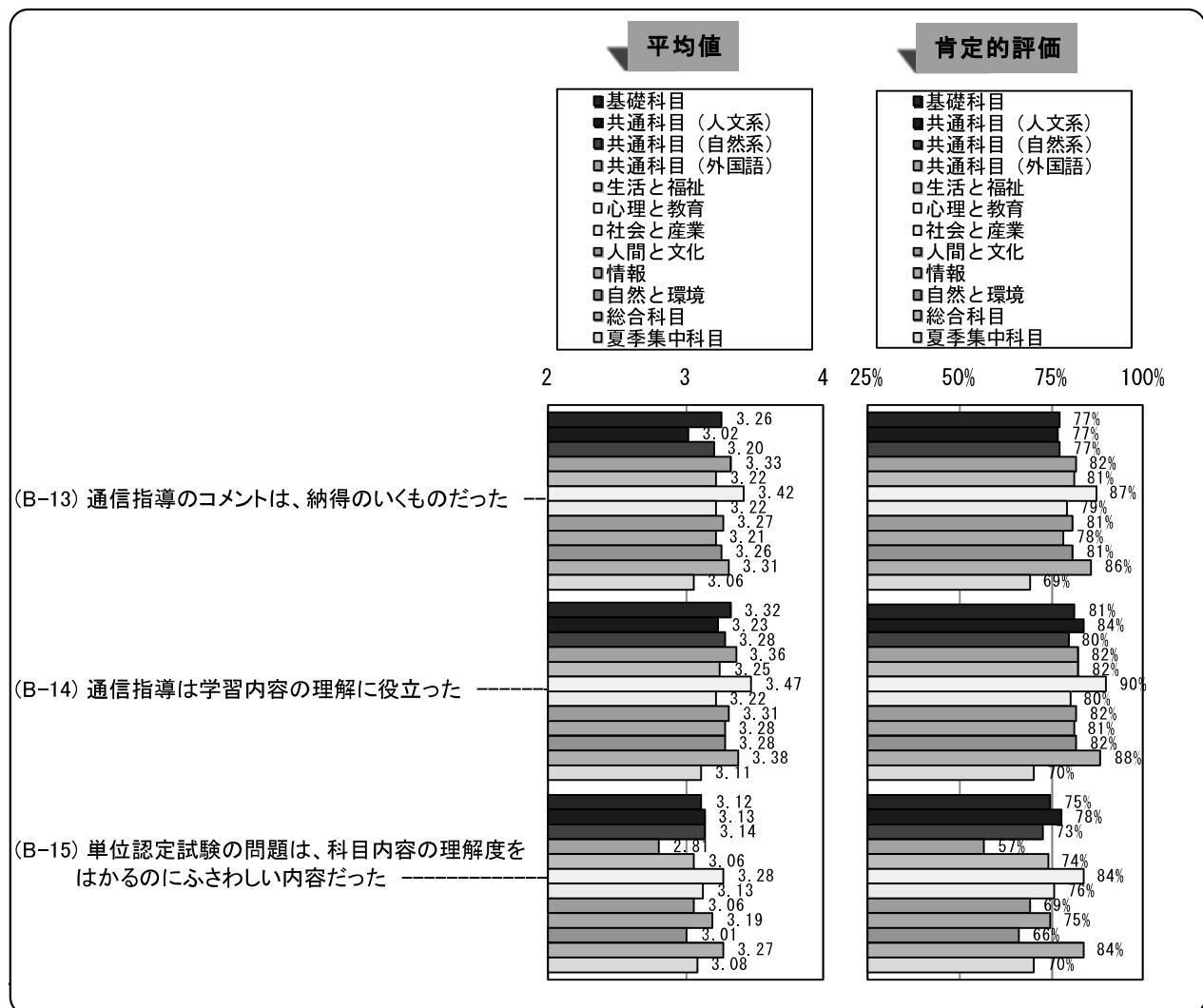
図2-45【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると(図2-46)、全ての項目において「心理と教育」の評価が高い。

一方、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」では「共通科目：外国語」の評価が極めて低い。自由記述などで原因を精査し、改善すべきであろう。

図2-46【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



## II-1-4. 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくこととする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数については巻末の参考資料を参照されたい。

ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からるのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。

この分析では、「いずれの項目を基準に、いずれの項目との相関を見るのか？」ということが分析において重要である。概して、総合的な評価は個別の評価を考慮してなされることを前提として、総合評価を基準にそのような評価となった個別評価はいずれの項目か、という観点から総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表2-2は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）を元にした放送授業の各項目との相関との分析と、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）を元にした放送授業の各項目との相関との分析を並べたものである。

表2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.404
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.420	0.620
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.412	0.616
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.432	0.774
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.471	0.733
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.404	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.401	0.691

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は

0.404 と、相関は見られるものの、弱い相関となっている。つまり放送授業の取組姿勢は放送授業の評価とは、あまり関連性が強くない。

それに比べ、放送授業の総合評価である (B-7) 「放送授業は教材としてよくできていると感じた」と各項目の相関は軒並み高く、特に (B-5) 「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6) 「講師の熱意が十分に伝わった」 の相関係数は 0.7 を越え、極めて強い相関となっている。

次に、(A-3) 「印刷教材を熱心に学習した」 (印刷教材への取組姿勢) を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果と、(B-12) 「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」 (印刷教材の総合評価) を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果を並べたものが表 2-3 である。

表 2-3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.282
(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.306	0.579
(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.311	0.555
(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.250	0.577
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.291	0.766
(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.256	0.694
(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.282	1.000

これを見ると、やはり取組姿勢と評価の間にはあまり強い相関はない。

一方、(B-12) 「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」 (印刷教材の総合評価) と印刷教材の各評価項目とでは相関は強い。特に (B-10) 「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と (B-11) 「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」 は強い相関が見られる。

最後に (A-1) 「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ (熱心度)」 と、(B-19) 「この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)」、(B-20) 「この科目の内容には全体として満足している (満足度)」 の 3 項目をそれぞれ基準として各評価項目の相関係数を見たのが表 2-4 である。

表 2-4 【学部】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.477	0.413
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.588	0.319	0.294
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.695	0.423	0.346
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.364	0.535	0.566
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.336	0.491	0.531
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.322	0.556	0.594
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.319	0.522	0.567
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.344	0.512	0.582
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.354	0.417	0.498
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.320	0.481	0.583
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.292	0.423	0.494
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.300	0.465	0.538
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.302	0.592	0.632
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.282	0.494	0.534
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.306	0.548	0.651
通信指導・認定試験単位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.275	0.442	0.491
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.295	0.462	0.528
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.269	0.478	0.553
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.333	0.533	0.592
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.423	0.625	0.743
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0.396	0.595	0.683
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.477	1.000	0.748
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.413	0.748	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と科目的理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は取組姿勢に関する評価項目に関しては高い相関を示しているが、各評価項目との相関は非常に弱い。理解度と 0.477、満足度と 0.413 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間の相関も決して強くない。

一方、理解度と満足度の相関係数は 0.748 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

今までの分析で注意すべき点は、「相関が強い」ということはすなわち「評価が高い」という事にはならない事である。

つまり、元となる項目と低い評価が一致するところが多いため相関が強くなった、というケースも考えられるのである。

従って、改善点を洗い出す方法としては、次のアプローチが有効である。

- 1) 母集団から、評価の元になる項目で低い評価を出している標本を新たな母集団として抽出する
- 2) 新たな母集団で、評価の元になる項目と各項目の相関係数を求める。
- 3) その相関が強いということは、その項目は評価の元になる項目の評価が低い原因となっていると考えられる。

このようにして改善すべき項目を絞り込む。

このアプローチで放送授業、印刷教材について分析した結果が次頁の表 2-5 である。

表2－5 【学部】放送授業と各項目との相関係数

	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)	
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.109
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.347
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.087
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.423
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.432
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.048
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.057
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.638
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.554
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	1.000
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.488
	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.412
印刷教材	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.138
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.160
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.136
	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.167
認定指導試験・単位	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.175
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.091
	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.124
全体評価	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.168
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0.140
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.097
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.147

表から読み取れるのは、講師に関する項目の値が高く、放送授業に対する評価の低さと強い相関にあると考えられる。特に(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、わかりやすかった」が0.6を越える強い相関を示している。

同じように、相関係数の高い項目に改善のポイントはあると推察できる。

次に、印刷教材についても同様の分析を行ったのが次頁の表2-6である。

表2-6 【学部】印刷教材と各項目との相関係数

	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)	
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.121
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.123
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.036
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.288
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.283
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.276
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.253
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.401
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.301
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.384
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.333
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.314
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.507
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.452
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	1.000
通信指導試験・単位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.285
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.308
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.254
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.310
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.334
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0.294
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.286
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.399

この結果から読み取れるのは、「印刷教材の内容は必ずしも明確ではなかった/説明も必ずしも分かりやすくなかった」「図表や写真などが必ずしも適切に用いられていなかった/必ずしも内容の理解に役に立たなかった」と感じている学生が印刷教材の評価を低くする要因となっている可能性が高いということである。

なぜか講師の項目とも相関が見られるが、授業というものは放送・印刷教材の両方で受けるものなので、アンケートで評価を下すにあたっては必ずしも放送授業・印刷教材という区分で分けられないケースもあるのではないかと推察される。

## II-2. 大学院の分析結果

### II-2-1. 項目平均から見た全体的傾向

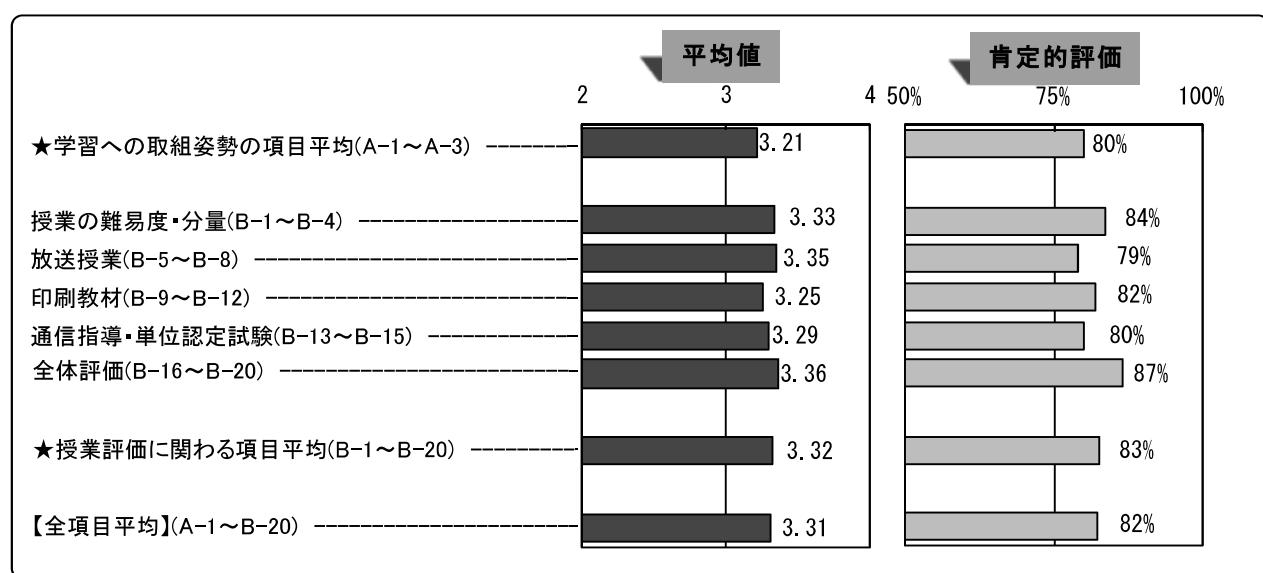
ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図2-4-7である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、学部生に比べて取組姿勢・授業評価がやや高く、また違った傾向がうかがえる。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値が3.21、肯定的評価（「あてはまる」+「ややあてはまる」）が80%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値が3.32、肯定的評価が83%と高い値を示している。学習への取り組みが熱心であったこと、また授業に対する評価が高いことが特徴的である。

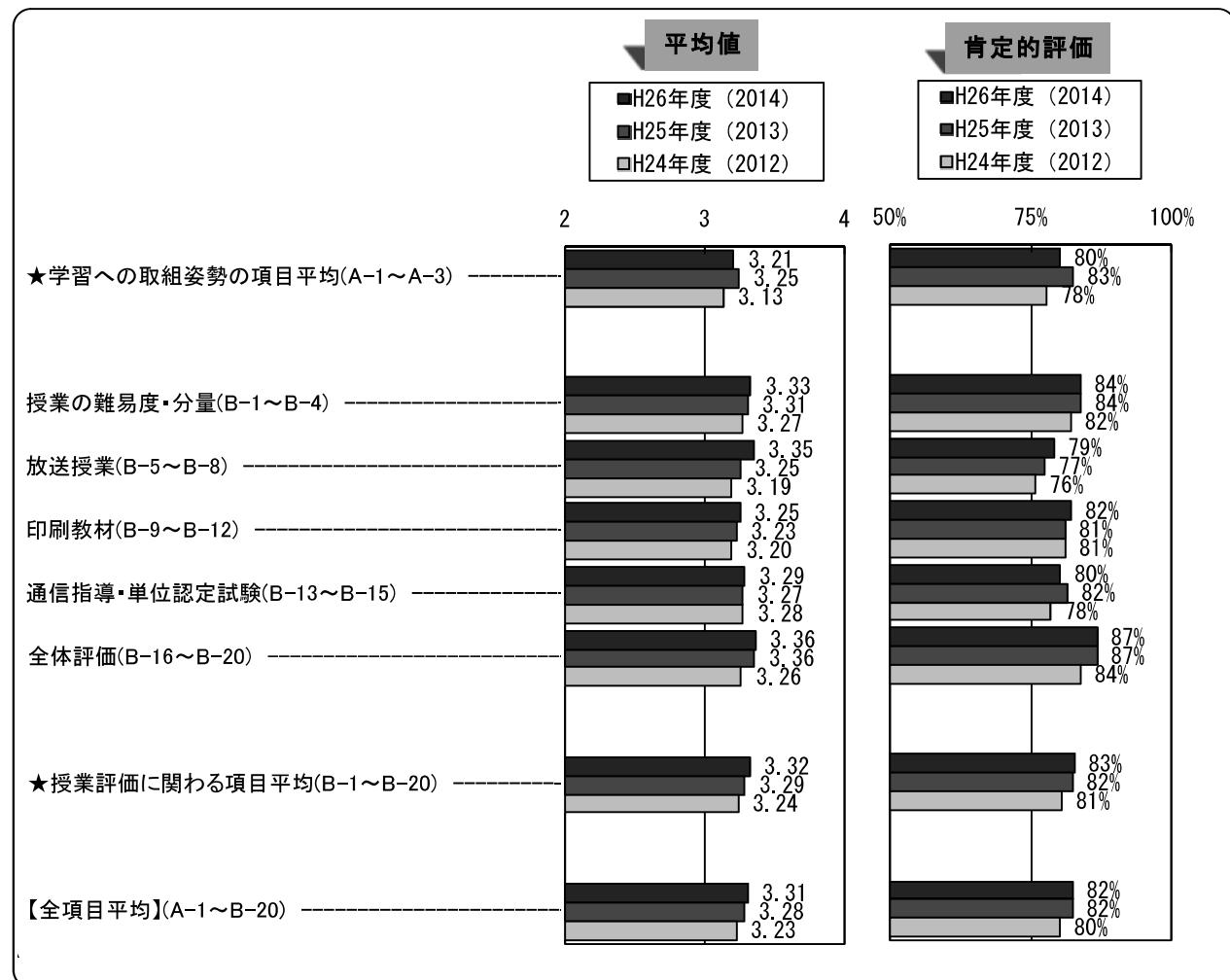
『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとに見ると、『全体評価』は平均値3.36、肯定的評価87%と評価が高い。しかし『放送授業』『通信指導・単位認定試験』は平均値が高いが、肯定的評価では他の項目に比べてやや低い割合となっている。

図2-4-7 【大学院】項目平均による全体的傾向



項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-48）、2014年度新規開設科目は、2013年度新規開設科目に比べ、『学習への取組姿勢の項目平均』を時系列で見た場合は平均値、肯定的評価ともに前回よりやや低くなっている。その他ほとんどいずれの項目では、ほぼ昨年の水準を保っている。

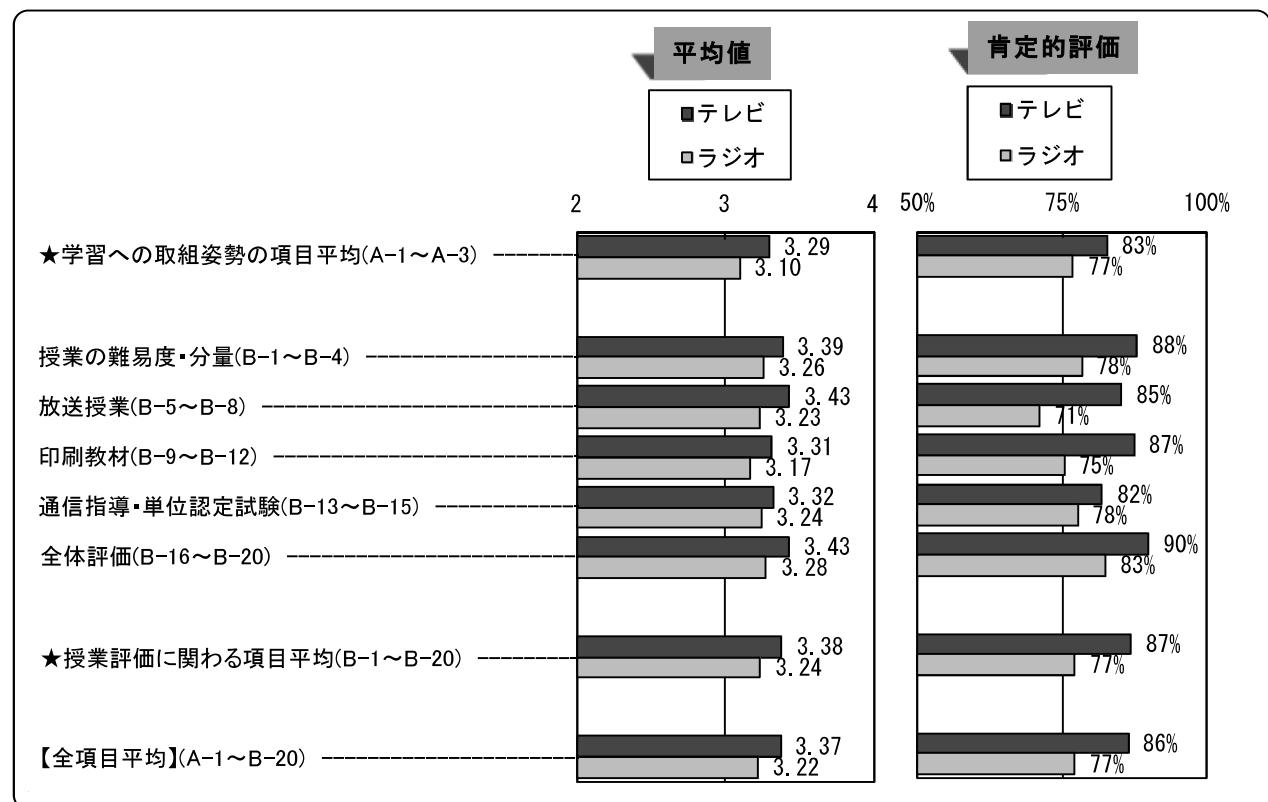
図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に2014年度新規開設科目の項目平均を見ると(図2-4-9)、『学習への取組姿勢の項目平均』『授業評価に関わる項目平均』とともに、ラジオ科目に比べてテレビ科目の評価が高い。

特に『授業評価に関わる項目平均』では、平均値の差に比べ、肯定的評価の差が大きいことも特徴である。大学院の専門的な学習においては、聴覚よりも視覚で学習する方がよいという学生の考えが感じられる結果となっている。

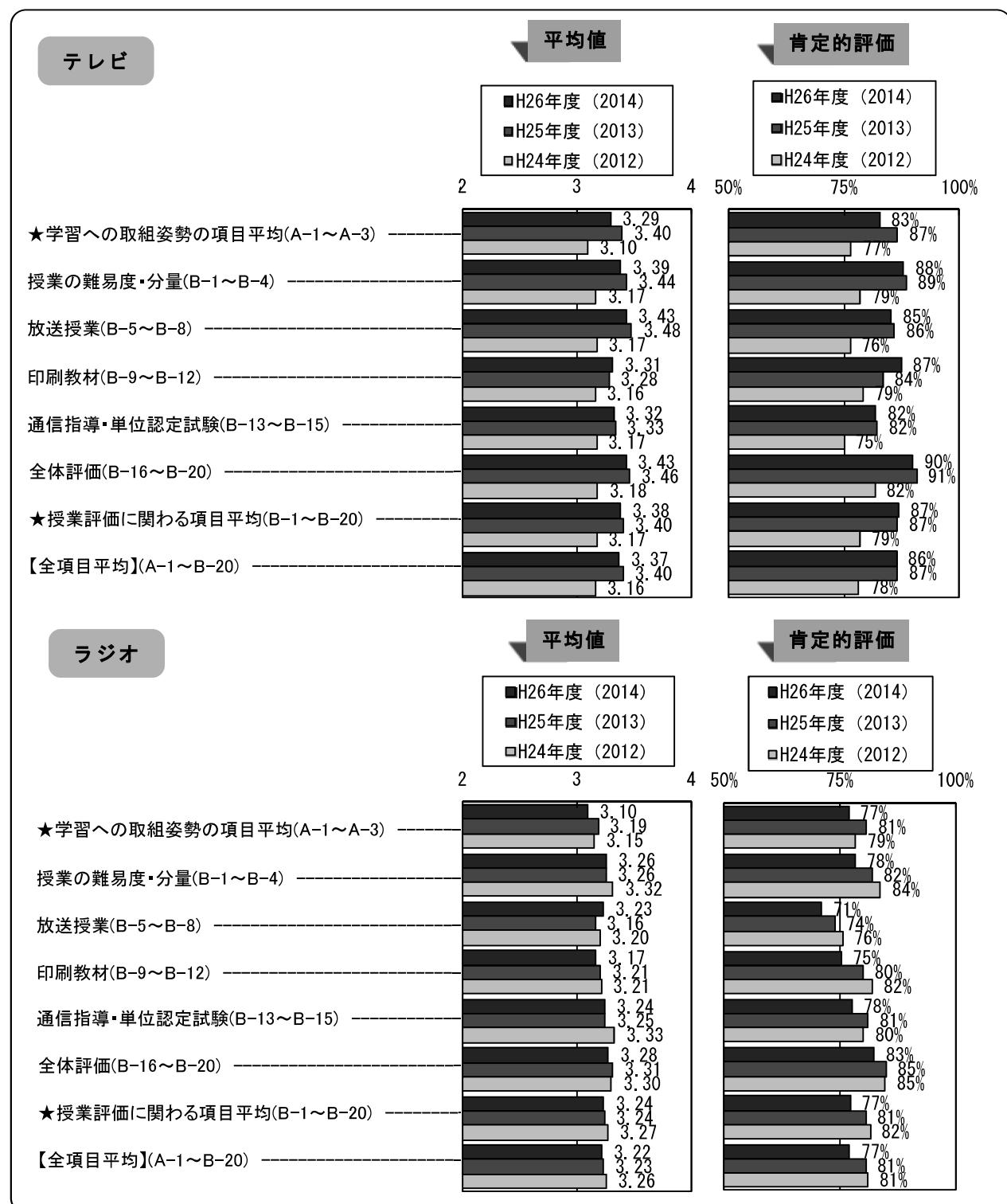
図2-4-9 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると(図2-50)、2014年度新規開設科目では、2013年度新規開設科目に比べ、テレビ科目は『学習への取組姿勢の項目平均』が低くなり、『授業評価に関わる項目平均』がやや低くなっている。

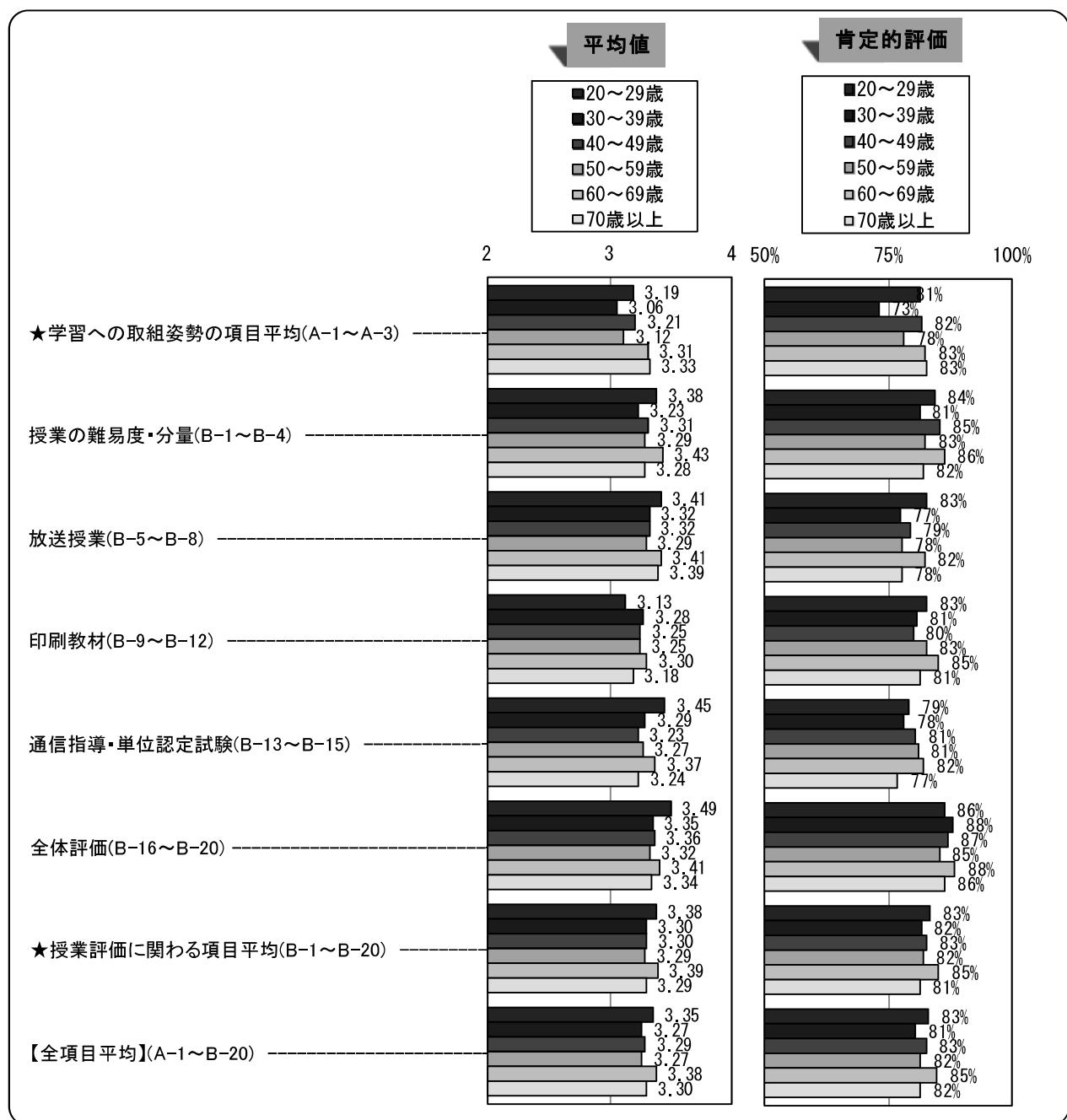
ラジオ科目では平均値はほぼ昨年の水準を保っているが、肯定的評価においては全ての項目で評価が低くなっている。

図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向(開設年度比較)



回答者の年齢階層別で2014年度新規開設科目の項目平均を見ると(図2-5-1)、ほとんどの項目において20歳代と60歳代が高い傾向にある。『印刷教材』の平均値は20歳代と70歳以上が突出して低いが、肯定的評価では高い割合となっている。

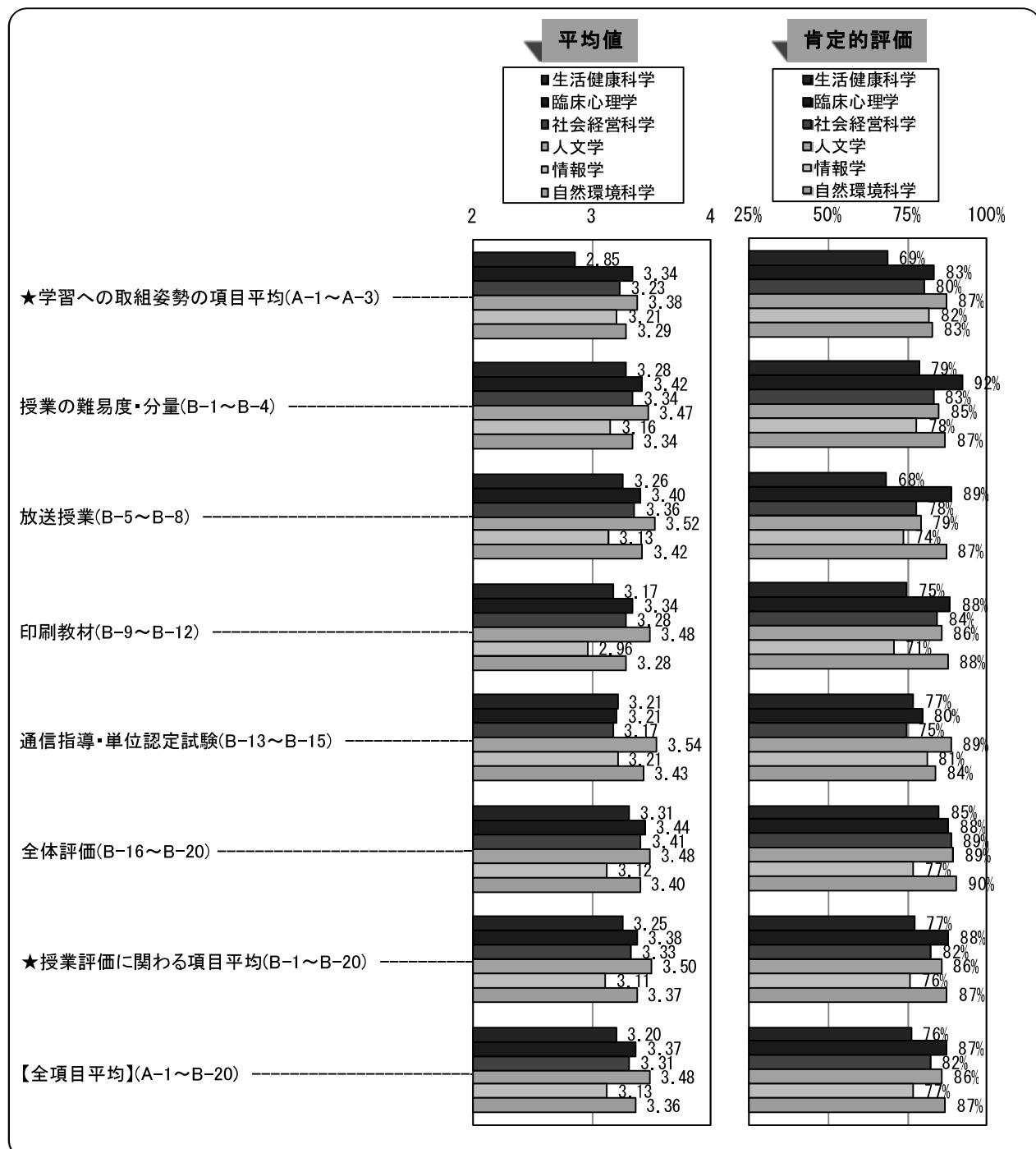
図2-5-1 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「人文学」、「臨床心理学」の値が高くなっている。

『授業評価に関わる項目平均』は、「臨床心理学」、「社会経営科学」、「人文学」、「自然環境科学」の評価が高い。一方で「生活健康科学」は多くの項目でやや低くなってしまっており、改善が求められるプログラムである。

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

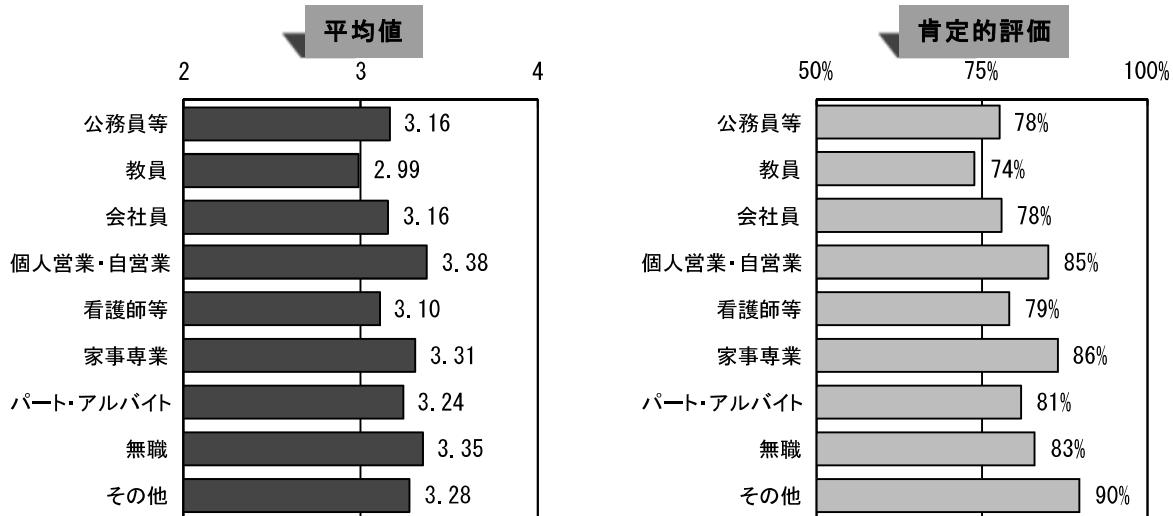


職業別に項目平均を見ると（次頁図2－53）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「個人営業・自営業」で評価が高く、「教員」で低くなっている。

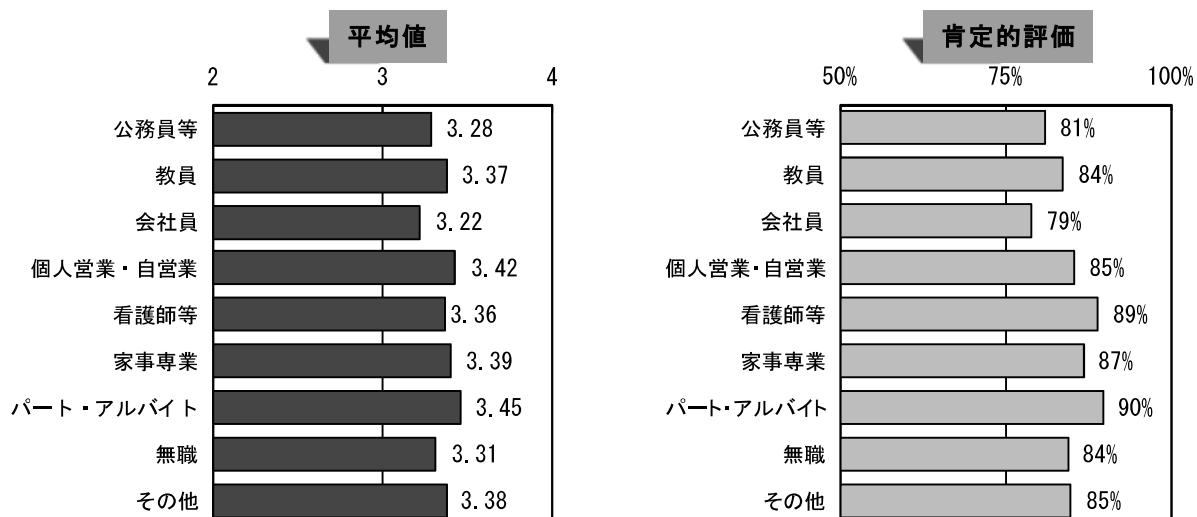
『授業評価に関わる項目平均』は、「会社員」の評価がやや低めだが、他はますます高い水準になっている。

図2-53 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

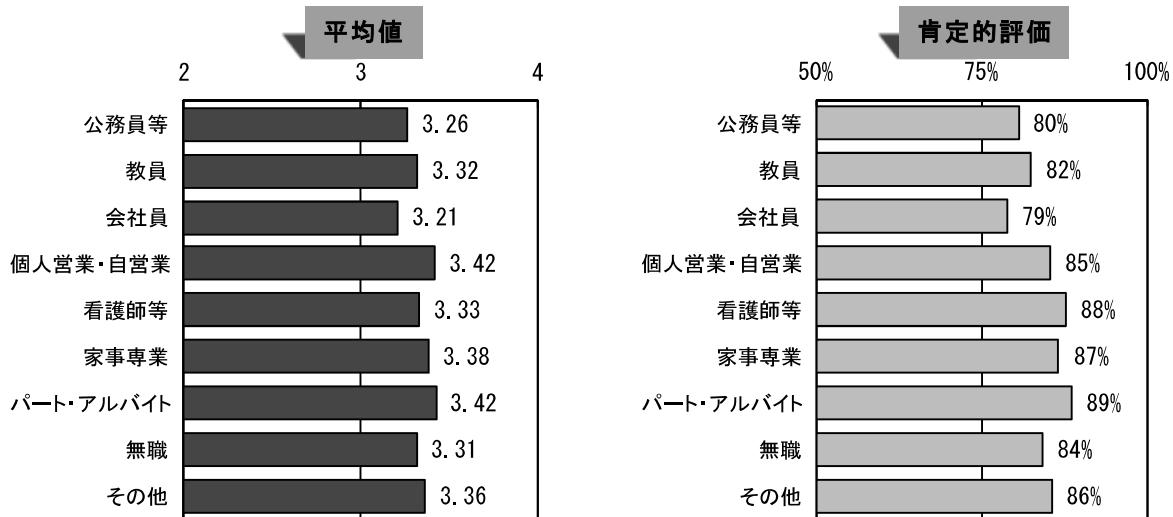
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)



【全項目平均】(A-1~B-20)

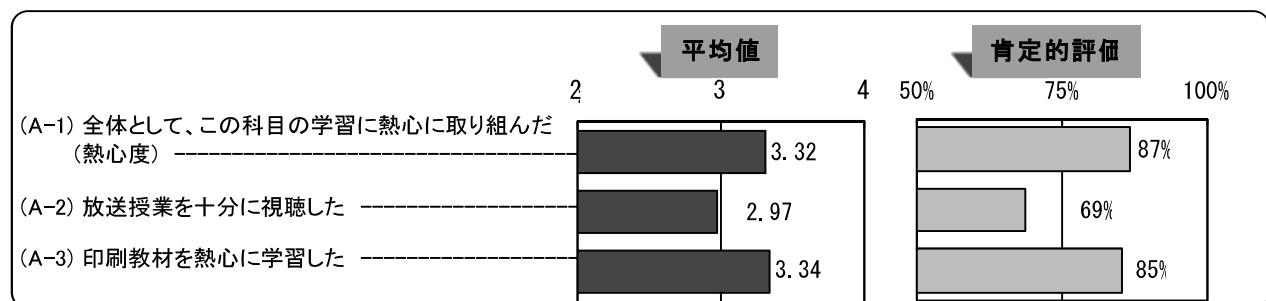


## II-2-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

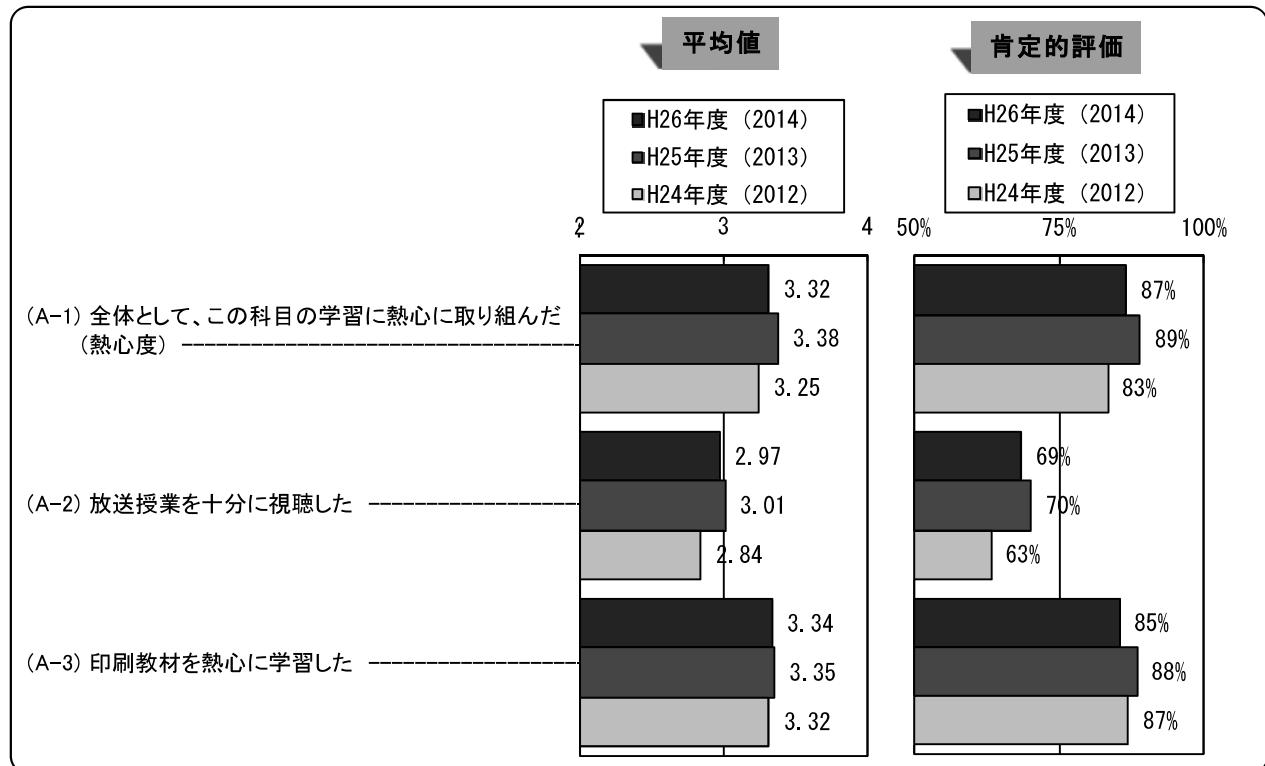
学習への取組姿勢（図2-5-4）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値3.32、肯定的評価87%で、熱心に学習されている。同様に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値3.34、肯定的評価85%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値2.97、肯定的評価69%と低くなっている。学部と同様、全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、印刷教材での学習が中心となっている。印刷教材に比べ放送授業の視聴度合いがよくないのは、時間的な制約も考えられるが、放送授業そのものの内容が影響しているとも考えられるので、今後もより興味を引く放送内容への改善努力を進めるべきであろう。

図2-5-4 【大学院】回答者全体の取組姿勢



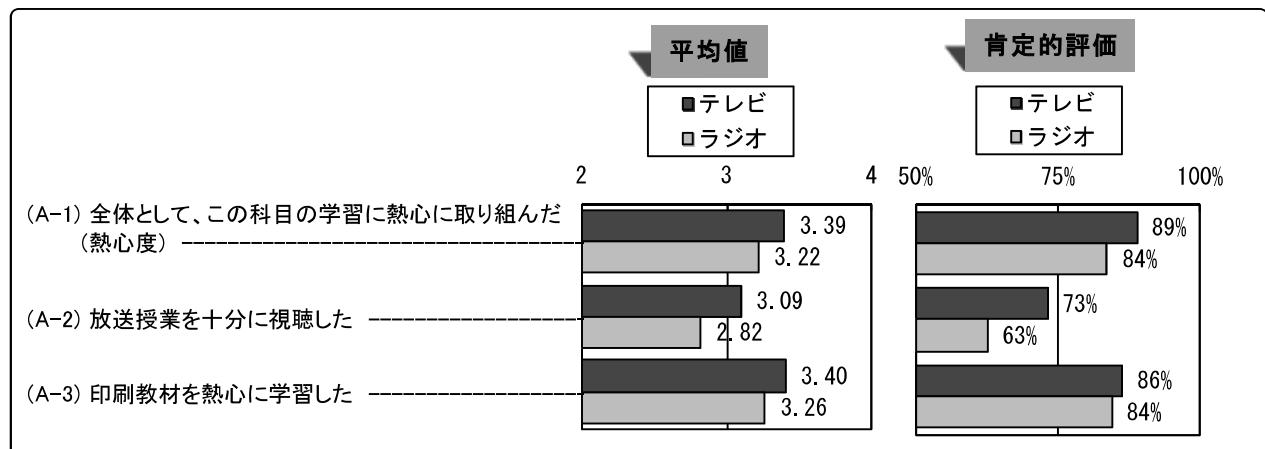
学習への取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-5-5）、全ての項目において2013年度よりもわずかに下回っている事がうかがえる。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の評価は通年において低い。

図2-55 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



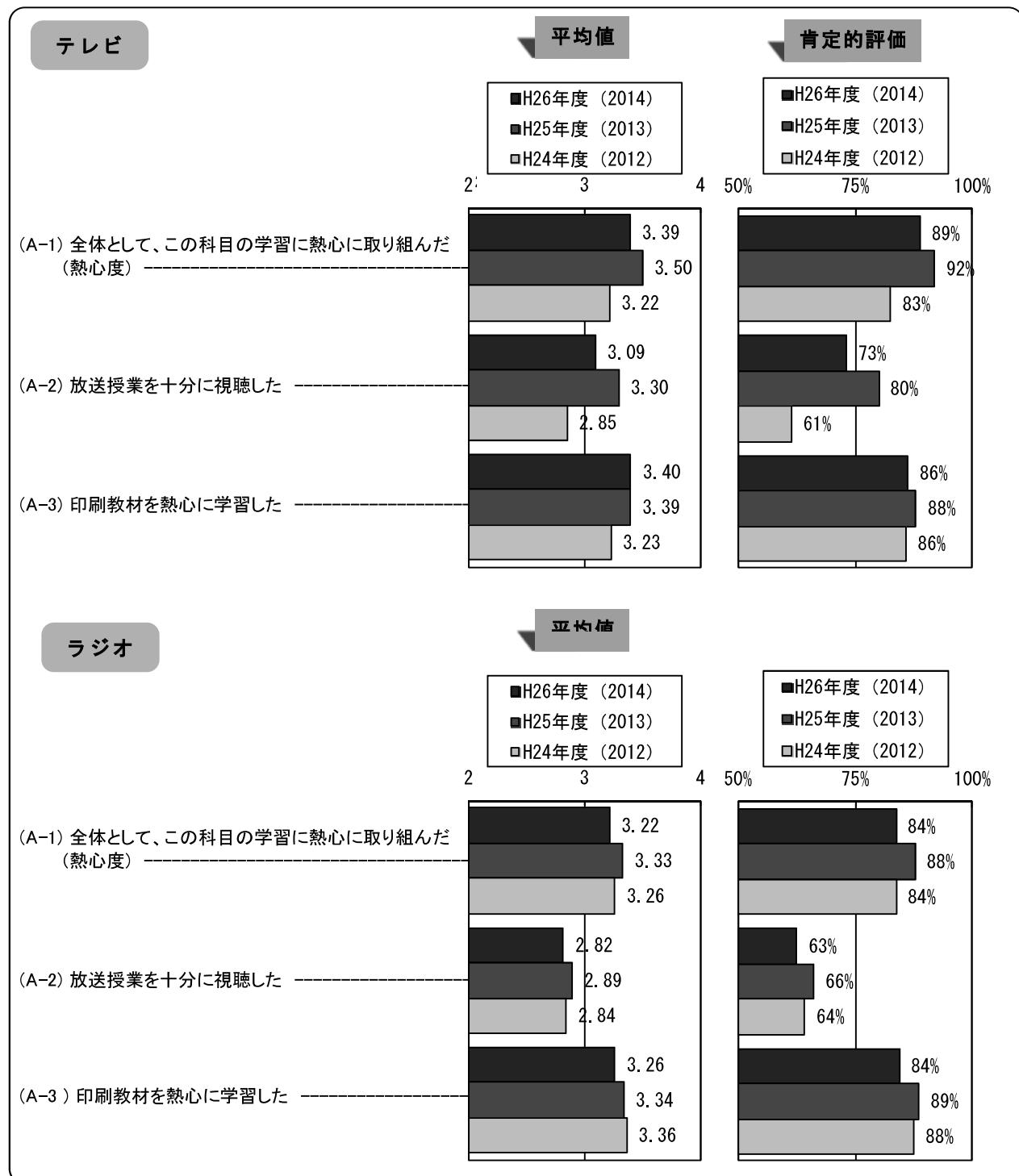
メディア別の取組姿勢を見ると（図2-56）、いずれの項目においても、テレビ科目の方がラジオ科目より高い。（A-2）「放送授業を十分に視聴した」ではラジオ科目がかなり低くなっている。テレビ科目の視聴度はやや高いが、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」では、ラジオ科目が同等の数字であるのに対し、テレビ科目は若干低くなっている。今後もテレビ科目、ラジオ科目ともに授業内容の見直し等を行うことにより、放送授業の視聴を上げていく必要があるだろう。

図2-56 【大学院】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（次項図2－57）、2014年度新規開設科目では2013年度新規開設科目に比べいずれの項目でも下回る評価となっている。特に評価が低下したのはテレビ科目の（A-2）「放送授業を十分に視聴した」である。

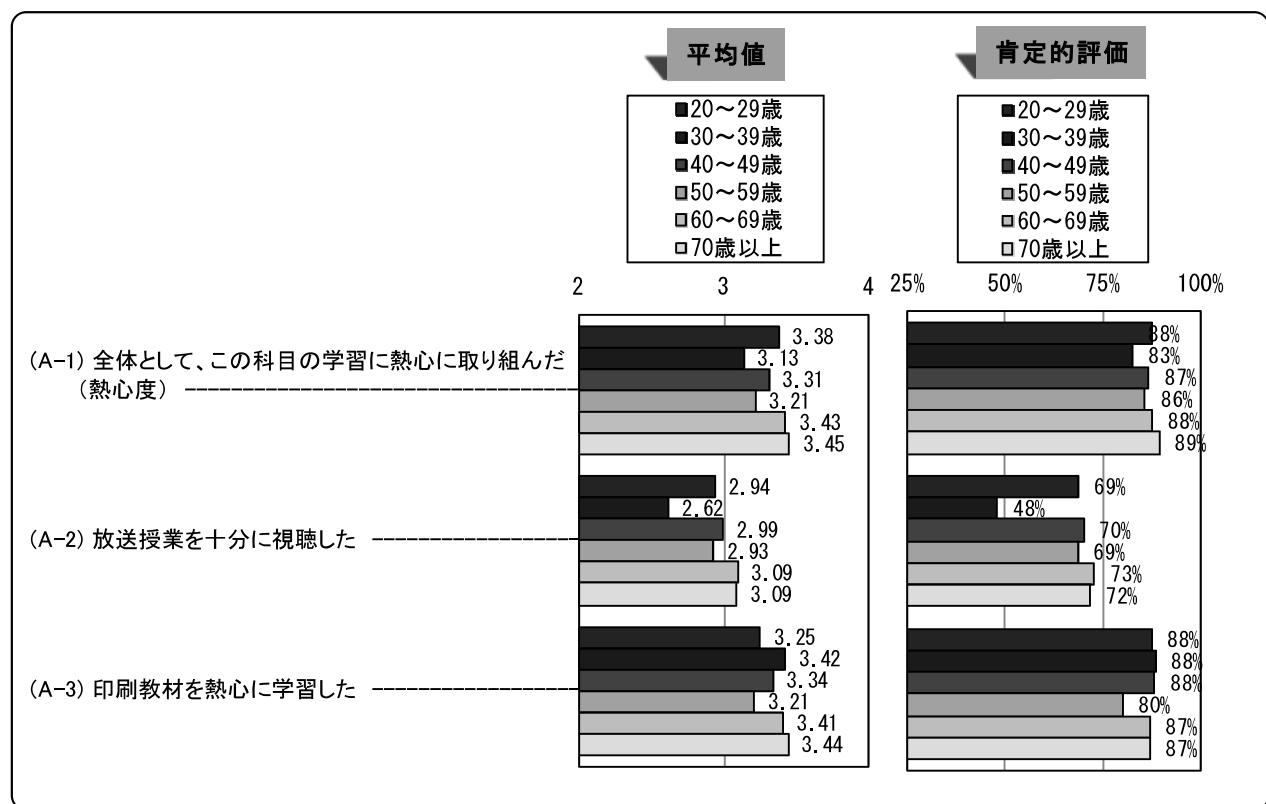
図2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取組姿勢を見ると(図2-58)、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」では全ての年齢階層で評価が高く、同様に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が全ての年齢階層で評価が高い。一方で(A-2)「放送授業を十分に視聴した」では全体的にやや低い傾向の中、30歳代の評価が際立って低い。

総じて全ての年齢階層で放送授業と印刷教材では印刷教材で熱心に学習していることがうかがえる。

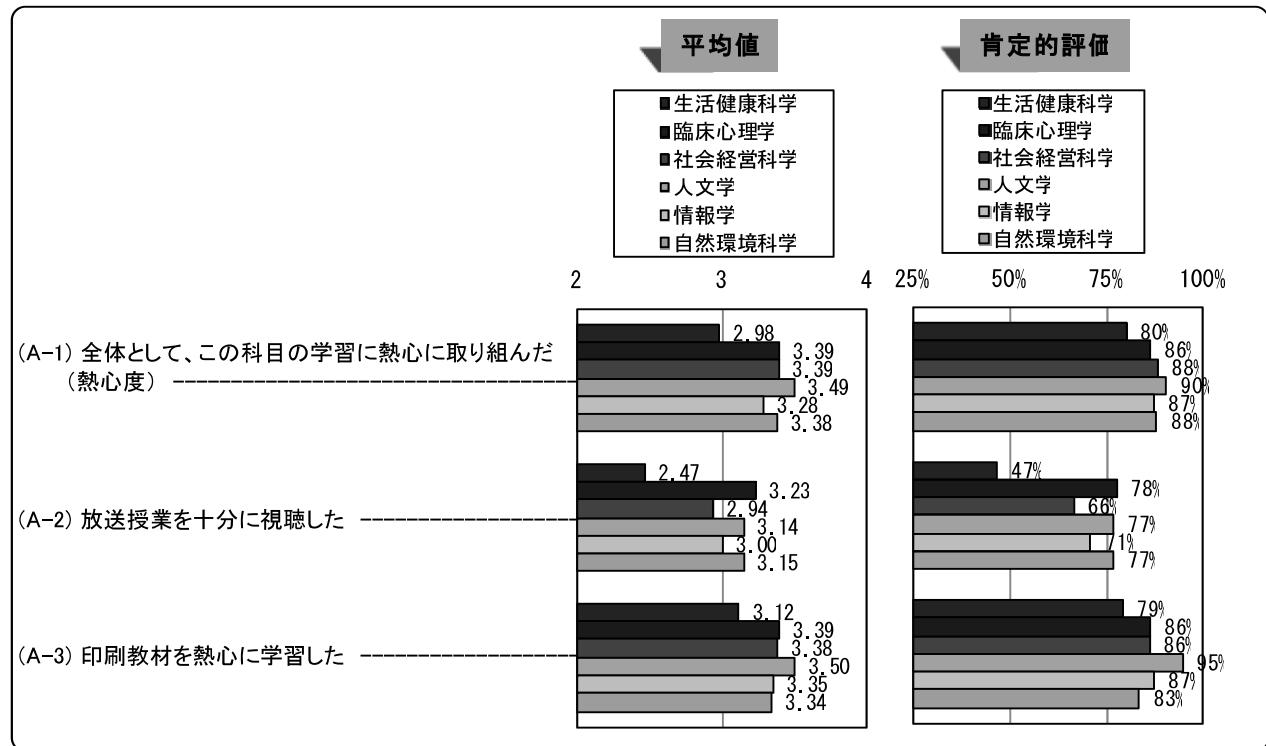
図2-58 【大学院】年齢階層別の取組姿勢



所属プログラム別に取組姿勢を見ると（図2－59）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では「人文学」で肯定的評価が高く、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」においても「人文学」が高い値を示している。

また、「生活健康科学」はいずれの項目でも評価が低く、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」に至っては50%を割り込んでいる。昨年度は評価が高かったプログラムなので、原因の解明と改善策が求められる。

図2－59【大学院】所属プログラム別の取組姿勢

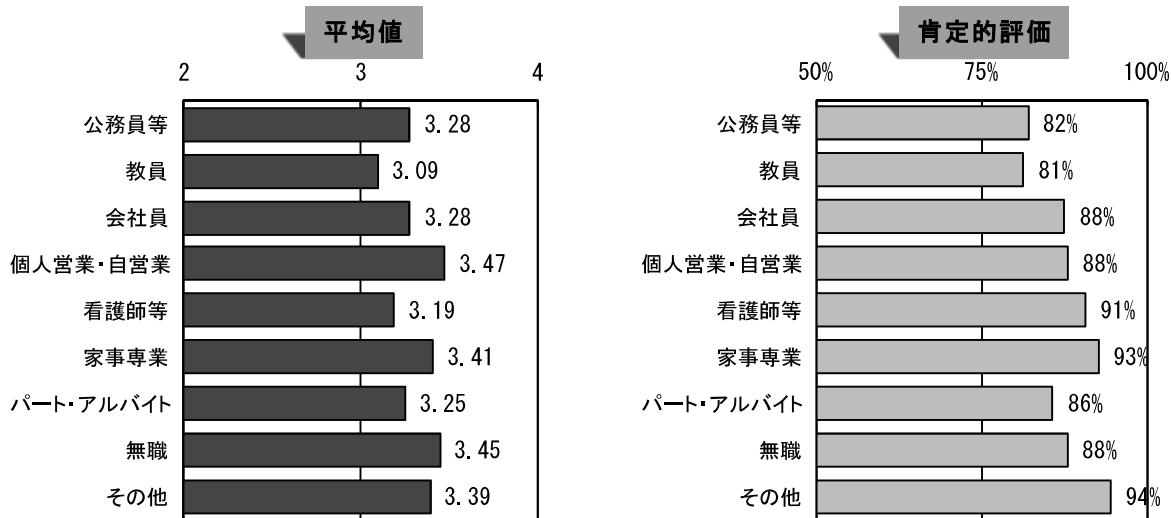


職業別に取組姿勢を見ると（次頁図2－60）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では全体的に評価が高いが、「教員」「看護師等」は評価がやや低い。（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」ではいずれの職業も取組姿勢は一定の高い水準を示している。

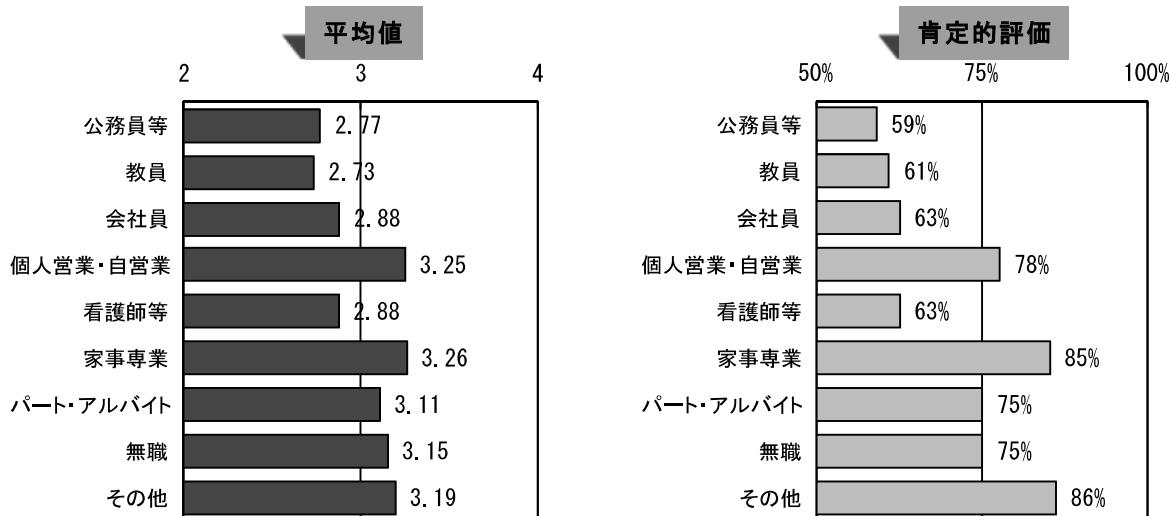
（A-2）「放送授業を十分に視聴した」では、いずれの職業も低めの値だが、「個人営業・自営業」「家事専業」ではやや高めの値である。

図2-60【大学院】職業別の取組姿勢

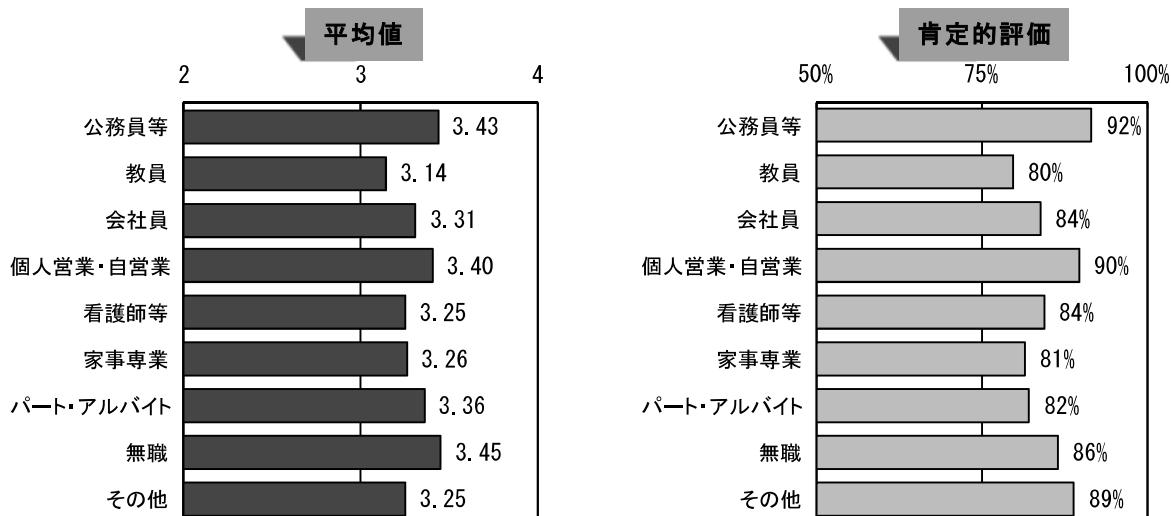
(A-1) 全体として、この科目的学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

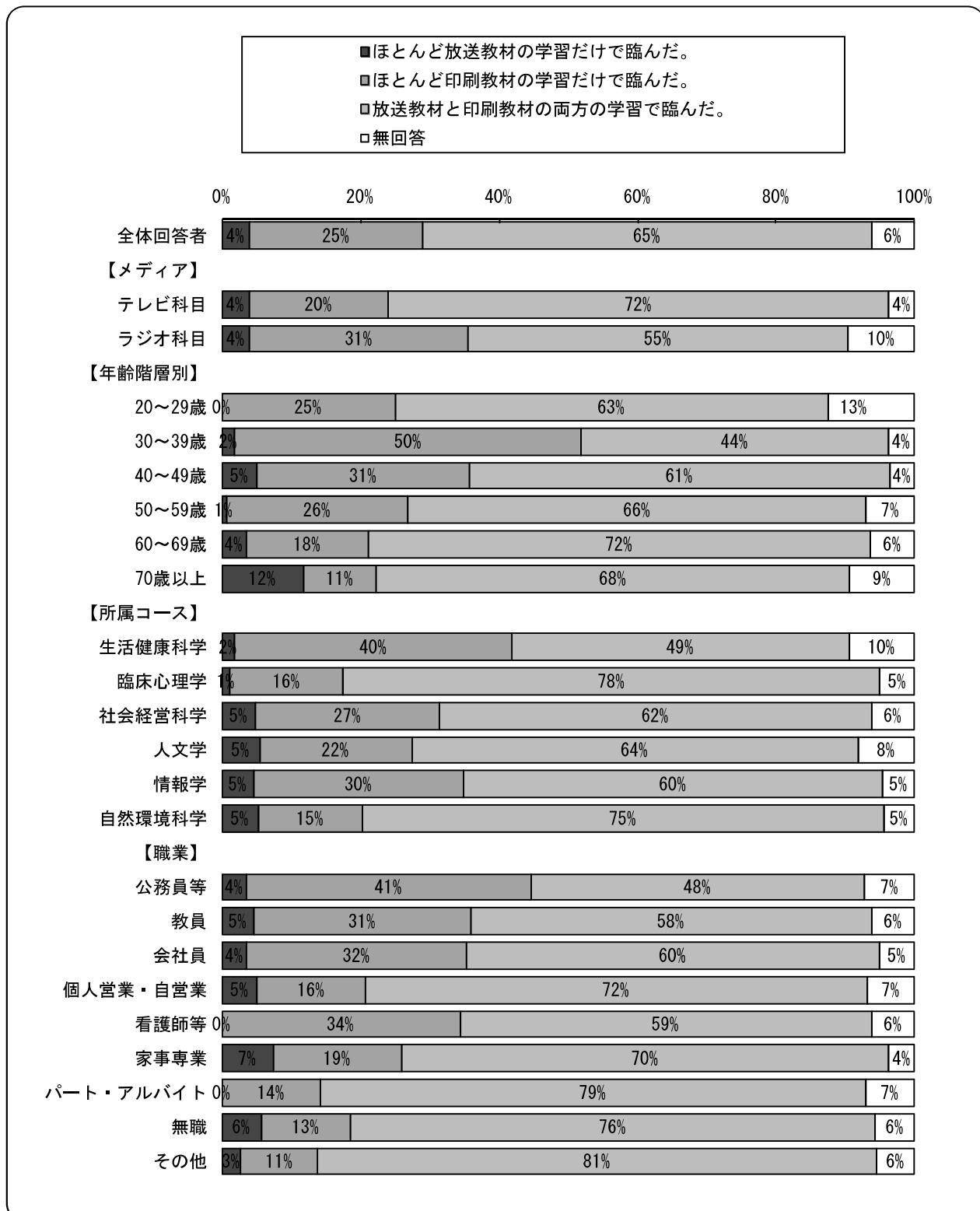


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（図2－6－1）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が65%を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が25%となっている。「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は極めて少なく、年齢階層別や職業別では「看護師等」「パート・アルバイト」では0%である。

図2－6－1【大学院】単位認定のための学習方法



## II-2-3. 大学院の授業評価

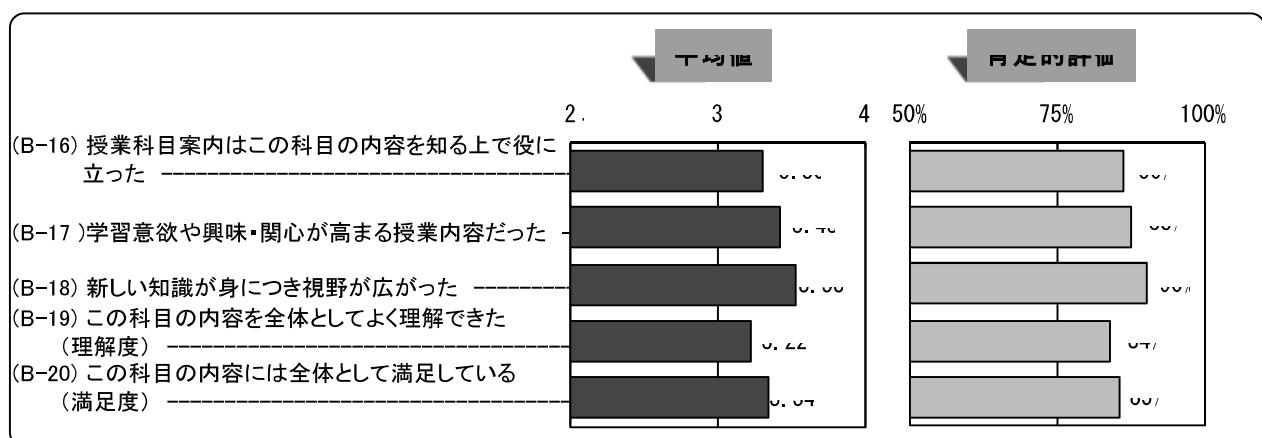
### (1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価を見ると（図2-6-2）、いずれの項目も高い評価となっている。特に（B-18）「新しい知識が身につき視野が広がった」は、平均値3.53、肯定的評価90%と非常に高くなっている。

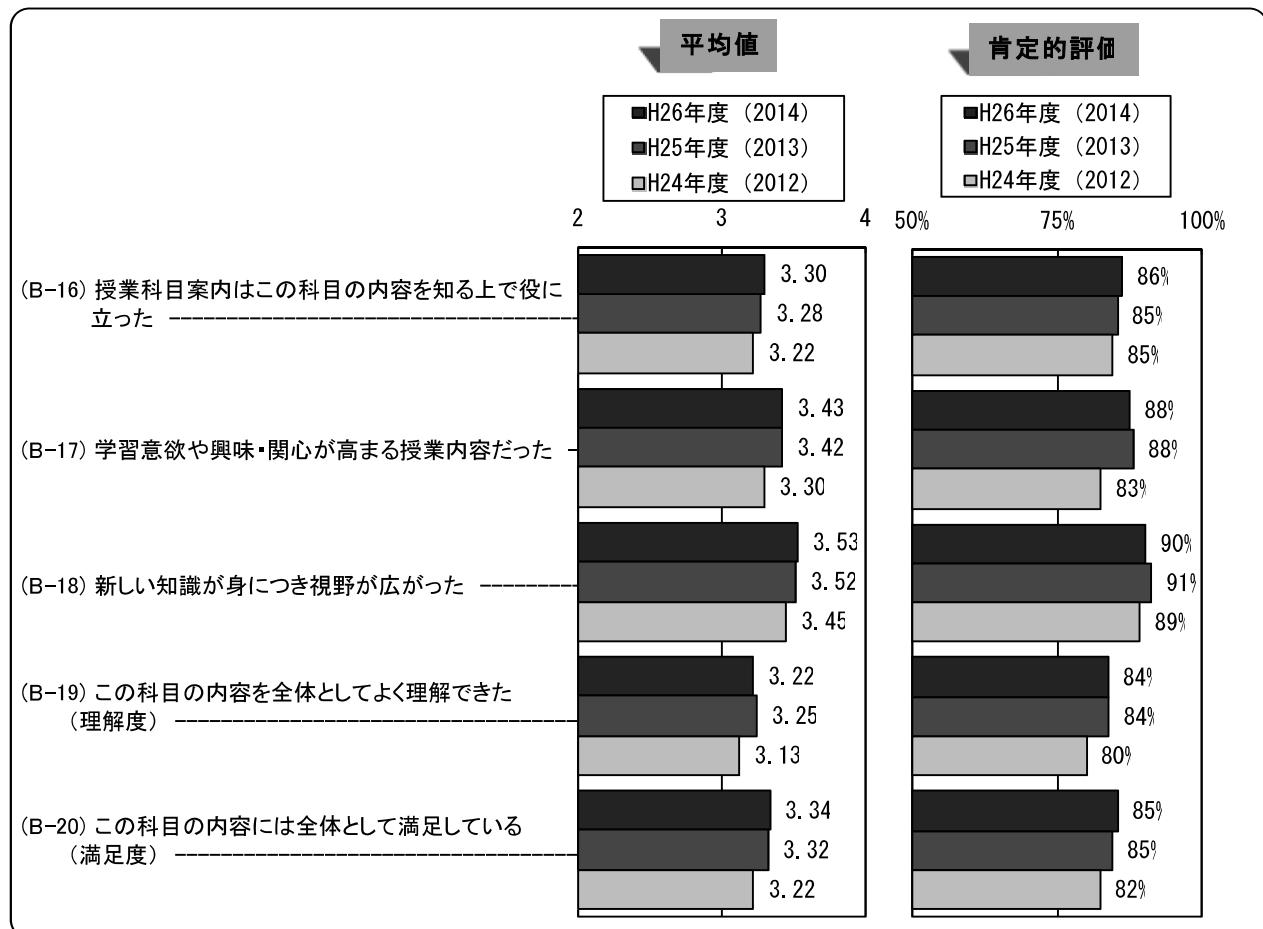
（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も平均値3.34、肯定的評価85%と高い満足度を示しているのに対し、（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」では、平均値3.22、肯定的評価84%となり、満足度と理解度にやや矛盾を感じる結果となっている。

図2-6-2 【大学院】回答者全体の全体評価



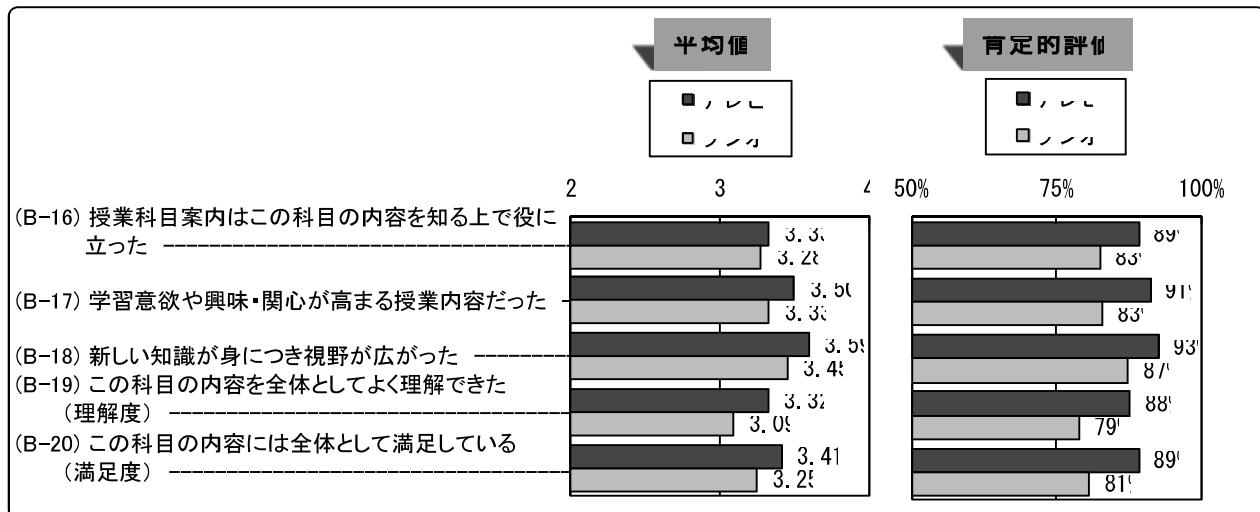
全体評価を時系列で見ると(図2-6-3)、全ての項目において2014年度は2013年度の水準とほぼ変わらない値を維持している。

図2-6-3【大学院】回答者全体の全体評価(時系列)



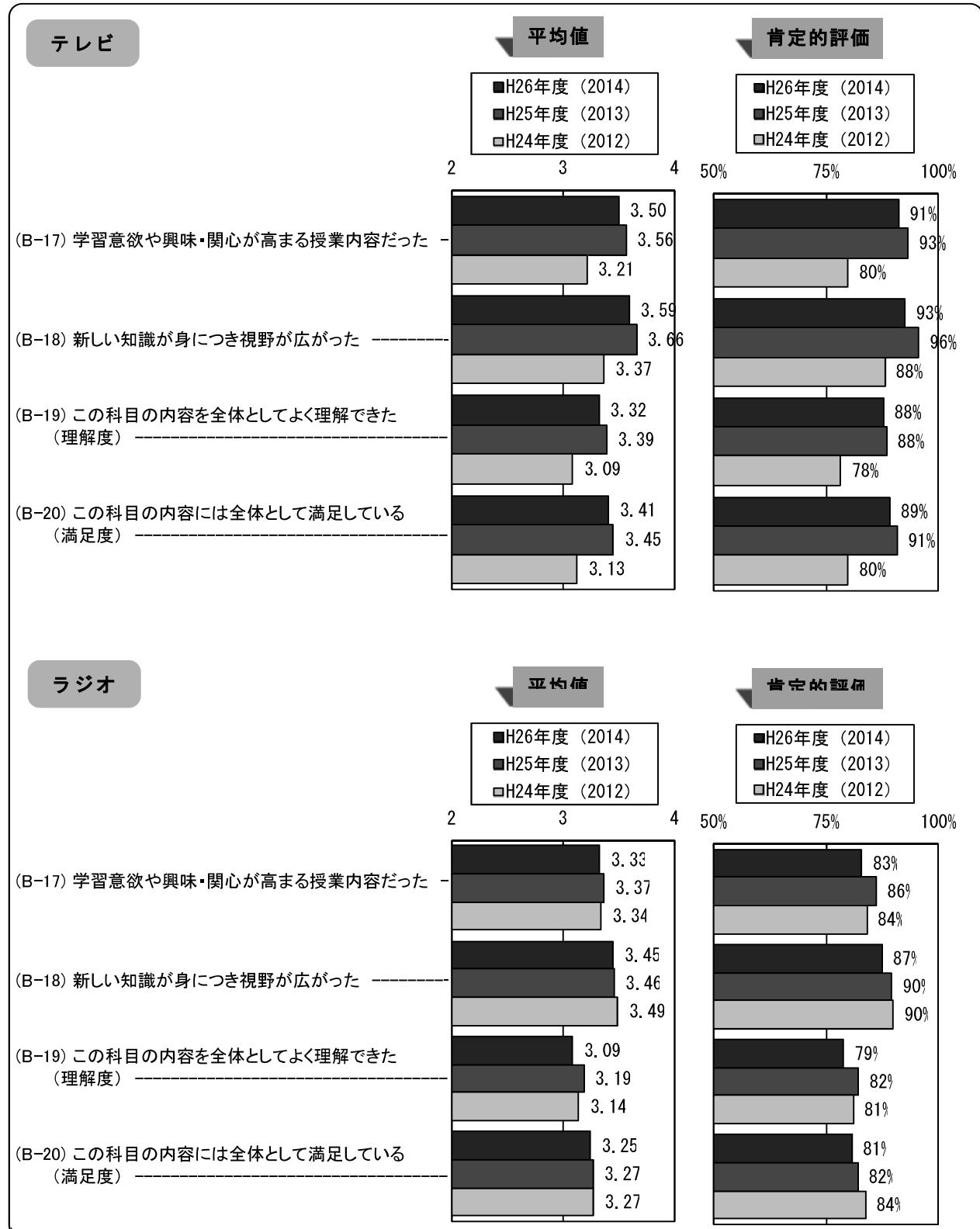
メディア別に全体評価を見ると(図2-64)、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」のラジオ科目がやや低いが全体的に評価は高い。特に(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」のテレビ科目では平均値3.59、肯定的評価93%と非常に高くなっている。

図2-64【大学院】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると(次頁図2-65)、テレビ科目は、いずれの項目も2013年新規開設科目に比べ2014年新規開設科目でやや低くなっているものの、全体的には高い評価を維持している。ラジオ科目は、2013年新規開設科目に比べ2014年新規開設科目ではいずれの項目においてもやや低下している。

図2-65 【大学院】メディア別の全体評価（時系列）

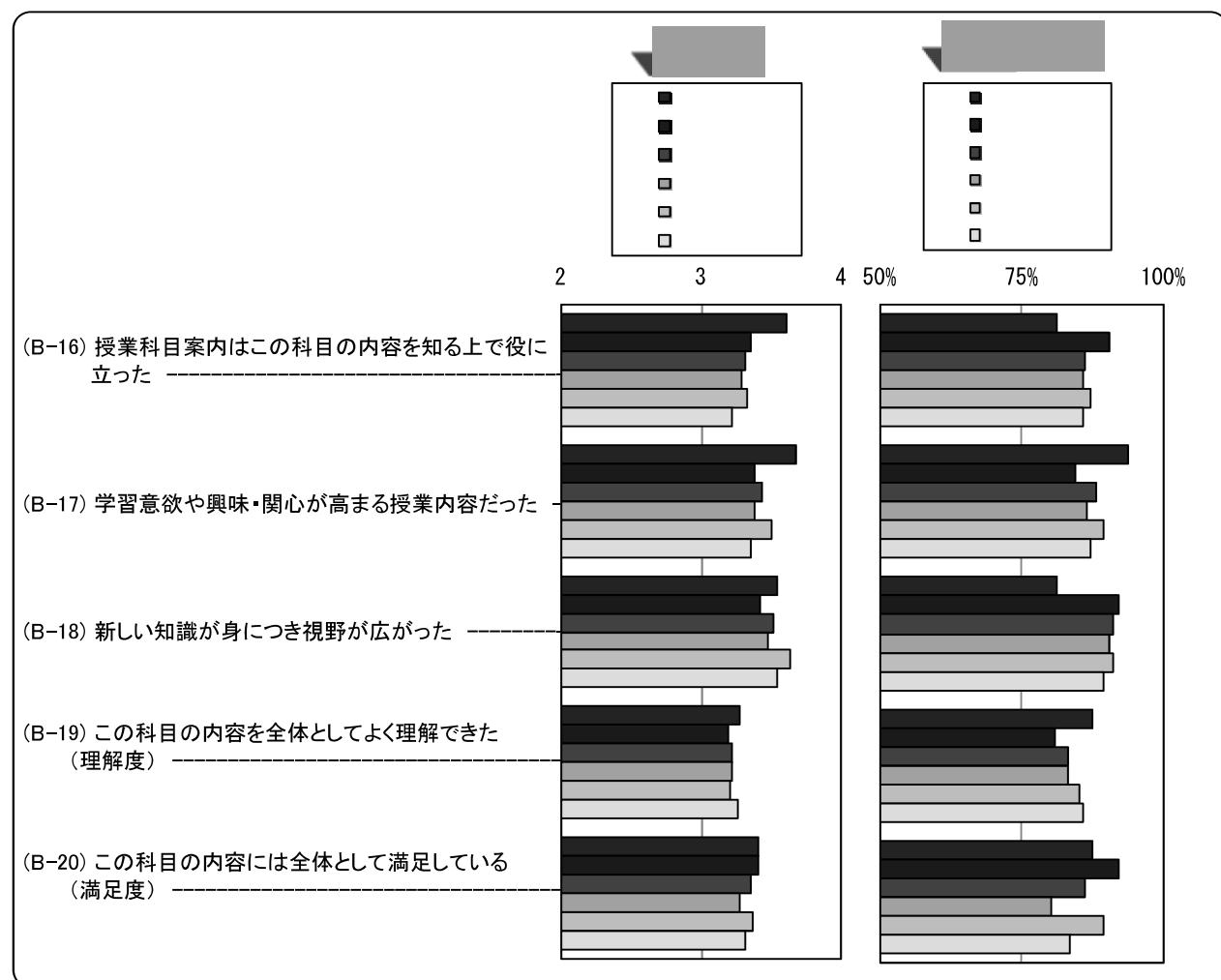


年齢階層別に全体評価を見ると（図2-6-6）、全体的に評価が高いことがわかる。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」では50歳代の評価が低くなっているものの、平均値では3.27、肯定的評価では80%と高い水準にある。

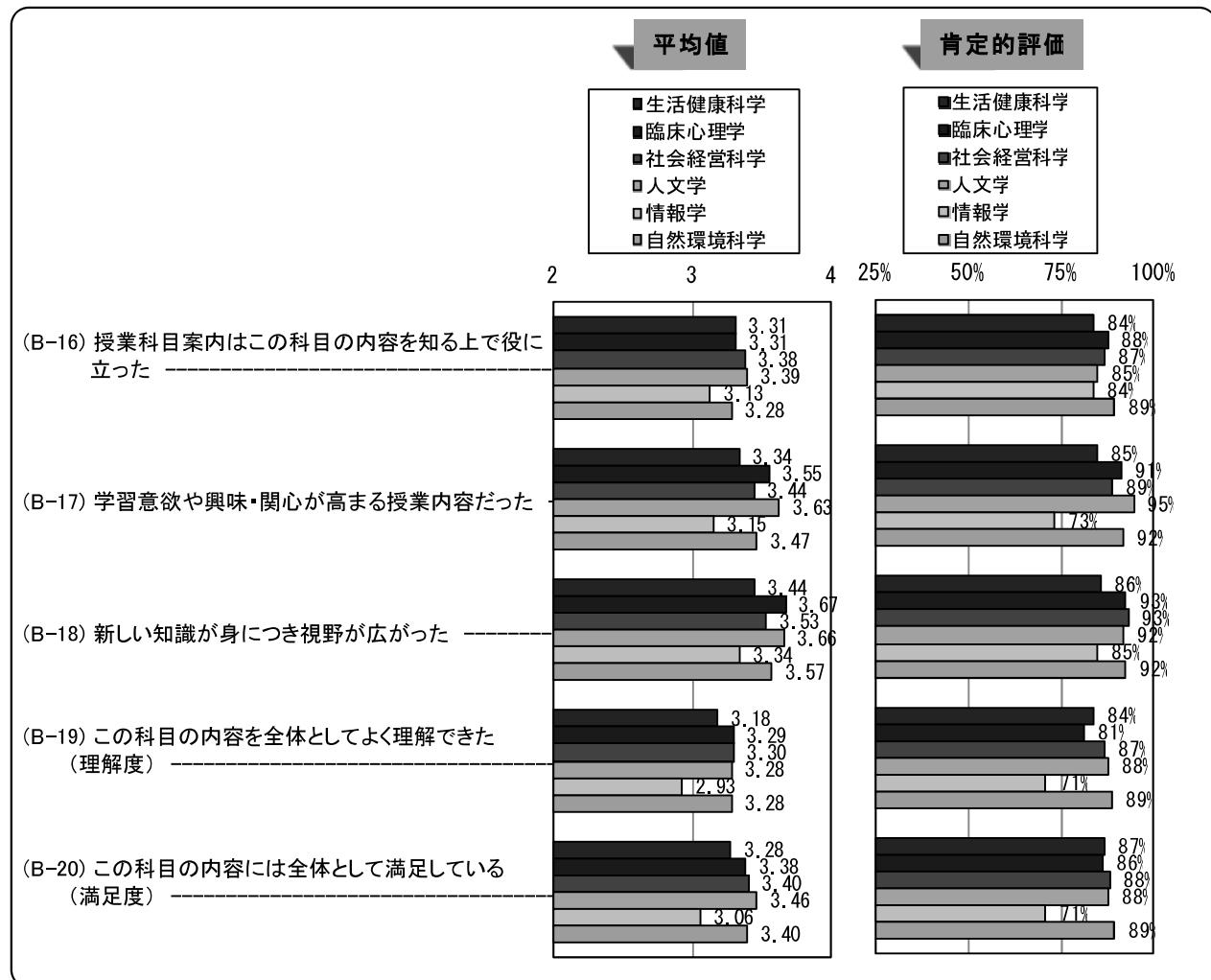
総じて、ほとんどの年齢層でいずれの項目においても平均値は3.20以上で、肯定的評価は80%以上になっており、高い水準である。

図2-6-6 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると(図2-67)、ほとんどのプログラムで高水準の値を示している中、「情報学」は(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」で低い値を示している。

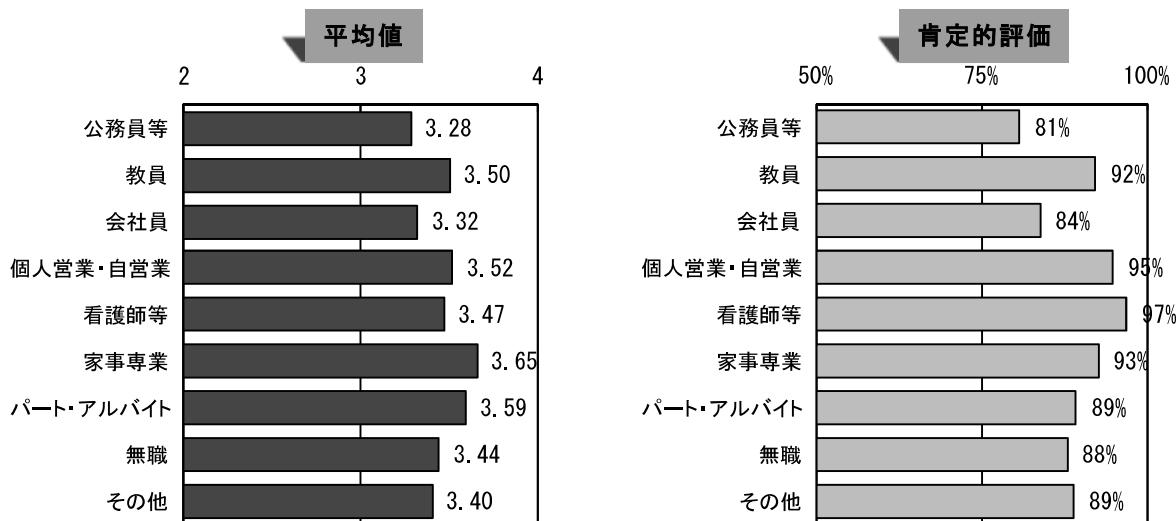
図2-67【大学院】所属プログラム別の全体評価



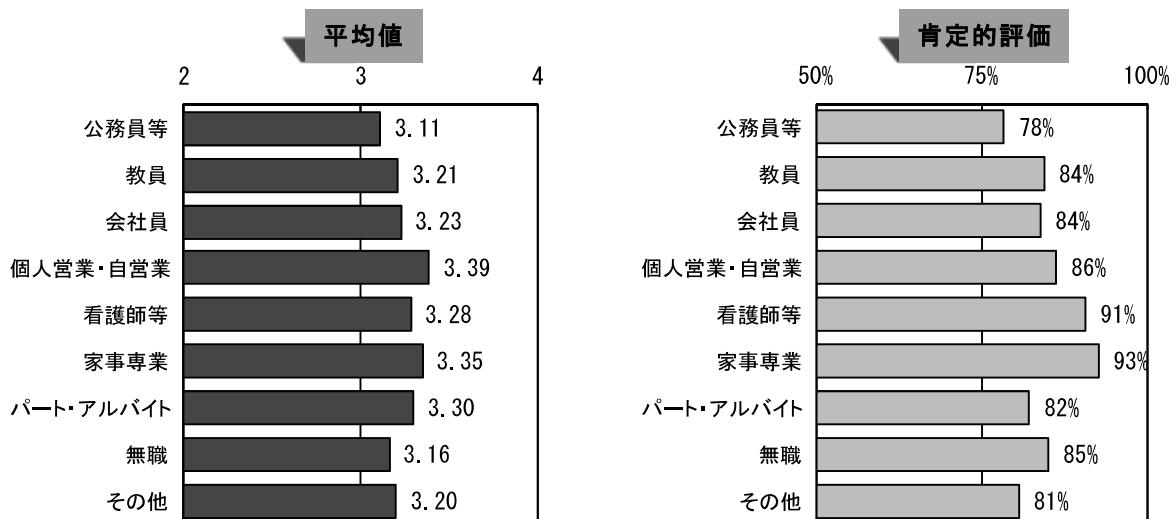
職業別に全体評価を見ると(次頁図2-68)、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は「公務員等」「会社員」がやや低く、その他の職業ではまずまずの高い評価となっている。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」では「公務員等」が他の職業に比べ低く、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」においては全体的に一定の水準の評価である。

図2-68【大学院】職業別の全体評価

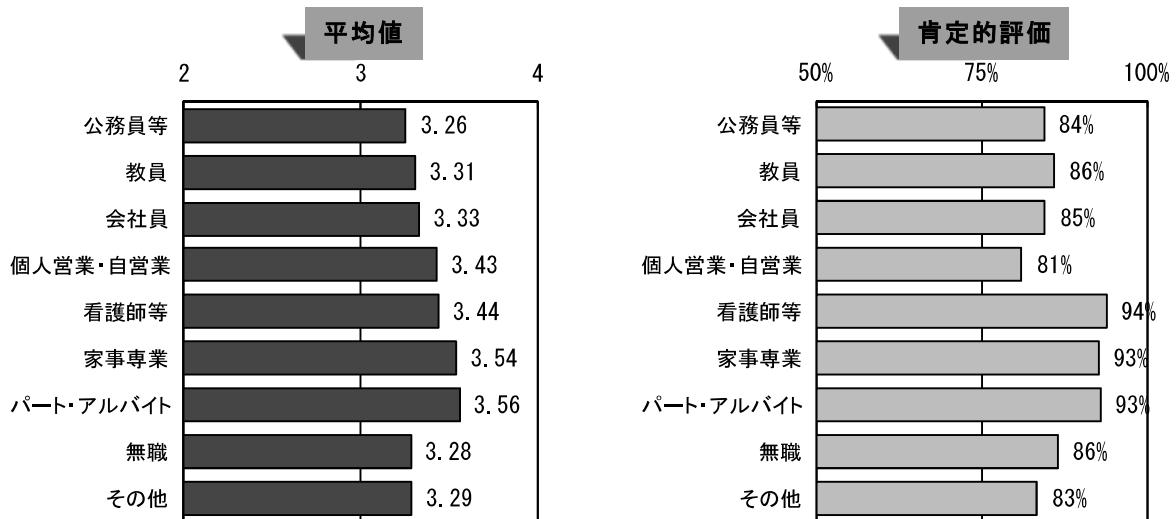
(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)

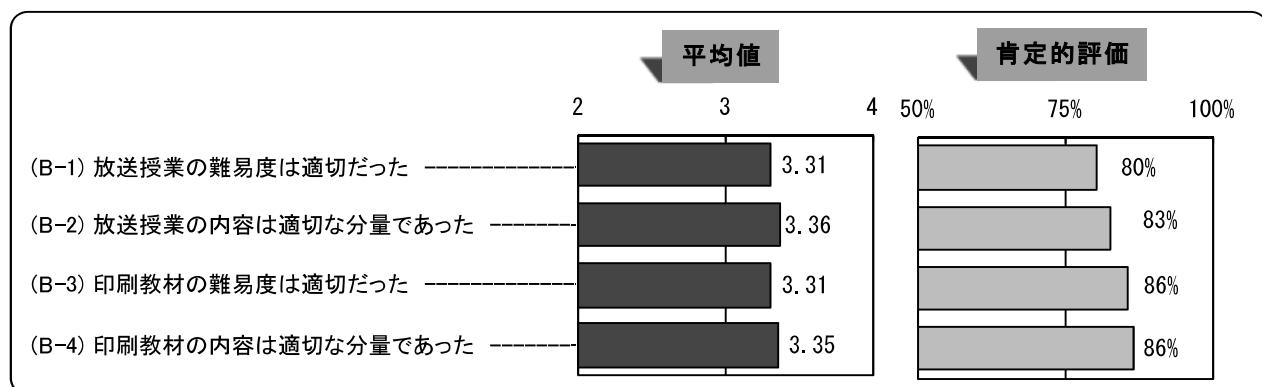


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

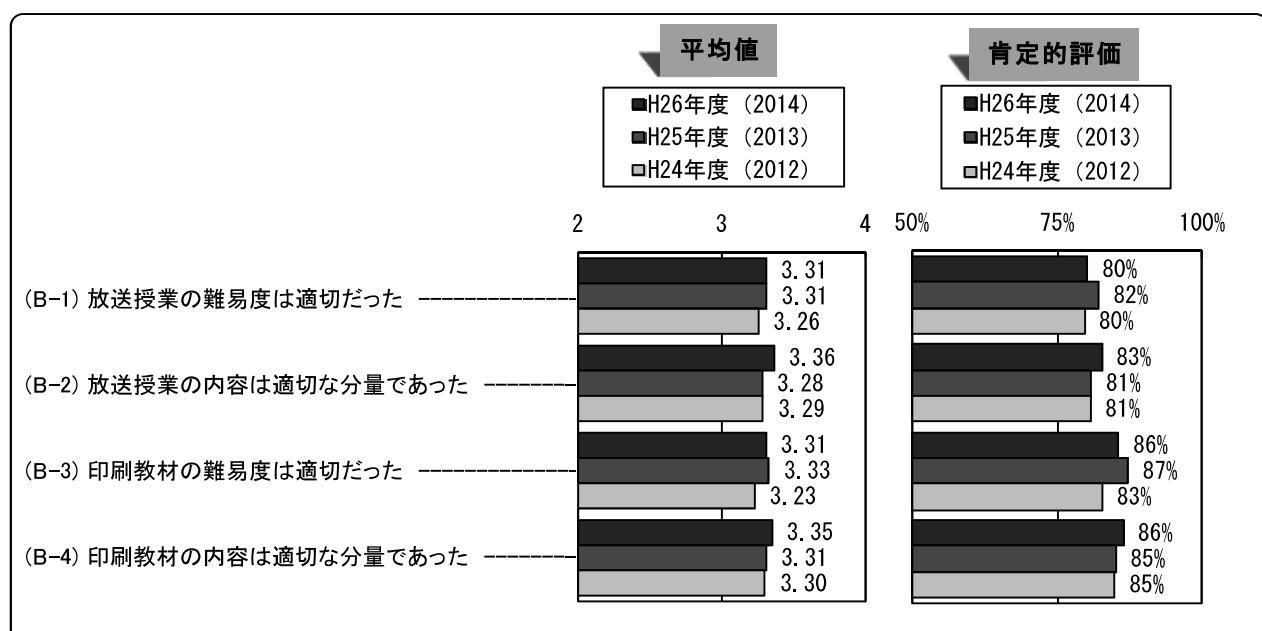
授業の難易度・分量の評価は(図2-69)、いずれも高い評価となっている。ただし、印刷教材に比べ、放送授業は肯定的評価において難易度・分量ともやや低い。

図2-69【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



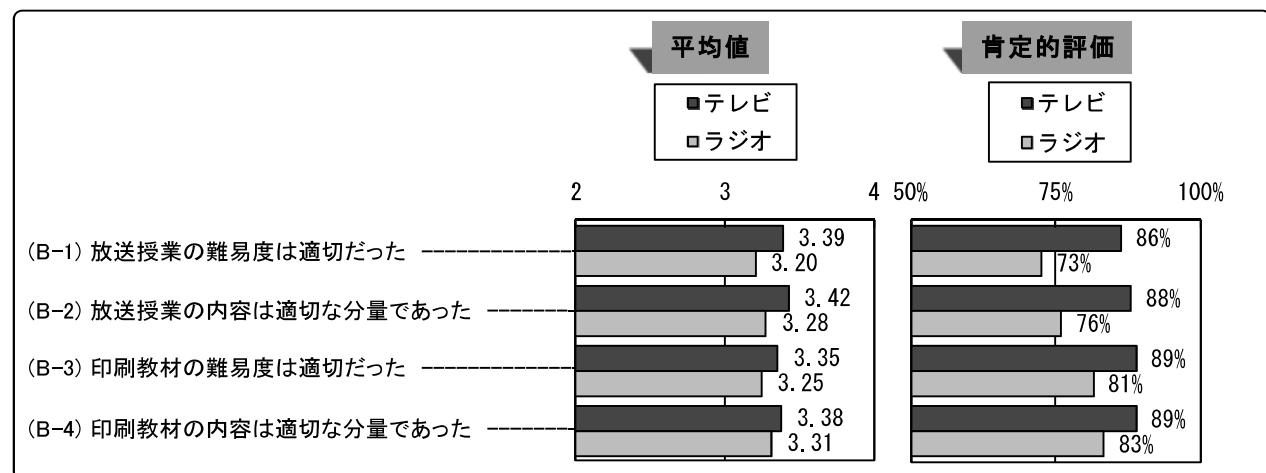
授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると(図2-70)、いずれの項目でも2013年度と同程度の水準を保っている。

図2-70【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると(図2-71)、全体的にテレビ科目に比べてラジオ科目の評価が低くなっている。

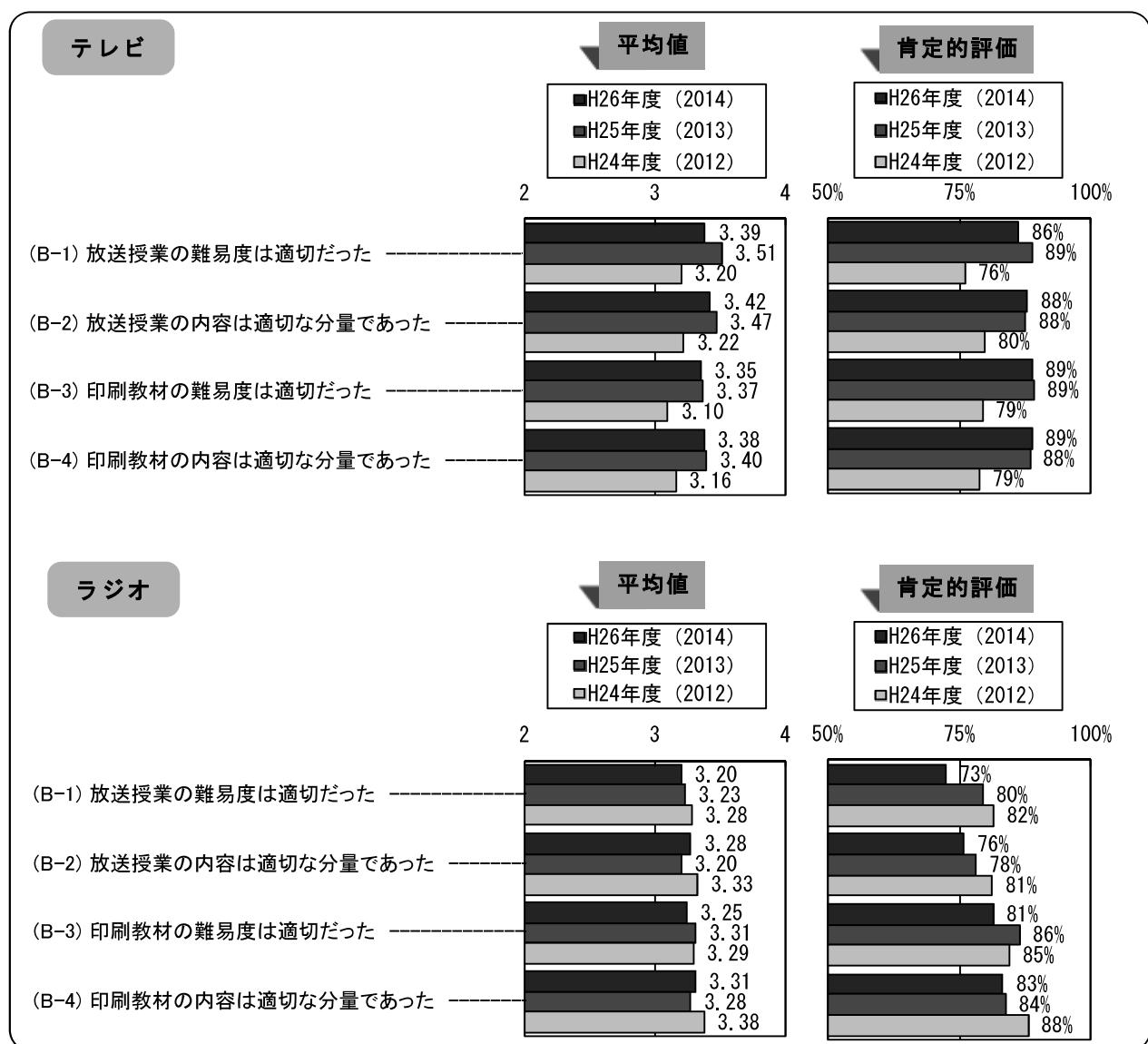
図2-71【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-72)、テレビ科目はまずますの高い水準ではあるが、(B-1)「放送教材の難易度は適切だった」、(B-2)「放送教材の内容は適切な分量だった」で2013年度より平均値が低くなっているのが注目される。

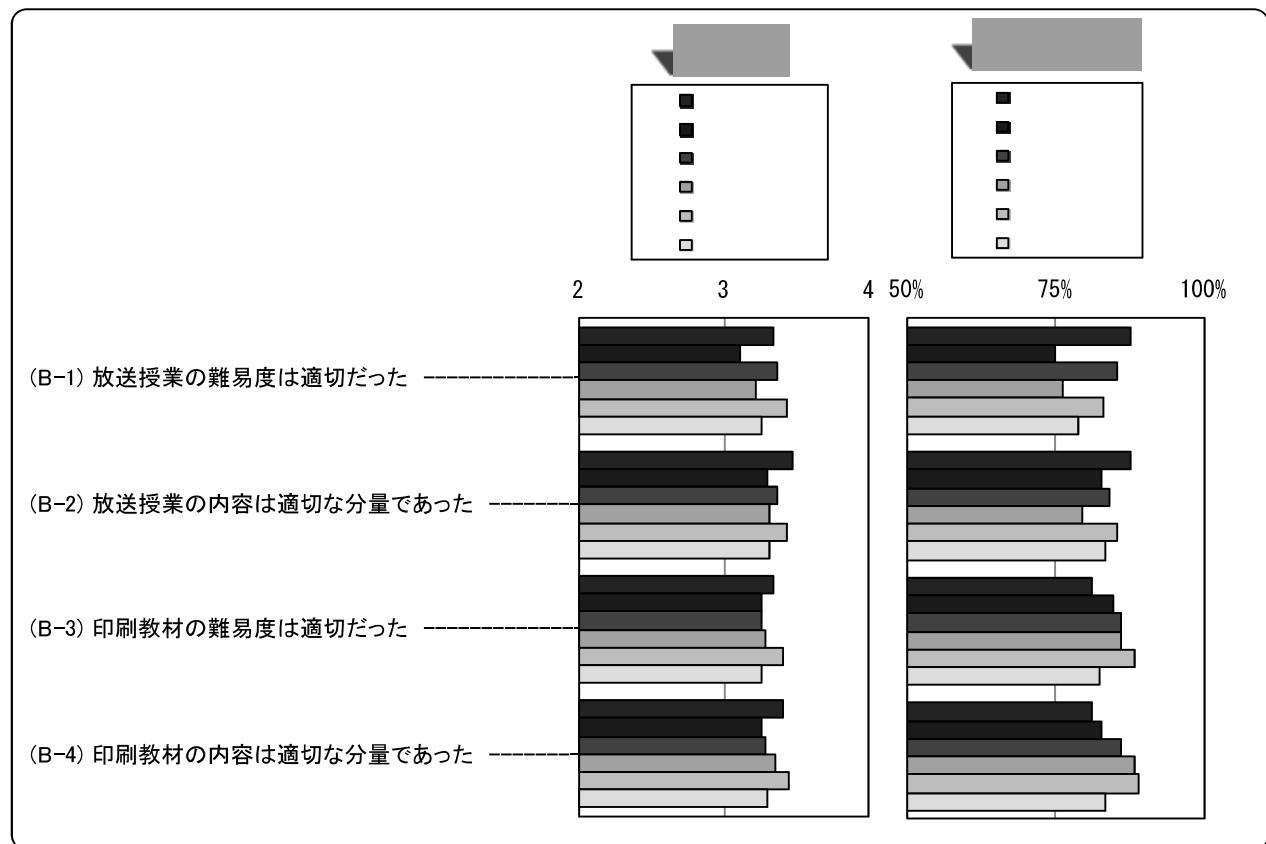
ラジオ科目は全ての項目の評価が前年度より低いが、(B-1)「放送教材の難易度は適切だった」、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」の肯定的評価の落ち込みが特に大きい原因を精査すべきであろう。

図2-72【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-73）、放送授業の難易度が30歳代、50歳代、70歳以上で低くなっているのが特徴的である。

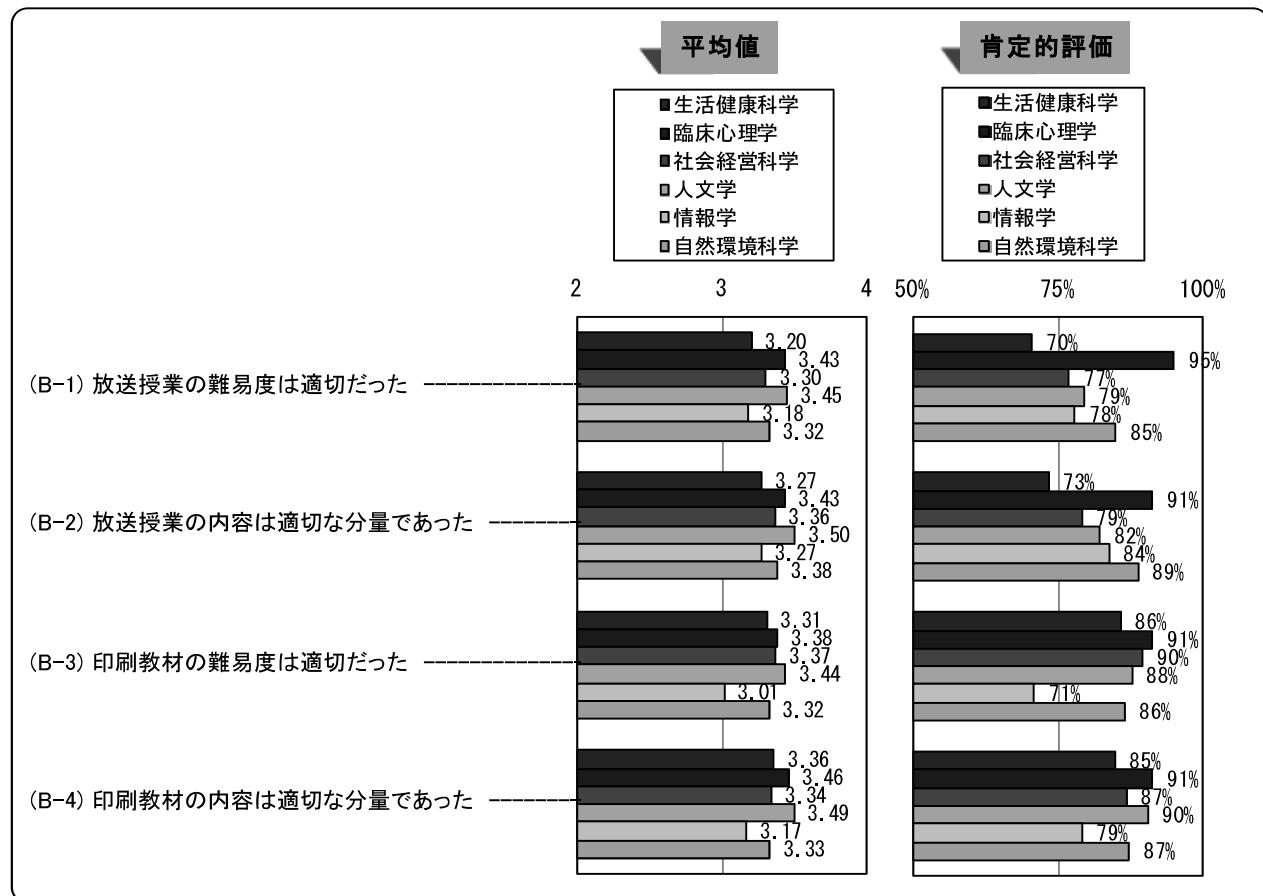
図2-73 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図2-74）、「臨床心理学」が肯定的評価においてはいずれの項目も90%以上と突出して高い。

放送授業では難易度・分量ともに「情報学」の評価がいずれの項目でも低い。

図2-74 【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価

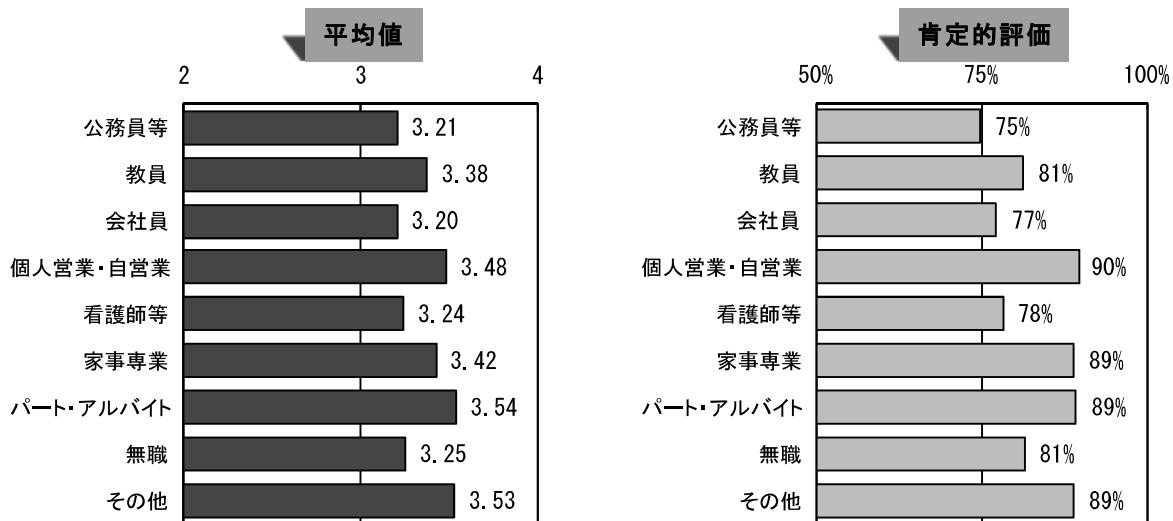


職業別に授業の難易度を見ると（次頁図2-75）、他の職業に比べて「個人営業・自営業」、「パート・アルバイト」で放送授業、印刷教材とともに難易度の評価が高くなっている。

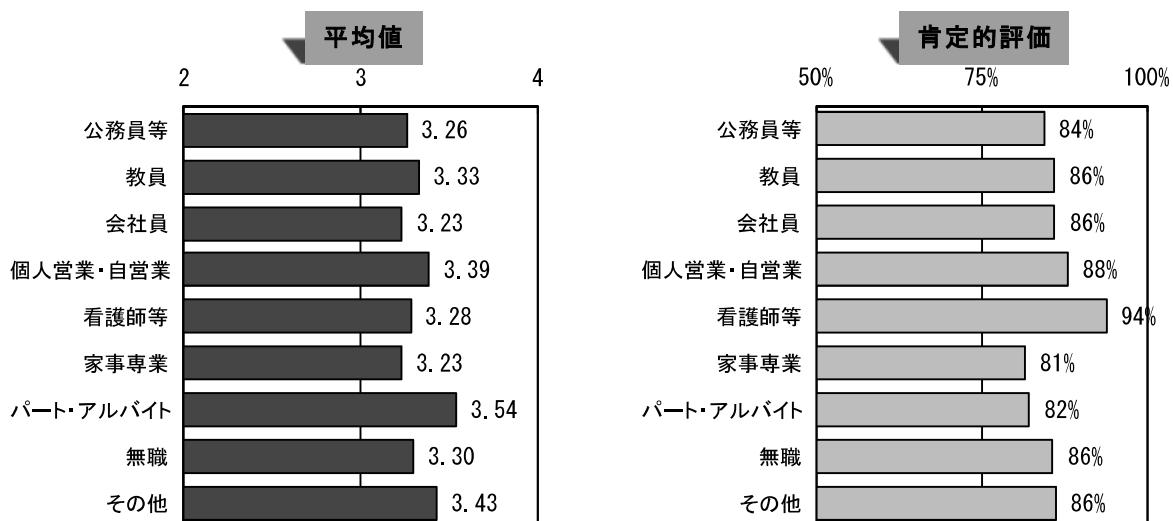
また、印刷教材の難易度について「看護師等」の評価が極めて高いのも注目される。

図2-75 【大学院】職業別の授業難易度の評価

(B-1)放送授業の難易度は適切だった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった

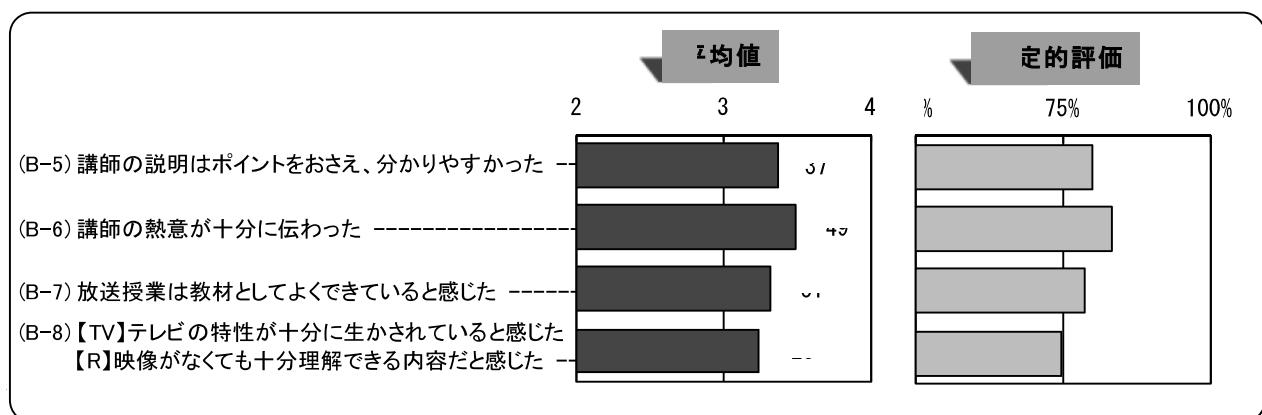


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

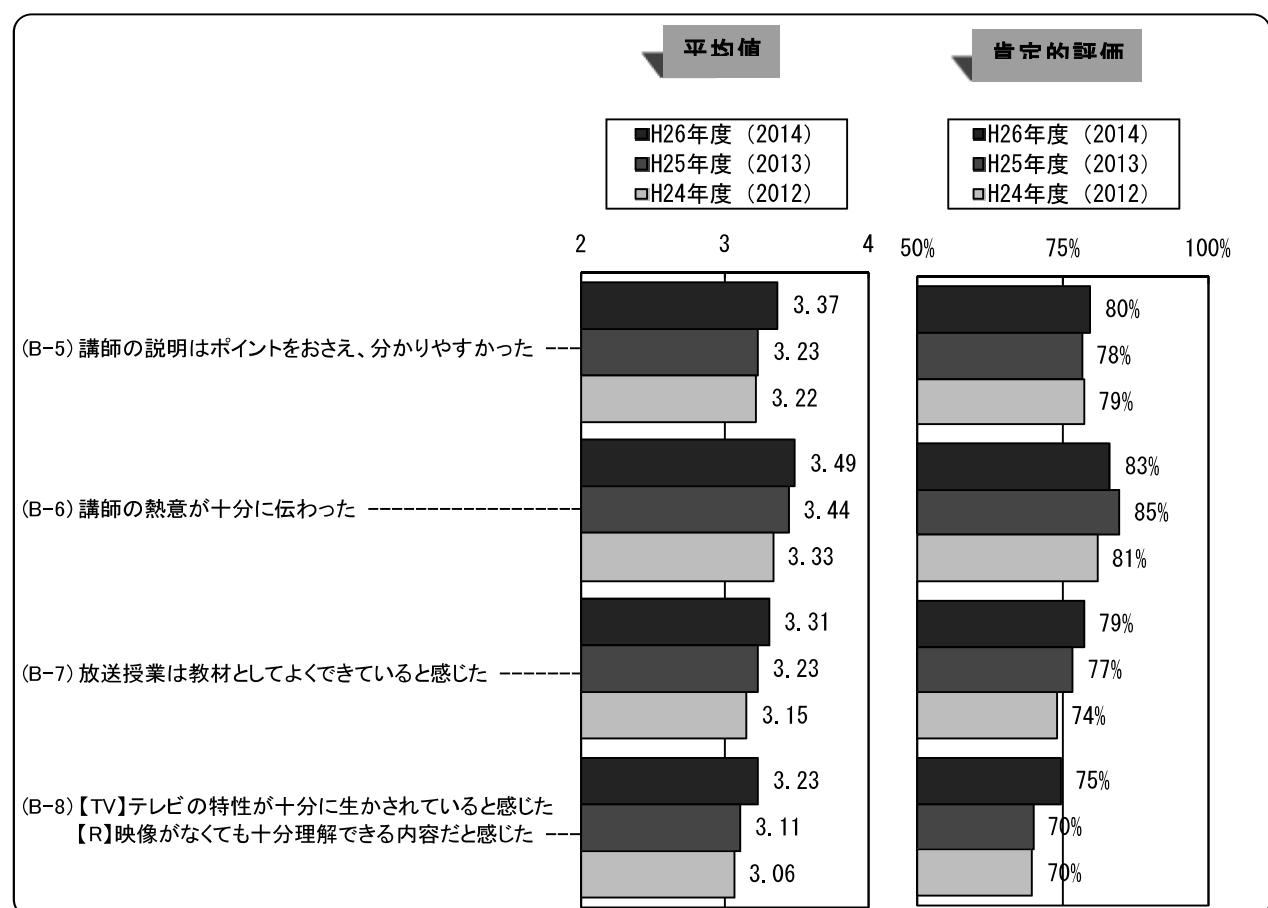
放送授業に関する評価項目を見ると(図 2-7-6)、放送授業の総合評価でもある(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.31、肯定的評価 79% と比較的高くなっている。また (B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が最も評価が高く、平均値 3.49、肯定的評価 83% となっており、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」も平均値 3.37、肯定的評価 80% とやや高くなっている。一方、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 3.23、肯定的評価 75% に留まっている。

図 2-7-6 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



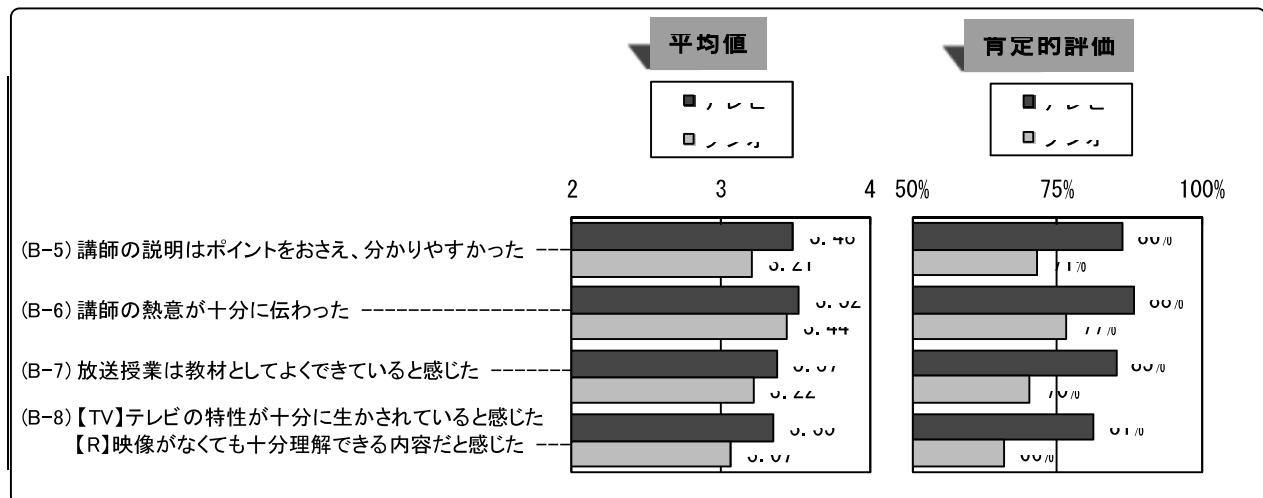
放送授業の評価を時系列で見ると(図2-77)、今年度の調査ではほぼ全ての項目で評価が上がっている。(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の肯定的評価はわずかに低くなっているが、平均値では高くなっている、ほぼ同じ評価を保っていると言える。全体的に改善の試みが反映されていると言える。

図2-77【大学院】回答者全体の放送授業の評価(時系列)



メディア別に放送授業の評価を見ると(図2-78)、テレビ科目はいずれの項目も高い評価を得ているものの、ラジオ科目はテレビ科目に比べ、全体的に評価が低く、放送授業全体を改善するには、まずラジオ科目の改善が必須と言える。

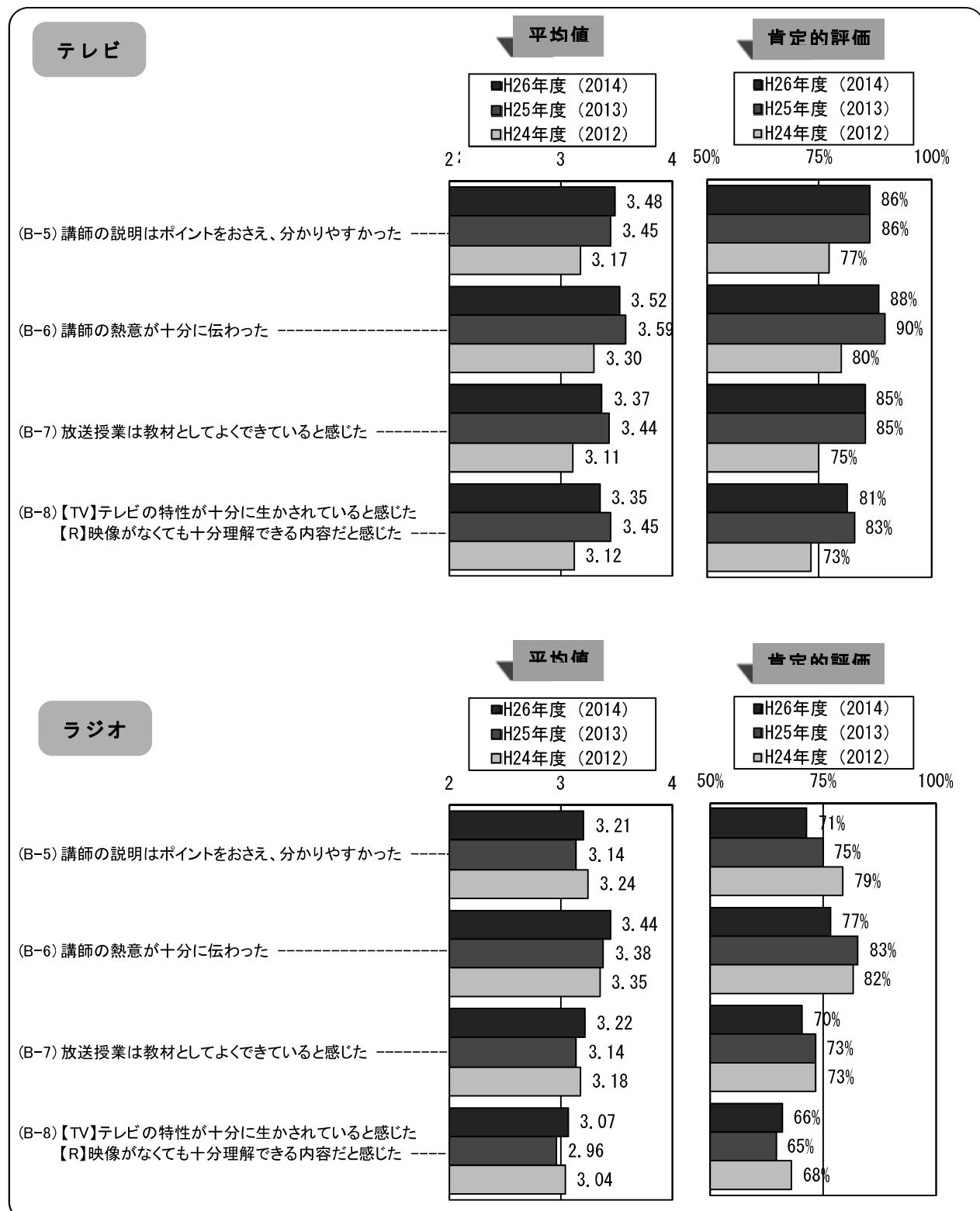
図2-78【大学院】メディア別の放送授業の評価



メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると(次頁図2-79)、テレビ科目は全体的に2013年度と比べてほぼ同じ水準を保っている。

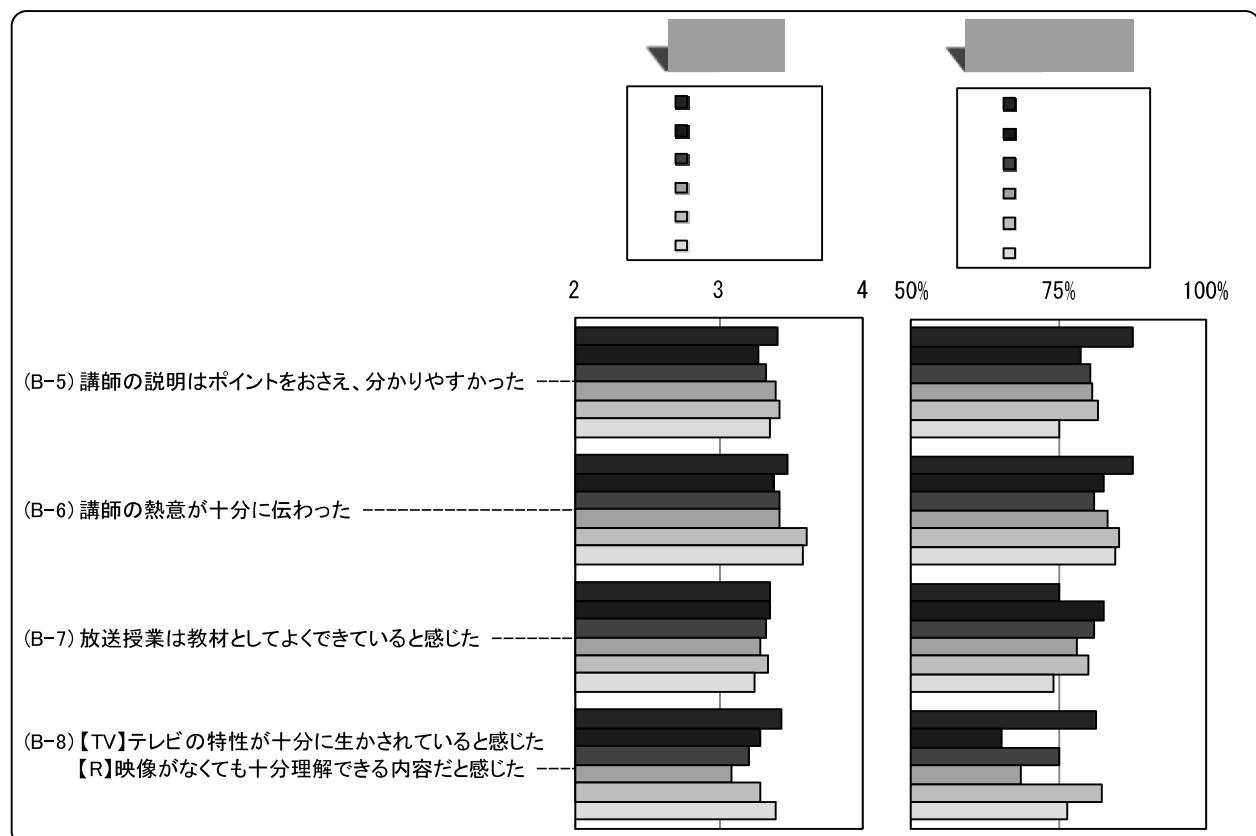
ラジオ科目については、平均値においてはいずれの項目でも2013年度よりも高くなっているが、肯定的評価では、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」を除いた項目では低くなっている。

図2-79 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-80）、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」で30歳代、50歳代の肯定的評価が際だって低い。20歳代はほとんどの項目で評価が高いが、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」の肯定的評価では他の項目に比べ低い。

図2-80 【大学院】年齢階層別の放送授業の評価

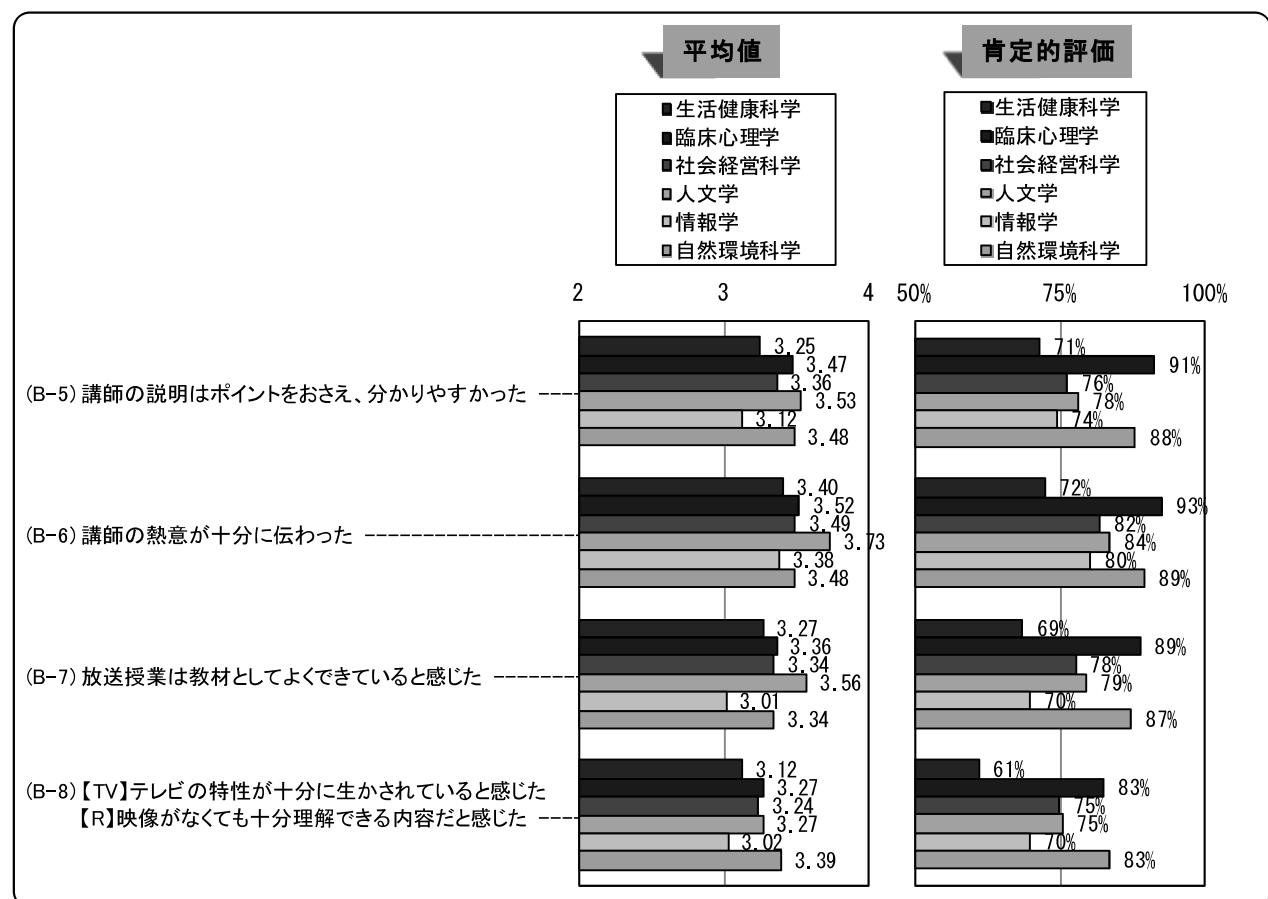


所属プログラム別に放送授業の評価を見ると（図2-81）、総合評価の（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」を含め、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」とともに、「臨床心理学」「自然環境科学」「人文学」の3プログラムの評価が高い。

（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、「臨床心理学」「自然環境科学」の評価が高い。

「生活健康科学」「情報学」では概ね評価が低く、改善が求められる。

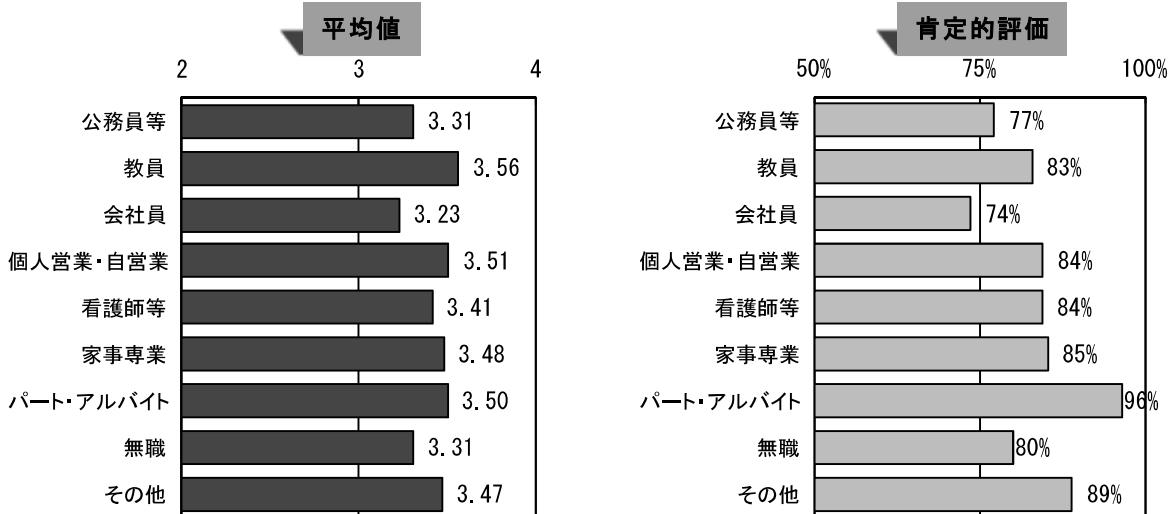
図2-81【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



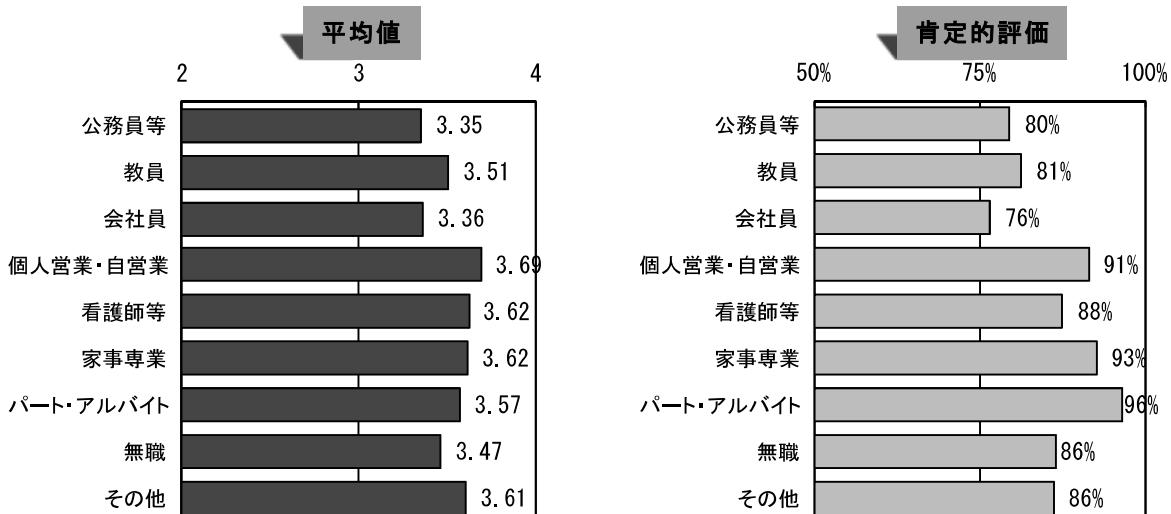
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2-82）、いずれの項目でも「会社員」、「公務員等」の評価が低い。また（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では「パート・アルバイト」の肯定的評価が非常に高い。

図2-82 【大学院】職業別の放送授業の評価

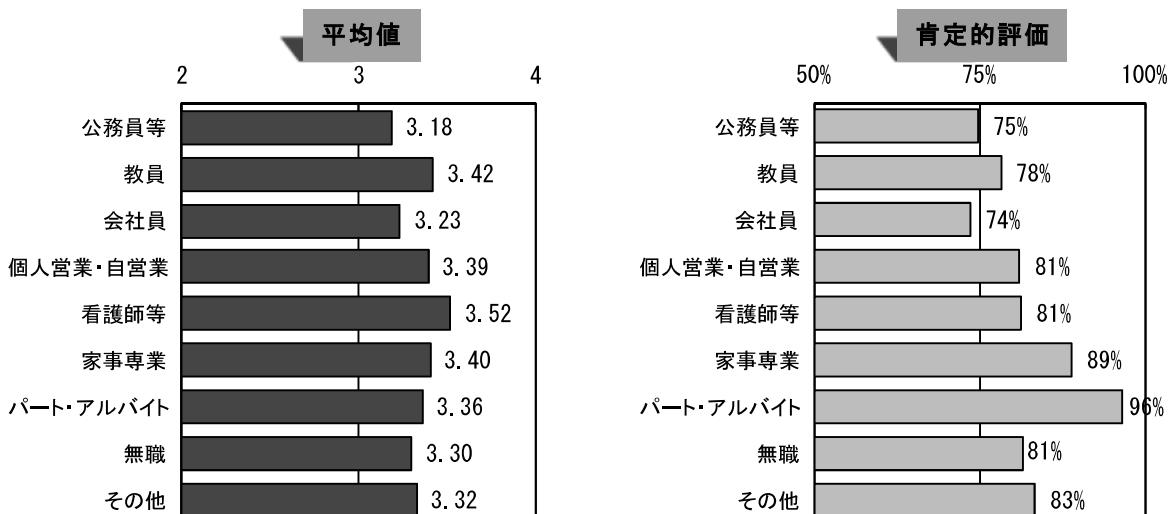
(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6)講師の熱意が十分に伝わった



(B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた

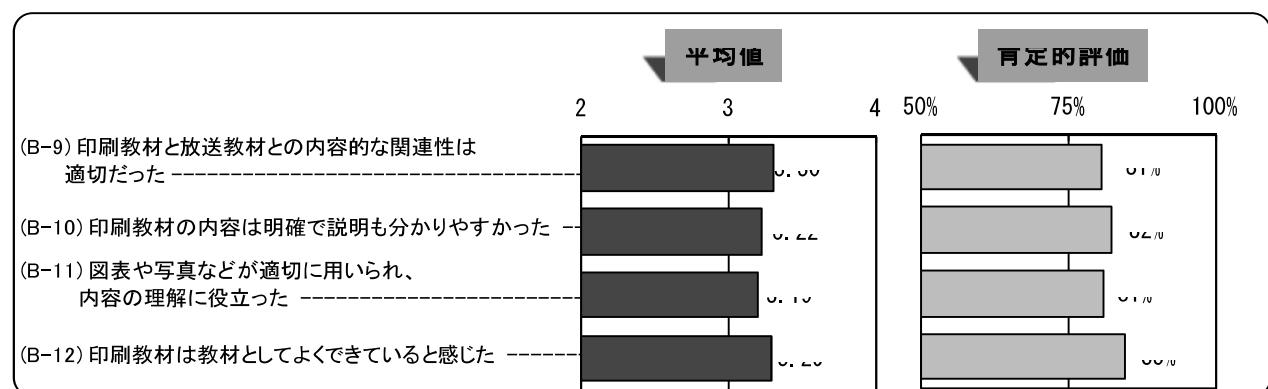


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

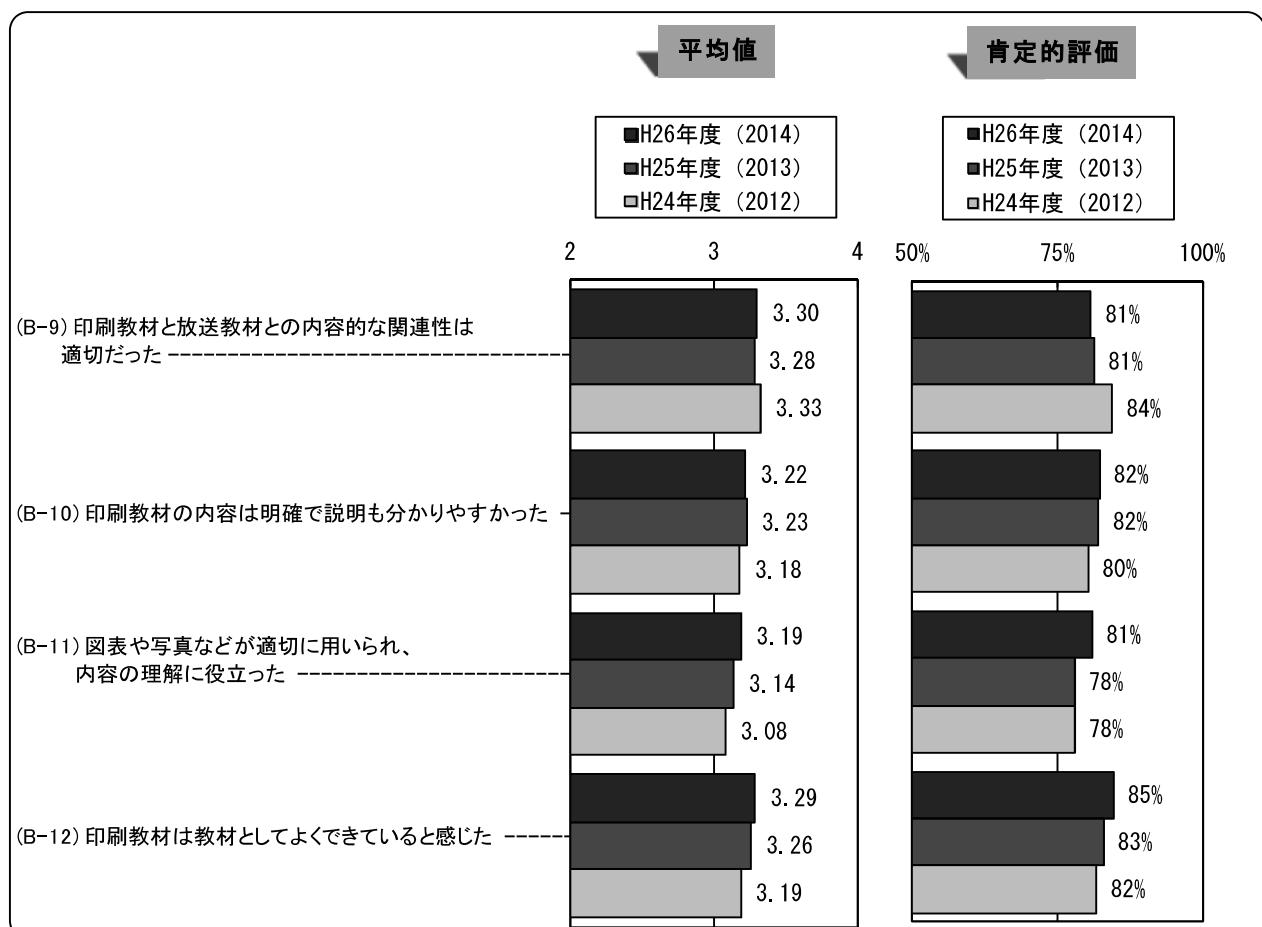
印刷教材の評価項目では(図2-83)、いずれも高い評価を得ている。総合評価としての(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は平均値3.30、肯定的評価81%と高くなっている。

図2-83 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



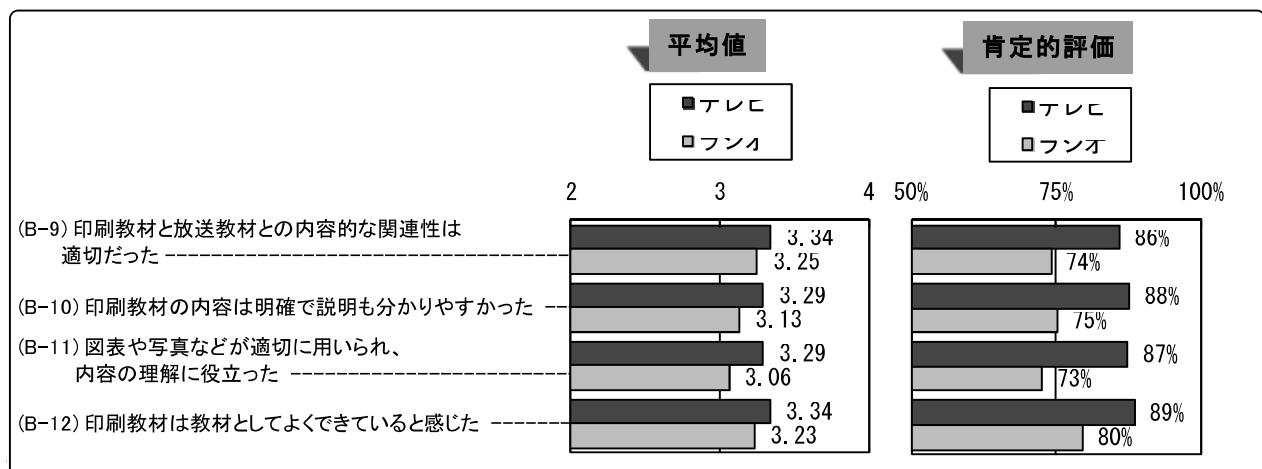
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-84）、（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」ではほぼ同じ水準の評価を保ち、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」、（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では平均値・肯定的評価ともに2013年新規開設科目評価に比べて高くなっている。

図2-84 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると(図2-85)、いずれの項目についてもテレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価が低くなっている。(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の項目がラジオでは特に低いため、映像のないラジオの放送授業を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを活用することが必要であろう。

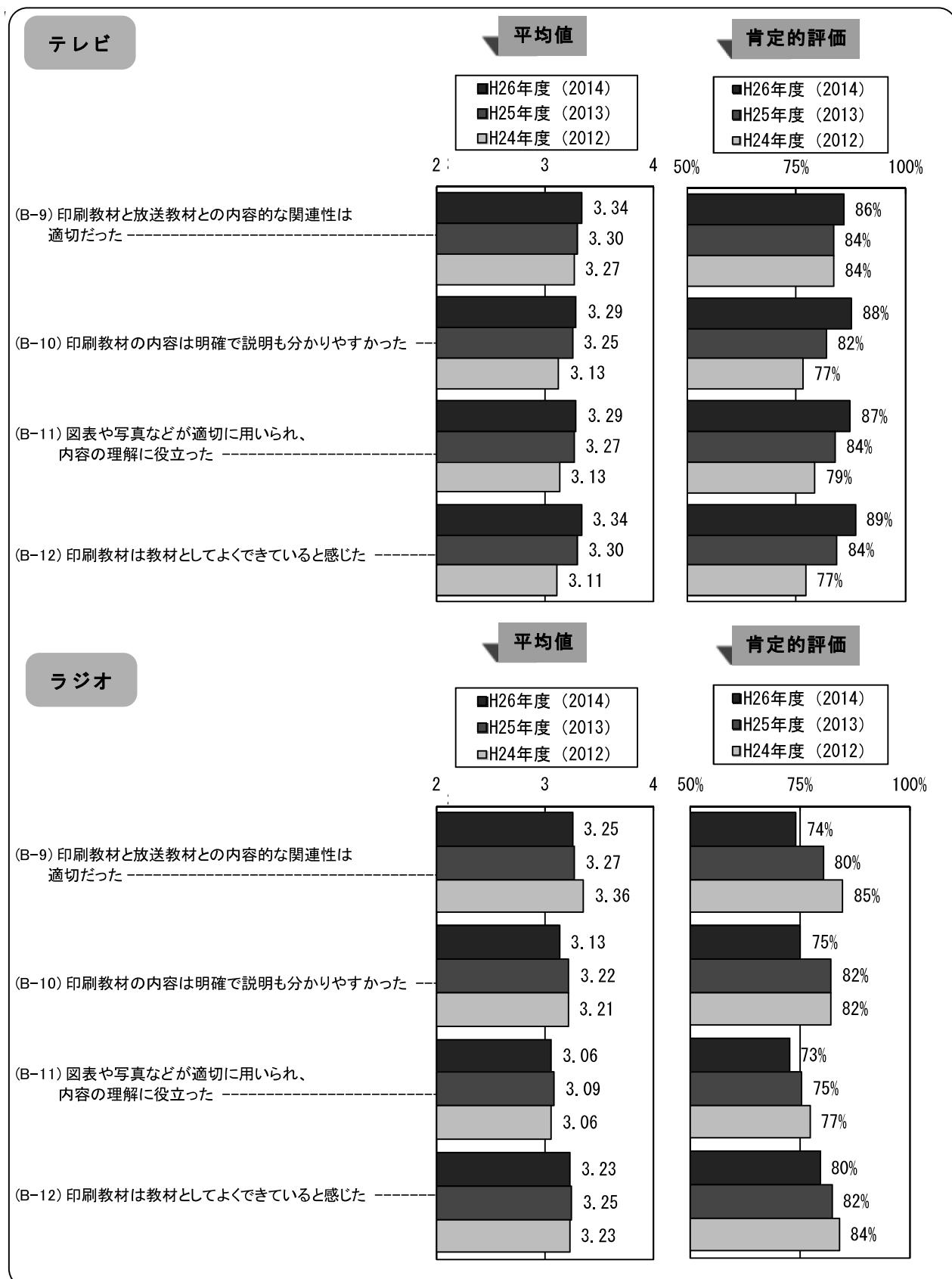
図2-85【大学院】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると(次頁図2-86)、テレビ科目については、2013年新規開設科目よりも全ての項目において高くなる傾向である。

ラジオ科目については、今年度調査(2014年新規開設科目)において全ての項目で低下する傾向にある。

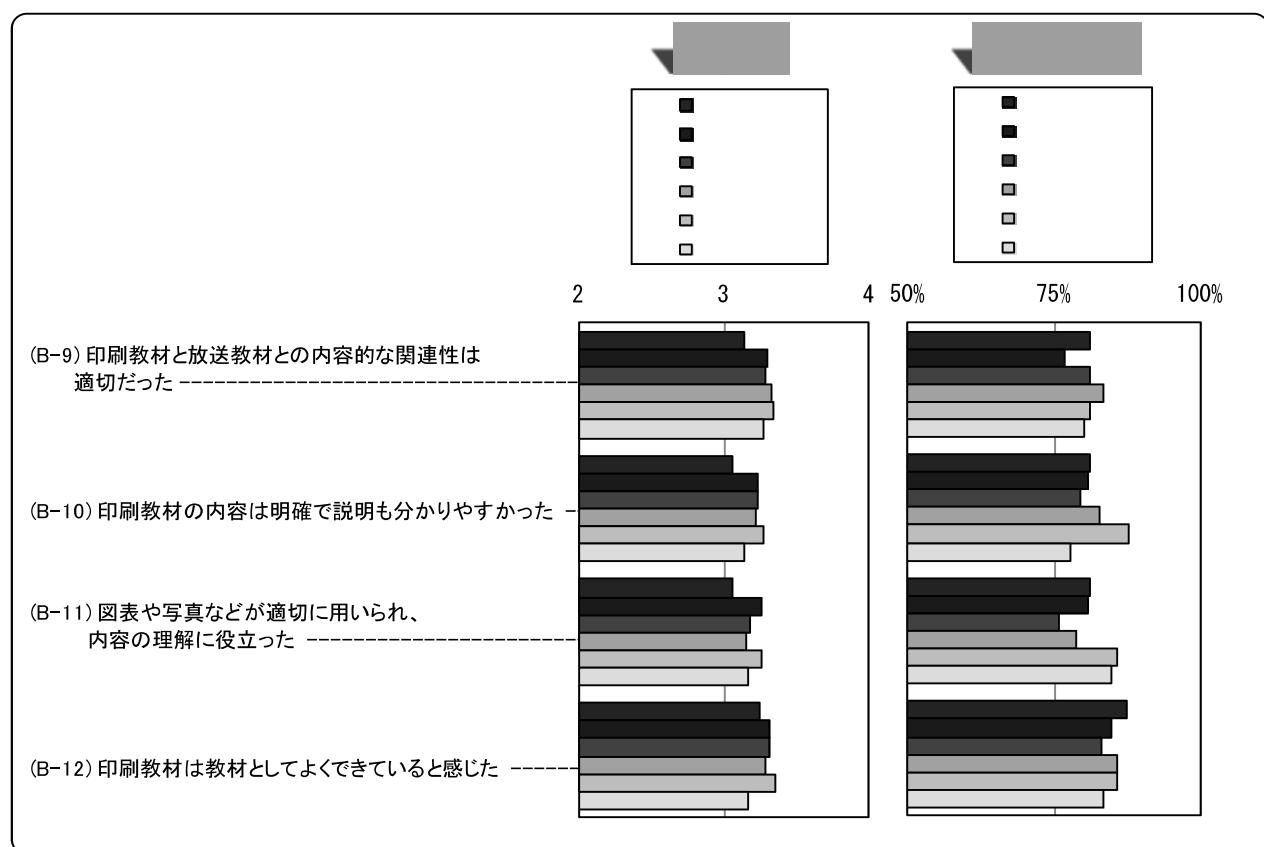
図2-86 【大学院】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図2-87)、全体として高い値となっており、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では30歳代の評価がやや低く、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」では40歳代の評価が低い。

しかしながら、全体的には高い水準の評価である。

図2-87【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価

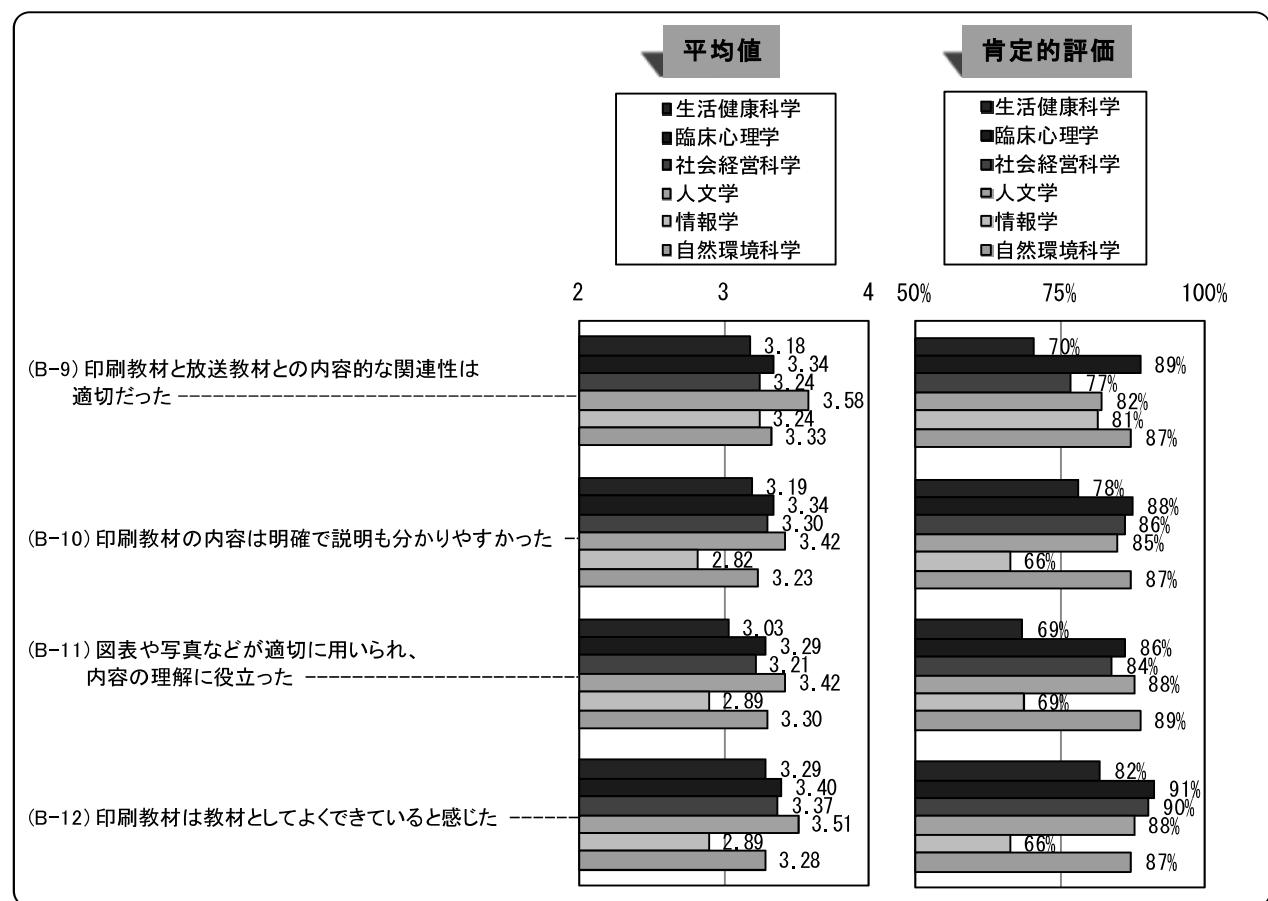


所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると（図2-88）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「臨床心理学」、「社会経営科学」、「人文学」の評価が高い。

ほとんどのプログラムで高い評価がつく一方で、「情報学」の評価の低さは際立っている。

「情報学」は（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の評価が極めて低く、それが総合的な評価につながったと考えられる。

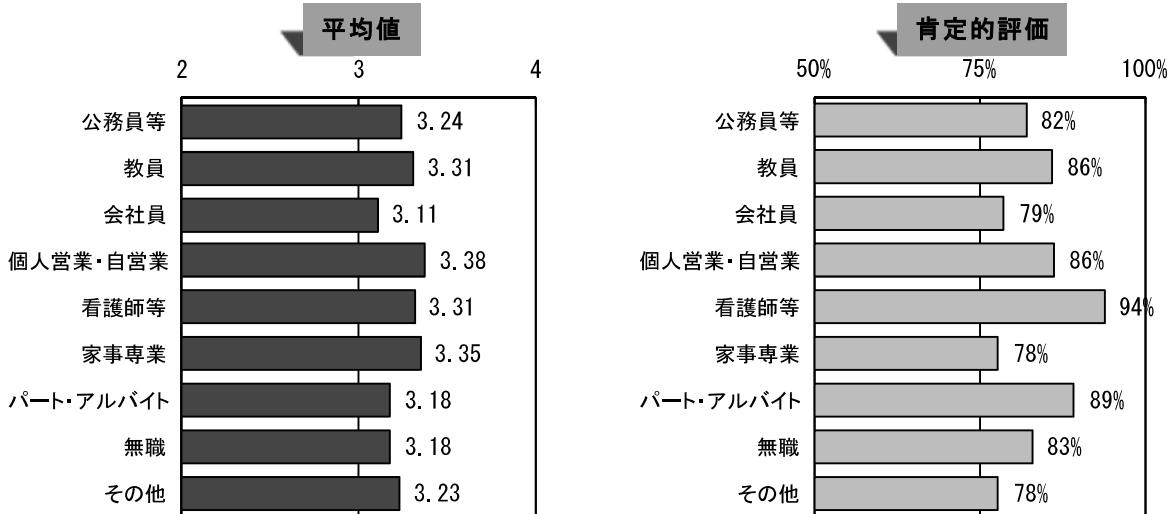
図2-88【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



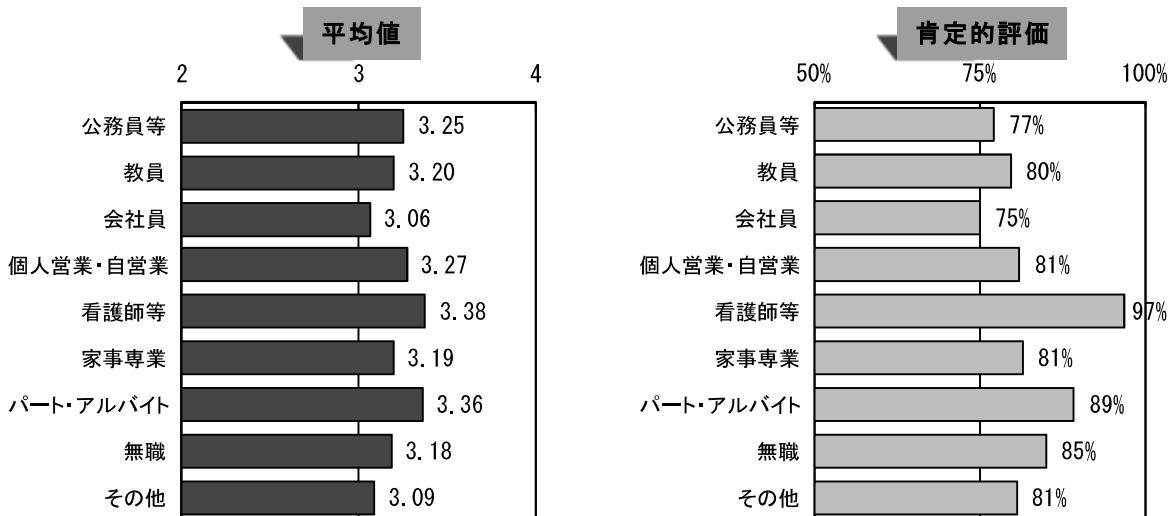
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-89）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、全体的に評価が高い。「看護師等」では全ての項目でことごとく評価が高い。一方、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の評価では「会社員」が他の職業に比べ低い評価となっている。

図2-89【大学院】職業別の印刷教材の評価

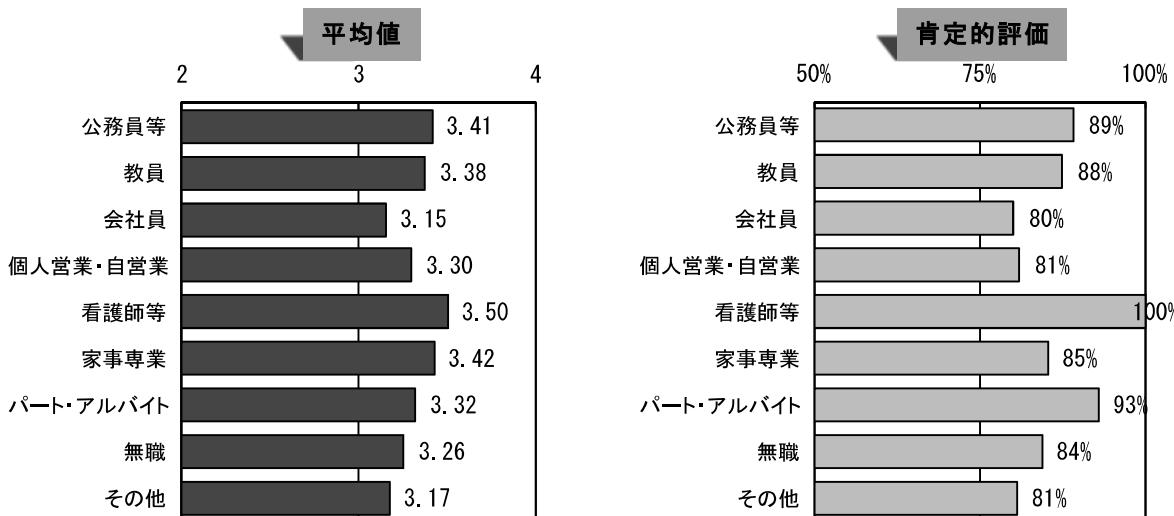
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



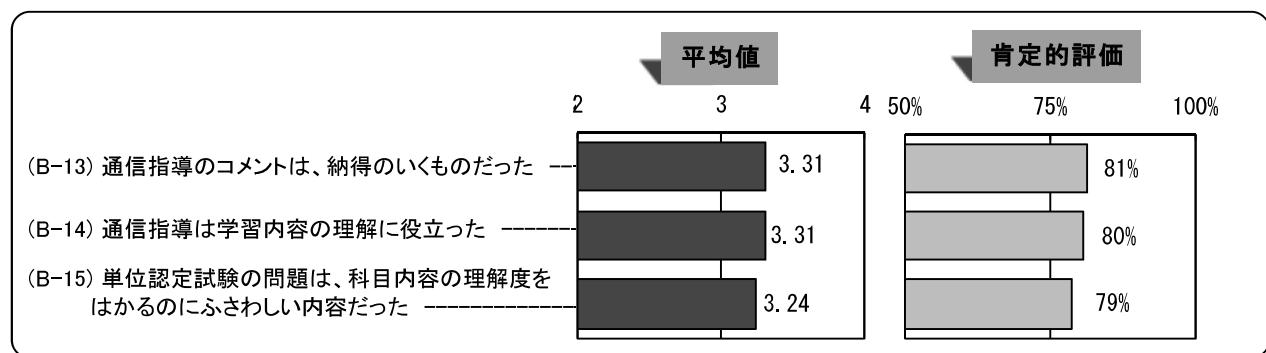
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については（図2-90）、（B-13）「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値3.31、肯定的評価81%、（B-14）「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値3.31、肯定的評価80%と、いずれも高い評価を得ている。

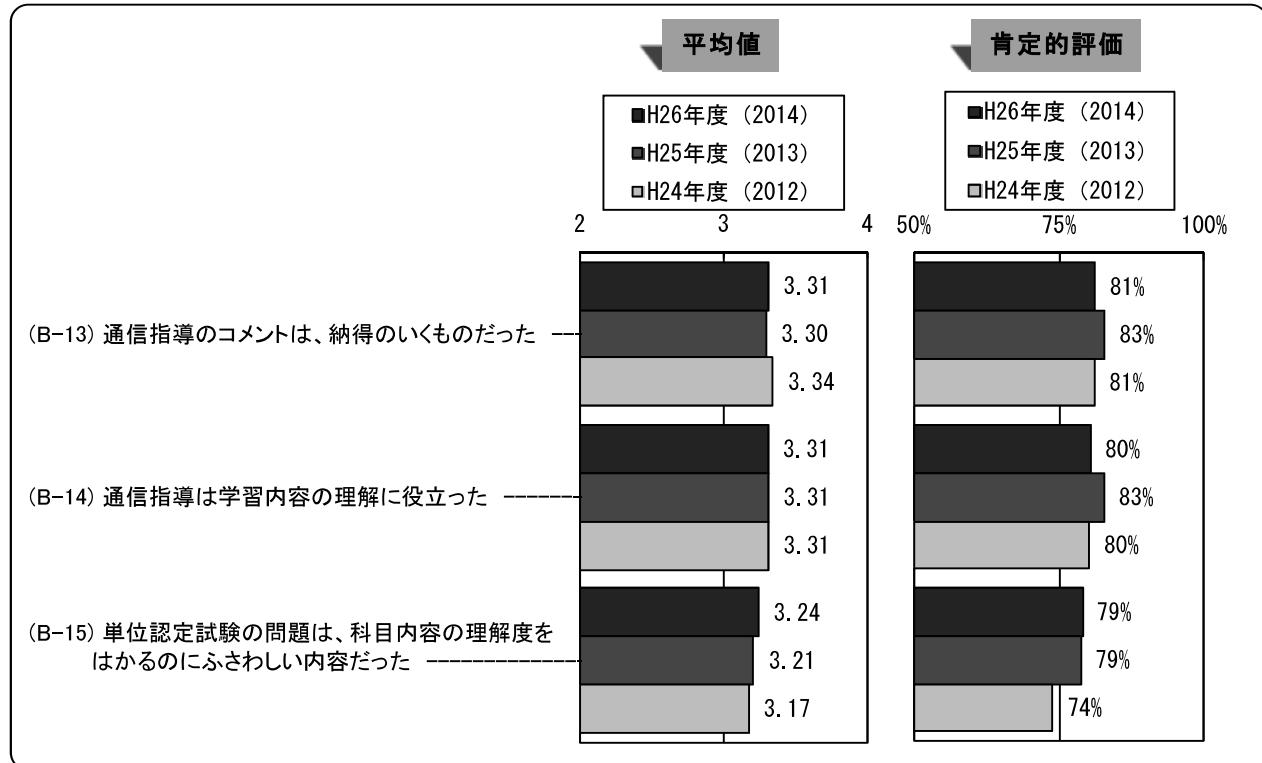
単位認定試験についても（B-15）「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値3.24、肯定的評価79%と比較的評価が高い。

図2-90 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（次頁図2-91）、2014年新規開設科目は2013年新規開設科目に比べてほぼ同程度の水準を維持している。

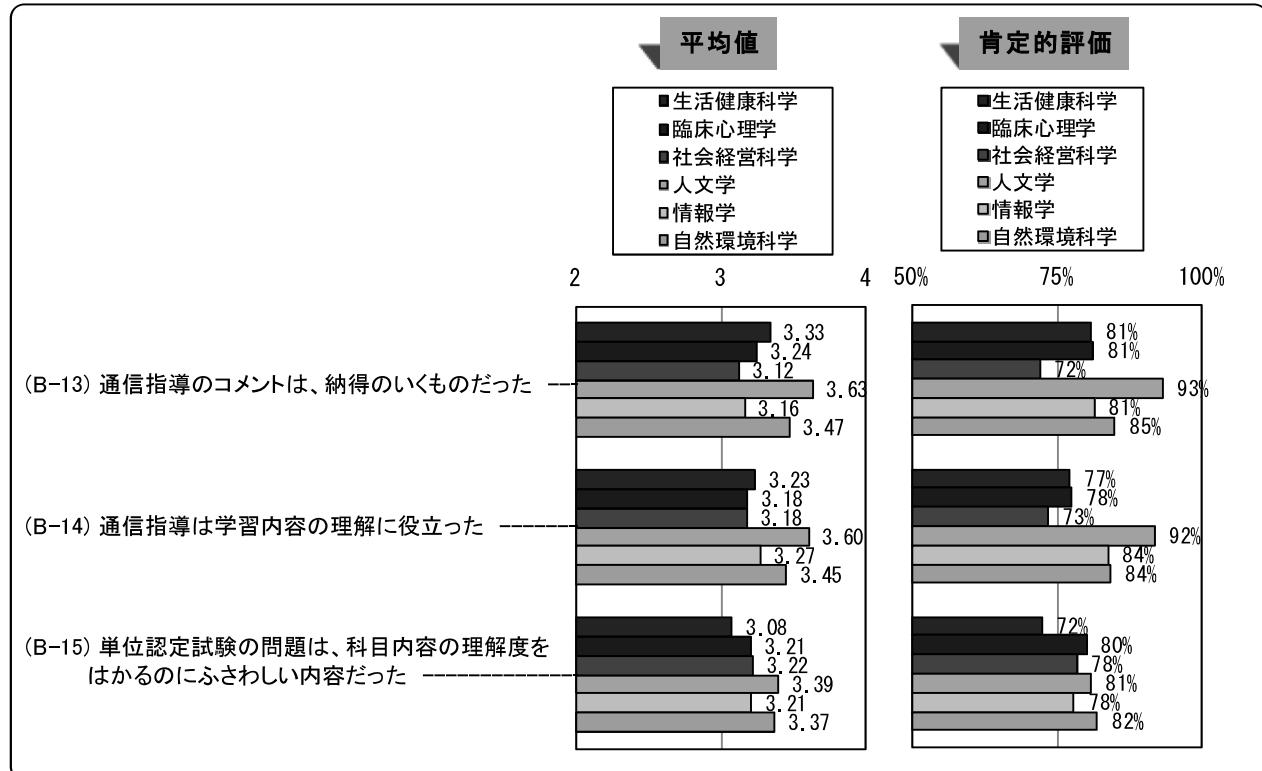
図 2-9-1 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図 2-9-2）、通信指導は、「人文学」で評価が高く、「社会経営科学」ではやや低い。

単位認定試験においては、「生活健康科学」の評価が低い。

図 2-9-2 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



## II-2-4. 参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、巻末資料を参照されたい）。

表2-7は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）及び（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数である。

表2-7 【大学院】放送授業と各項目との相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.349
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.381	0.578
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.363	0.608
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.378	0.775
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.415	0.719
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.349	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.343	0.619

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は全体としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は0.349と、やや相関は見られるものの、決して強くはない。

また（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と放送授業の各評価項目の間では、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」の相関係数が0.415ある程度の相関を示しており、放送授業の取組姿勢にある程度の影響を与えてることがわかる。

一方、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られ、特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数0.775、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数0.719と、強い相関を示している。したがって、総合評価を高める上では、学部と同様、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢) 及び (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価) の相関係数を見たのが表 2-8 である。

表 2-8 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.297
(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.336	0.643
(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.334	0.607
(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.261	0.638
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.292	0.814
(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.308	0.746
(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.297	1.000

まず (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢) と、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価) および印刷教材の各評価項目との間には、あまり相関は見られない。取組姿勢に対する自己評価では、授業・教材に対する評価はあまり表れていない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価) と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数 0.814、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が 0.746 と強い相関を示している。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善すると同時に、特に説明の分かりやすさと図表や写真の有効利用に注力することが重要と言える。

続けて (A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び (B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表 2-9 である。

表2-9 【大学院】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.478	0.457
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.586	0.306	0.322
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.712	0.375	0.358
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.399	0.519	0.548
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.339	0.524	0.559
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.388	0.549	0.579
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.340	0.523	0.552
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.337	0.597	0.668
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.382	0.521	0.625
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.342	0.552	0.686
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.325	0.482	0.554
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.382	0.497	0.544
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.324	0.588	0.642
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.329	0.554	0.605
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.346	0.598	0.675
通信指導・認定試験・単位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.154	0.356	0.432
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.225	0.451	0.526
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.251	0.400	0.497
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.343	0.493	0.610
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.471	0.668	0.803
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0.424	0.623	0.730
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.478	1.000	0.740
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.457	0.740	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と全体評価の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度と理解度は 0.478、熱心度と満足度は 0.457 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間には緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.740 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1) 「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.712 と強い相関が見られるが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は相関係数 0.586 となっており、印刷教材中心の学習実態がうかがえる。さらに全体評価の各評価項目とも緩やかな相関が見られる。

(B-19) 「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」以外の各評価項目と相関が見られる。理解度は、放送授業や印刷教材の難易度・分かりやすさ、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につき視野が広がるものであったかどうかなど、さまざまな項目が要因となっている状況がうかがえる一方、取組姿勢とはあまり密接な関連は見られない。

(B-20) 「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」である。科目の満足度を高める上で、印刷教材の分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが特に重要なポイントと言える。

また、学部で行った分析と同様の方法で放送授業、印刷教材の改善点の分析を試みる。

(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」を基準に、この項目に対して 1、2 の評価を下した標本を母集団に各項目との相関係数を求めたのが次頁の表 2-10 である。

表2－10 【大学院】放送授業と各項目との相関係数

	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)	
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.113
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.147
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.121
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.367
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.386
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.404
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.310
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.569
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.400
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	1.000
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.458
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.424
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.489
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.357
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.599
認定試験・単位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.367
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.249
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.372
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.403
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.401
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0.434
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.406
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.509

(B-5) 「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」との相関が強い、ということは放送授業に対する低い評価の大きな改善点がこの項目であることを示唆している。また、放送授業とは別の印刷教材に対する相関も高いことから、印刷教材に対する否定的回答も放送授業の評価を下げる要因となっていることがうかがえる。

自由記述では、放送授業と印刷教材との整合性に対する改善要望が散見された。結果を精査し、改善に生かすべきと考える。

最後に、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」に対して 1、2 の評価を下した標本を母集団として同様に分析したものが次頁表 2-1-1 である。

表2-11 【大学院】印刷教材と各項目との相関係数

	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできている と感じた。 (評価1または2)	
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度) (A-2) 放送授業を十分に視聴した (A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.245 0.244 0.149
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった (B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった (B-3) 印刷教材の難易度は適切だった (B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.523 0.429 0.573 0.327
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった (B-6) 講師の熱意が十分に伝わった (B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた (B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.648 0.490 0.709 0.508
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった (B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった (B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った (B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.433 0.593 0.345 1.000
認定試験・単位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった (B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った (B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.163 0.217 0.247
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った (B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった (B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった (B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度) (B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.467 0.467 0.405 0.511 0.579

この結果から、印刷教材に対して低い評価を下す標本は、放送授業に対しても否定的評価を下す傾向にあるということがわかる。

放送授業に対して否定的評価を下す人々にとって、印刷教材の理解に放送授業が効果的な成果を伴っていないことがうかがえる。